

2020 年度（令和 2 年度）

学生による授業評価アンケート
実施報告書

福山大学大学教育センター
教育開発部門

目次

はじめに	- 1 -
1. 【前期】遠隔授業アンケート	- 3 -
1-1. アンケート調査の目的	- 3 -
1-2. アンケート調査の概要	- 3 -
1-3. アンケート調査結果	- 9 -
1-3-1. インターネット環境アンケート【全学】	- 9 -
1-3-2. インターネット環境アンケート【学科別】	- 17 -
1-3-3. 科目別遠隔授業アンケート	- 22 -
1-4. 令和2年度（前期）遠隔授業アンケート総括	- 28 -
1-5 令和2年度（前期）遠隔授業アンケート実施科目一覧	- 29 -
2. 【後期】授業評価アンケート	- 34 -
2-1. アンケート調査の目的	- 34 -
2-2. アンケート調査の概要	- 34 -
2-3. 全学、学部・センターのアンケート調査結果	- 38 -
2-3-1. 全学、学部・センターの集計結果一覧（表1：質問1～7、表2：質問8～14）	- 38 -
2-3-2. アンケート回答率について	- 40 -
2-3-3. 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）	- 40 -
① 【質問1】授業準備について	- 40 -
② 【質問2】話し方について	- 41 -
③ 【質問3】授業の計画性について	- 42 -
④ 【質問4】授業時間について	- 43 -
⑤ 【質問5】講義の工夫について	- 44 -
⑥ 【質問6】質問への誠意について	- 45 -
⑦ 【質問7】講義の満足度について	- 46 -
2-3-4. 調査結果の内容（学生の自己点検について）	- 47 -
① 【質問8】関連学習について	- 47 -
② 【質問9】集中力について	- 48 -
③ 【質問10】出席状況について	- 49 -
④ 【質問11】知識の深まりについて	- 50 -
⑤ 【質問12】質問への積極性について	- 51 -
⑥ 【質問13】意欲の高まりについて	- 52 -
⑦ 【質問14】学修の成果について	- 53 -
2-4. 全学、学部・センターの全体総括	- 54 -

2-5. 学科・センターの授業評価アンケート結果	- 55 -
2-6. 学科、センターの総括	- 56 -
① 経済学部経済学科	- 57 -
② 経済学部国際経済学科	- 63 -
④ 人間文化学部人間文化学科	- 72 -
⑤ 人間文化学部心理学科	- 77 -
⑥ 人間文化学部メディア・映像学科	- 80 -
⑦ 工学部スマートシステム学科	- 86 -
⑧ 工学部建築学科	- 89 -
⑨ 工学部情報工学科	- 94 -
⑩ 工学部機械システム工学科	- 97 -
⑪ 生命工学部生物工学科	- 100 -
⑫ 生命工学部生命栄養科学科	- 105 -
⑬ 生命工学部海洋生物科学科	- 109 -
⑭ 薬学部薬学科	- 114 -
⑮ 大学教育センター	- 118 -
⑯ 共同利用センター	- 128 -
2-7. 令和2年度（後期）授業評価アンケート実施科目一覧	- 132 -

はじめに

福山大学は、次の 6 つを教育目標として掲げ、この目標を達成するべく、日々、教育の改革と改善に取り組んでいる。

福山大学教育目標

- (1) 真理の探究と道理の実践
- (2) 豊かな品性と強い意志の涵養
- (3) 生命と自然の尊重
- (4) 個性の發揮と信頼に基づく人間関係の構築
- (5) 可能性への挑戦
- (6) 地域社会の発展への貢献

教育とは、学修者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、「何を教えたか?」ではなく、「学修者が、何ができるようになったか?」が問われる。通常、教育者は、教育の効果を試験の結果、すなわち学修成果として認識し把握している。

しかしながら、真に教育を改善するためには、学修者からの忌憚のないフィードバックを得ることは必要不可欠である。このため福山大学では、自己評価委員会が平成 16 年度に実施して以来、本学のすべての教員が毎年、学生による授業評価を受けていた。平成 23 年度より大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施している。

さて、令和 2 年度は covid-19 が蔓延し、その感染拡大防止の観点から、本学で初めての大規模な遠隔授業が実施された。そこで、本学の遠隔授業の実態を把握するため、前期の授業評価アンケートは遠隔授業に特化した「遠隔授業アンケート」とし、①ネットワーク環境アンケート、②科目別遠隔授業アンケートの 2 種類のアンケートを実施した。後期の授業評価アンケートは、従来通りの学生による授業評価アンケート、すなわち、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学修点検に関する 7 項目について実施した。また、これまで、授業評価アンケートの対象科目は、「実習・演習を除く授業科目（受講者 6 人以上）」としてきたが、全授業科目についてアンケートを実施すべきとの観点から、今年度より、対象科目を「実習・演習を含む授業科目（受講者 6 人以上）」に変更した。今年度以降は、3 年間で全授業科目（受講者 6 人以上）の授業評価アンケートを実施する予定である。

本報告書は、令和 2 年度のこれらのアンケートを総括するものである。このアンケート

調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

令和3年3月31日

大学教育センター センター長 大塚 豊
同 教育開発部門長 薬学部 佐藤英治

1. 【前期】遠隔授業アンケート

1-1. アンケート調査の目的

令和 2 年度はコロナ禍のため、本学で初めての大規模な遠隔授業が実施された。そこで、本学の遠隔授業の実態を把握するため、前期の授業評価アンケートは遠隔授業に特化した「遠隔授業アンケート」とし、①ネットワーク環境アンケート、②科目別遠隔授業アンケートの 2 種類のアンケートを実施した。

1-2. アンケート調査の概要

(1) 実施期間

令和 2 年 6 月 24 日 (水) ~ 令和 2 年 7 月 8 日 (水)

(2) 調査科目の選定 (②科目別遠隔授業アンケート)

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）を対象に、遠隔授業 1 科目（演習・実習を含む受講生 6 人以上の科目）について、アンケート調査を行った。科目の選定は、各学科長・センター長に依頼した。遠隔授業アンケートでは、全学で延べ 291 科目（受講者数延べ 17511 人）について実施した。調査科目は p.29~33 に示す。

(3) アンケート調査内容

① インターネット環境アンケート

アンケートの調査項目は以下に示す 14 項目とした。【質問 1】は、ほぼ遠隔授業のみを実施した期間（6 月 21 日以前）における学生の受講地（場所）、【質問 2】～【質問 7】は、その時の学生のインターネット環境、【質問 8】～【質問 13】は、6 月 22 日以降に帰省先から大学近郊の居住地に戻った学生のインターネット環境、【質問 14】は、遠隔授業受講時のネットワーク環境についてのフリーコメントである。

【質問 1】対面授業が始まるまで（6 月 21 日以前）、あなたが遠隔授業を受けていた場所を以下から選んでください。

1. 大学通学時と同じ居住場所
2. 帰省先
3. その他（記入）

【質問 2】対面授業が始まるまで（6 月 21 日以前）、あなたが遠隔授業を受けていた場所のネットワーク環境を教えてください。

1. Wifi
2. スマートフォン・タブレット（iPad 等）のパケット通信
3. その他（記入）

【質問 3】対面授業が始まるまで（6 月 21 日以前）、あなたが使用していたネットワーク環境において、通信量の上限はありましたか。

1. 通信量の上限がある
2. 通信量の上限はない

「上限がある」と回答した人は、上限の設定を教えてください。（記入）（30GB/月、3GB/日、6GB/3 日で通信制限、など複数回答可）

【質問 4】対面授業が始まるまで（6月21日以前）、遠隔授業を受けるにあたって、ネットワーク環境に起因した問題はありましたか。

1. あつた
2. なかつた

【質問 5】問題があつた場合、どのような問題ですか。（記入）

【質問 6】問題があつた場合、何が原因だと考えられますか。

1. 通信量不足
2. ネットワーク環境が悪い
3. PC等が古い
4. わからない
5. その他（記入）

【質問 7】対面授業が始まるまで（6月21日以前）、あなたが遠隔授業を受けるために使用していた端末を教えてください。

1. PC（Windows）
2. PC（Mac）
3. タブレット（iPad等）
4. スマートフォン
5. その他（記入）

【質問 1】で1と答えた人は、【質問 14】に進んでください。【質問 1】で2か3と答えた人は、【質問 8】～【質問 13】にも答えてください。

【質問 8】大学通学時の居住場所のネットワーク環境を教えてください。

1. Wifi
2. スマートフォン・タブレット（iPad等）のパケット通信
3. その他（記入）

【質問 9】大学通学時の居住場所のネットワーク環境、通信量の上限はありましたか。

1. 通信量の上限がある
2. 通信量の上限はない

「上限がある」と回答した人は、上限の設定を教えてください。（記入）（30GB/月、3GB/日、6GB/3日で通信制限、など複数回答可）

【質問 10】大学通学時の居住場所で遠隔授業を受けるにあたって、ネットワーク環境に起因した問題はありましたか。

1. あつた
2. なかつた

【質問 11】問題があつた場合、どのような問題ですか。（記入）

【質問 12】問題があつた場合、何が原因だと考えられますか。

1. 通信量不足
2. その他（記入）

【質問 13】大学通学時の居住場所で遠隔授業を受けるために使用していた端末を教えてください。

1. PC（Windows）
2. PC（Mac）
3. タブレット（iPad等）
4. スマートフォン
5. その他（記入）

【質問 14】遠隔授業を受ける際のネットワーク環境について、困った点があれば自由に書いてください。（フリーコメント）

② 科目別遠隔授業アンケート

アンケートの調査項目は、以下に示す 14 項目とした。質問内容として、(1) 授業ツール、(2) 課題の形式、(3) 学修への取り組み、(4) 教員からのフィードバックやサポート、(5) 通常の授業との比較、(6) フリーコメントに分類される。

(1) 授業ツール

【質問 1】この科目の遠隔授業では、どのようなツールを使用して授業が行われましたか？（複数回答可）

1. 紙媒体の本や資料等（教科書、指定図書等）
2. セレッソ等で配布された電子ファイル（Word 文書、PDF、PowerPoint スライド（音声なし）等）
3. YouTube 等を用いた講義動画（教員の講義を撮影した動画や PowerPoint 等によるスライド（音声付き）動画など）
4. Zoom 等による双方向性会議システムを用いた講義（テレビ会議システムのようなもの）
5. その他（記入）

【質問 2】この科目の授業ツールは適切だと思いましたか？

1. 適切である
2. ほぼ適切である
3. どちらともいえない
4. やや不適切である
5. 不適切である

【質問 3】この科目の遠隔授業で使用された授業ツールで、学修成果を得る上で良かった点は何ですか。（フリーコメント）

【質問 4】この科目の遠隔授業で使用された授業ツールで、改善すべき点は何ですか。（フリーコメント）

(2) 課題の形式

【質問 5】この科目の遠隔授業では、課題はどのような形式で出題されましたか。（複数回答可）

1. チェックリスト形式テスト（セレッソの「小テスト」等、複数の選択肢から回答を選んでチェックする形式のテスト）
2. 記述式テスト
3. レポート
4. プレゼンテーション資料（PowerPoint スライド等、プレゼンテーション用資料の提出）
5. その他（記入）

【質問 6】この科目の課題の形式は適切だと思いましたか？

1. 適切である
2. ほぼ適切である
3. どちらともいえない
4. やや不適切である
5. 不適切である

【質問 7】この科目の遠隔授業で課された課題について、学修成果を得る上で良かった点は何ですか。

(フリーコメント)

【質問 8】この科目の遠隔授業で使用された授業ツールで、改善すべき点は何ですか。(フリーコメント)

(3) 学修への取り組み

【質問 9】この科目の遠隔授業について、あなたの学修への取り組みの度合いを自己評価してください。

1. 非常に熱心に取り組んだ
2. まあまあ熱心に取り組んだ
3. どちらともいえない
4. あまり熱心に組んでいない
5. 全く熱心に取り組んでいない

(4) 教員からのフィードバックやサポート

【質問 10】この科目の遠隔授業において、教員からはどの程度のフィードバックやサポートがありましたか。

1. 十分にあった
2. まあまああった
3. どちらともいえない
4. まりなかった
5. なかった

【質問 11】この科目の遠隔授業において、教員から学生のあなたにどのようなフィードバックやサポートがあれば、授業の理解が深まりますか。(フリーコメント)

(5) 通常の授業との比較

【質問 12】通常の形式の授業よりも良いと感じた点はありましたか。それはどのようなことですか。(フリーコメント)

【質問 13】通常の形式の授業の方が良いと感じた点はありましたか。それはどのようなことですか。(フリーコメント)

(6) フリーコメント

【質問 14】この科目の遠隔授業に関して、感じたことがあれば自由に書いて下さい。(フリーコメント)

(4) 調査結果の集計

アンケート調査及び結果の集計は学修支援システム Cerezo (セレッソ) の機能を利用して行った。②科目別遠隔授業評価アンケートでは、点数化できる設問に関しては、集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には 5、強く否定する回答には 1）を乗じ全回答数で除することで、平均点を算出した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、最高点は 5.0、最低点は 1.0 となる。

集計は、全学、学部・センター、学科、科目単位で行った。本報告書では、全学、学部・センター、学科単位での集計結果を掲載した。なお、所属教員が 1 名の国際センター、社会連携センター、および IR 室については本集計表から除外した。集計結果で表示している全学の各種値は、上記の 2 センターと IR 室の数値も含めて計算しているため、学部・センターの合計値とは一致しない。

(5) 学生へのフィードバック方法

アンケート調査の結果のフィードバックは、授業担当教員がアンケート調査終了後の授業時や定期試験時あるいは Cerezo を用いてリモートで行った。

(6) アンケート実施後の教員による報告書提出

授業担当教員に集計結果を返却後、各教員は報告書（p. 8 の報告書書式を参照）を学科長に提出し、学科長は学科教員の報告書を取りまとめて大学教育センター教育開発部門長に提出した。

(7) アンケート実施後の学科による総括

年度末に前期および後期の調査結果を踏まえて学科・センター単位で授業評価アンケートを総括し、学科・センター長から大学教育センター教育開発部門長に提出した（p. 56～132）。

令和2年度前期 遠隔授業アンケート結果に対する報告書

担当教員	氏名	所属学部・学科	
		学部	
講義名		科目分類 (不要な方を消去する)	受講者数
		共通教育科目	専門科目
			名

質問1 授業ツール（お手数ですが、不要なものを削除してください）

1. 紙媒体の本や資料等（教科書、指定図書等）
2. ボックス等で配布された電子ファイル（Word文書、PDF、PowerPointスライド（音声なし）等）
3. YouTube等を用いた講義動画（教員の講義を撮影した動画やPowerPoint等によるスライド（音声付き）動画など）
4. Zoom等による双方向性会議システムを用いた講義（テレビ会議システムのようなもの）
5. ボックスの他（記入）

質問5 課題の形式（お手数ですが、不要なものを削除してください）

1. ボックスリスト形式テスト（セレッソの「小テスト」等、複数の選択肢から回答を選んでチェックする形式のテスト）
2. 記述式テスト
3. ボックスポート
4. ボックスレーション資料（PowerPointスライド等、プレゼンテーション用資料の提出）
5. ボックスの他（記入）

お手数ですがこの科目のアンケート集計結果を各質問毎に記載してください

質問2	質問6	質問9	質問10			
授業ツール	課題の形式	学修への取り組み	フィードバックやサポート			

◆アンケート結果の学生へのフィードバック方法

◆この講義に対する学生の評価結果について
○高く評価された事項
○改善を求められている事項
○今後の授業改善の計画

1-3. アンケート調査結果

1-3-1. インターネット環境アンケート【全学】

全学でのインターネット環境アンケートの結果を以下のスライドに示す。また、これらの総括を、最後の2枚のスライド（総括-1、総括-2）に示す。対象学生は3899名、回答学生数は2076名、回答率は53.2%であった。

主として遠隔授業が実施されていた時期（令和2年6月21日以前）では、82%の学生が大学近郊（実家あるいは下宿先）で授業を受講していた。Wifiを使用していた学生は92%で携帯電話などのパケット通信を使用していた学生は7%であった。通信量の上限の有無については、上限ありが22%、上限なしが78%であった。上限ありの場合、その上限は大きく3つの領域に分布し（10GB以下/月、10～30GB/月、40～60GB/月）、ほぼ同程度の学生数であった。インターネット環境に起因するトラブルを経験した学生は15%存在し、その原因はほとんどが通信速度・通信量の問題であった。使用端末はPCが72%、スマートフォンが22%であった。

帰省先から大学通学時の居住場所（下宿先等）に戻った際のインターネット環境は、全学生を対象としたものに比べ、Wifiの使用率やPCの使用率は若干低下し、トラブルは若干増加していた。個々の学生により状況は異なると思われるが、概して、帰省先から下宿等に戻った場合、インターネット環境が悪化する傾向が認められた。

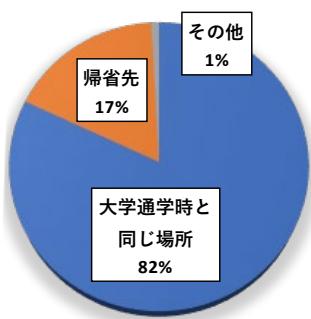
学生からのフリーコメントでは、学内、学外、女子寮すべての場所において、ネットワーク環境の不安定さに伴う問題が挙げられた。動画・音声が十分に視聴できないことや、課題提出や出席確認等に時間制限を設けている授業の場合、通信状況が悪いためこれらが時間内に実施できない等の意見があった。双方向性会議システムの利用については、「遠隔授業の実施にはZoomが望ましい」との意見があった一方、「Wifi環境が不安定なため、Zoomは使用しないでほしい」との意見があった。その他、授業資料の印刷が困難、コストがかかる、動画・音声のない電子ファイルのみの授業ではわかりにくいなどの意見があった。遠隔授業で評価された点としては、動画や解説資料を何度も見直すことができる、自分のペースで学習できる等の意見があった。

遠隔授業アンケート-1

(ネットワーク環境アンケート) 6月21日以前の環境

- 対象者数：3899名
- 回答者数：2076名
- 回答率：53.2%

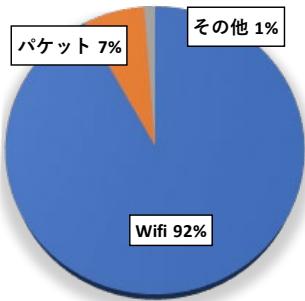
質問1：遠隔授業の実施場所



「その他」は、実家と下宿先の両方、
親の会社、兄弟の下宿先など

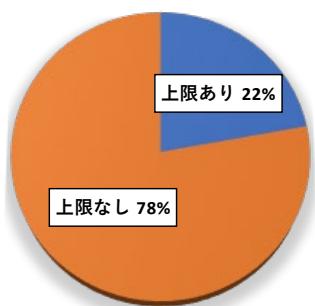
ネットワーク環境と通信量の上限の有無

質問2：ネットワーク環境

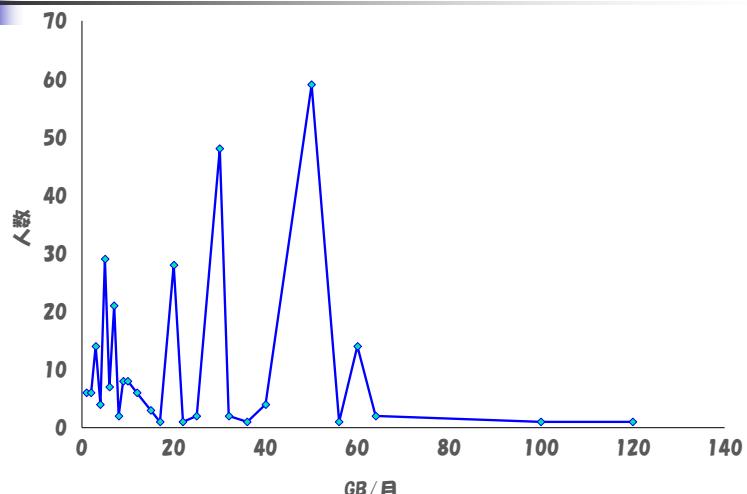


「その他」は、有線Lan、Wifiとパケットの併用など

質問3：通信量の上限の有無

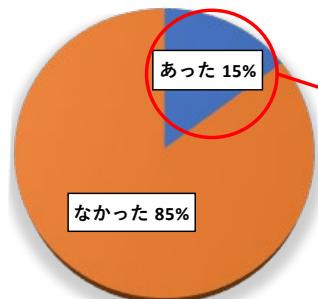


通信量の上限がある場合の上限 (GB/月)

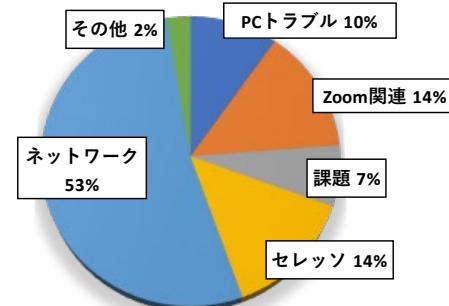


ネットワーク環境の問題の有無とその内容

質問4：ネットワーク環境の問題



質問5：問題の内容（記入式）



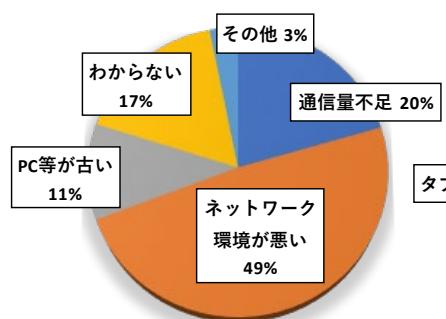
詳細は別紙1を参照。PCトラブル以外は、概ねネットワーク環境に起因。

Zoom：映像・音声がとぎれる、 課題：レポート提出ができない、欠席扱いになる

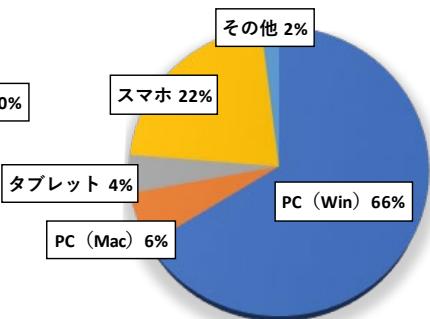
セレッソ：ログインできない、動画が止まる、 ネットワーク：速度制限、Wifiにつながらない、など

問題の原因、使用していた端末

質問6：問題の原因



質問7：使用していた端末

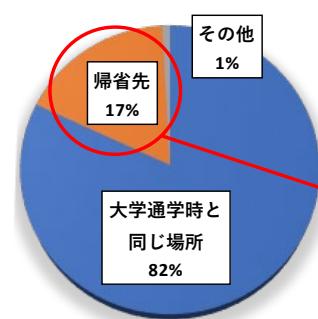


「PC等が古い」以外は、基本的にネットワーク環境に起因するものが多い。

PC7割、スマホ2割。「その他」は、複数の端末を併用。

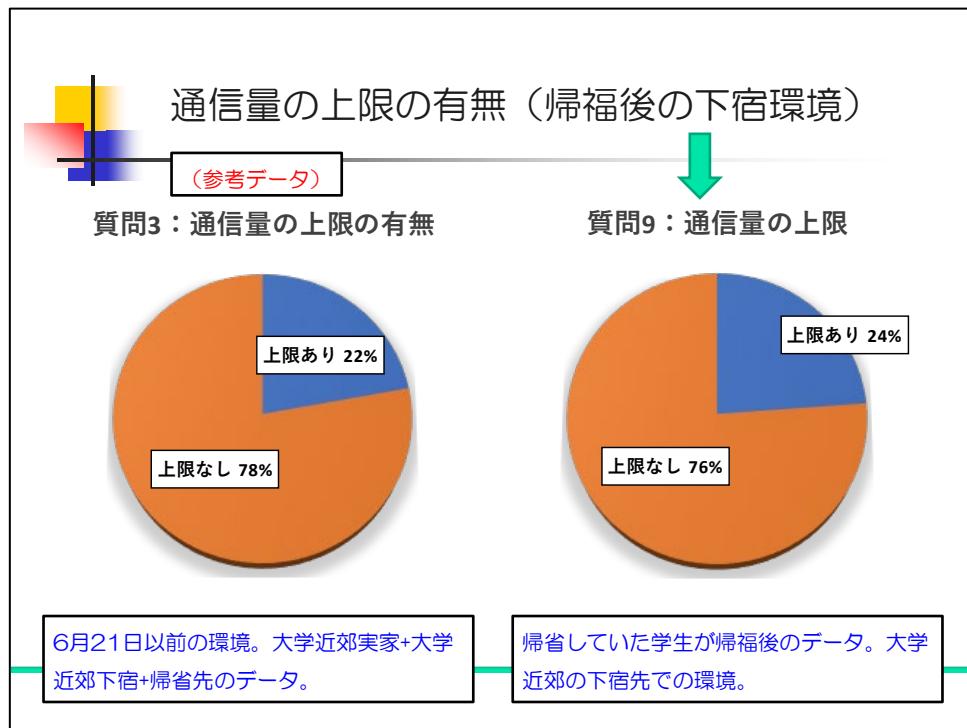
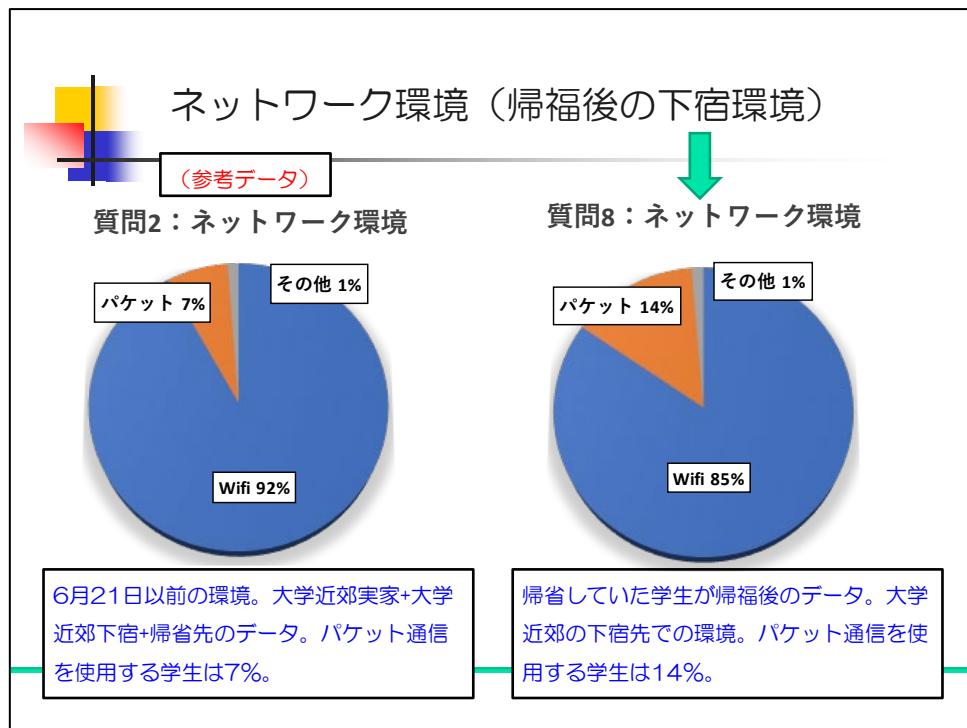
下宿生限定

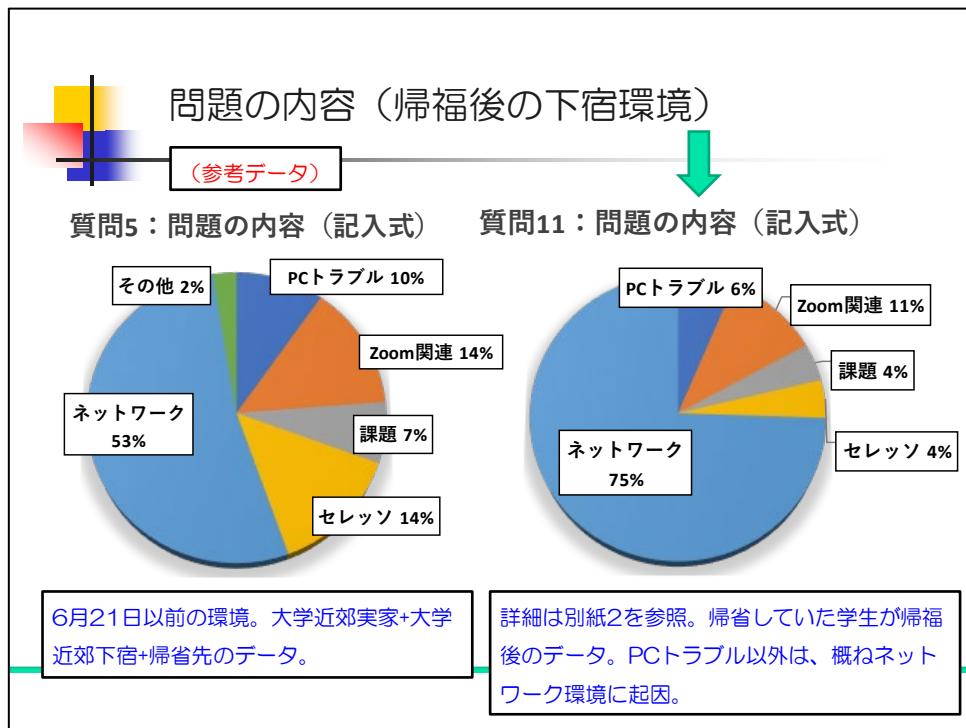
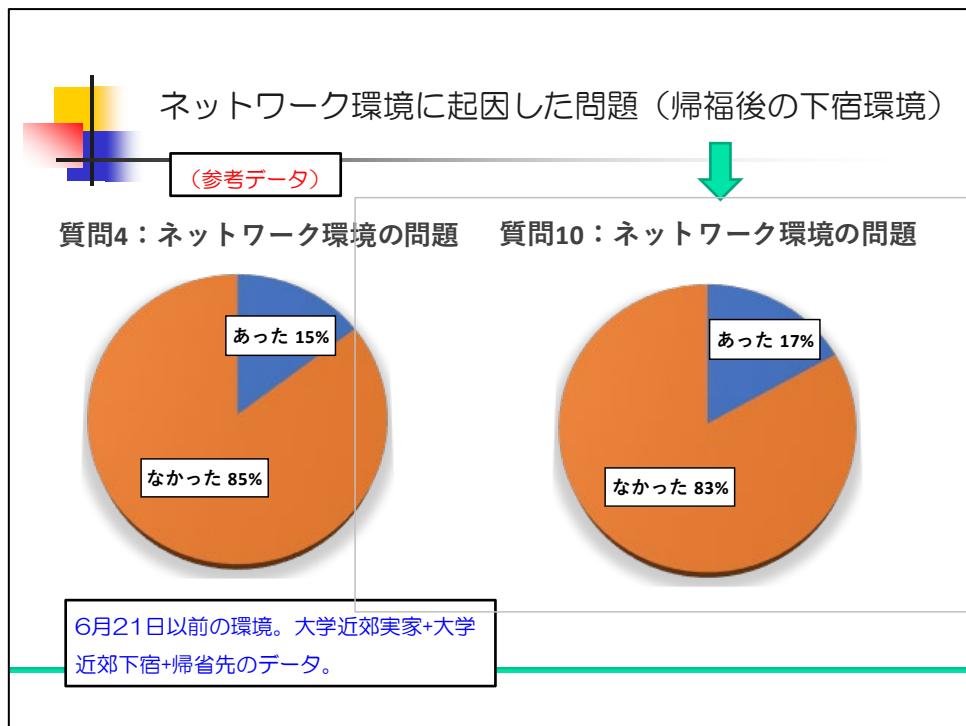
質問1：遠隔授業の実施場所

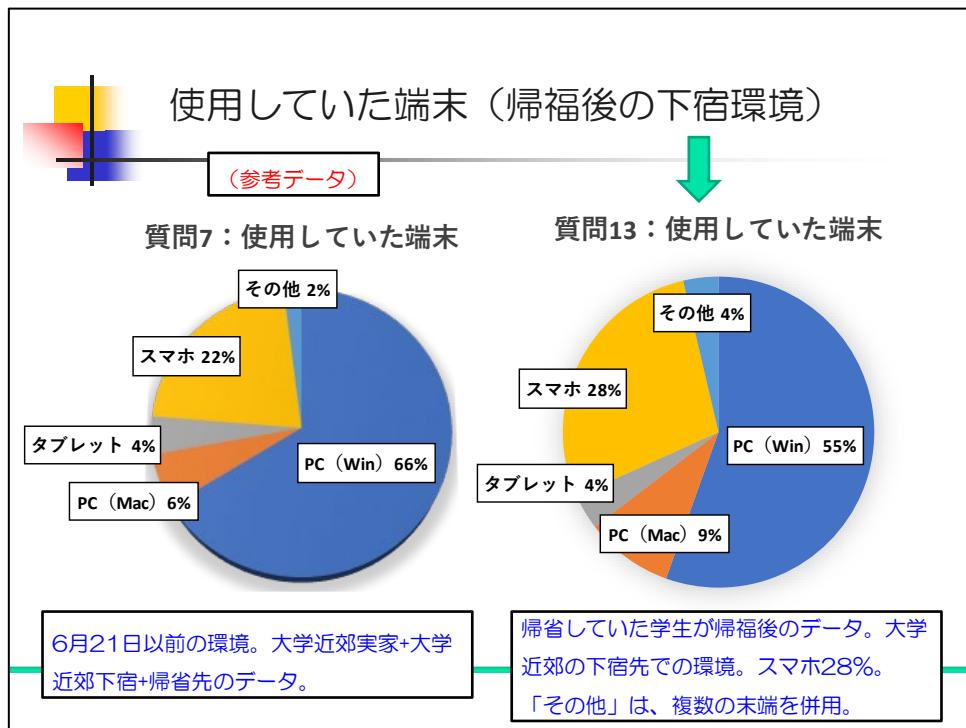
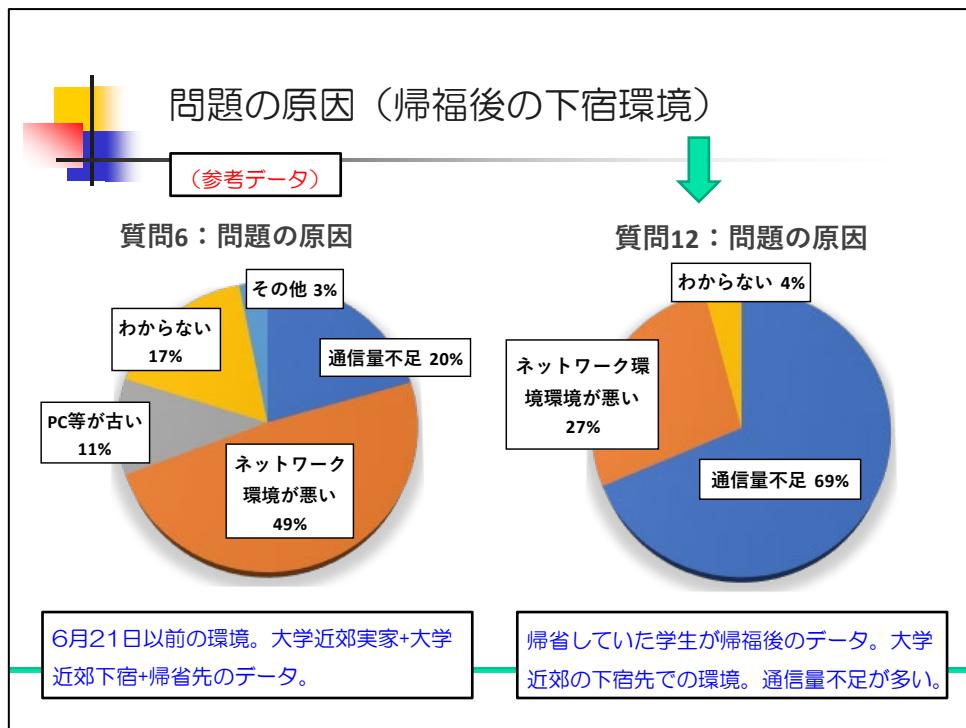


- 対象者数：374名
- 回答率：70～80%
(質問によって異なる)

6月21日までは、帰省先で遠隔授業。
それ以降は、下宿先で遠隔授業。







質問14：遠隔授業を受ける際のネットワーク環境について、

困った点があれば自由に書いてください。

(フリーコメント)

以下の項目に整理されました。

1. Zoom関連
2. 大学内のネットワーク環境について
3. 大学以外のネットワーク環境について
4. 女子寮のネットワーク環境について
5. 遠隔授業について
6. 資料の印刷について
7. 金銭面について
8. その他

総括-1 遠隔授業時の学生の実態（全学生）

6月21日までの遠隔授業では、

1. 実施場所：帰省先17%、**大学近郊82%**
2. 通信環境：**Wifi92%**、パケット通信7%
3. 使用端末：**PC72%**、スマホ22%、タブレット4%
4. 通信上限：あり22%、**なし78%**（上限はなくても制限がある場合が多い）
5. トラブル：**あり15%**、**なし85%**



10%程度のPCトラブル+通信速度・通信量の問題

総括-2 遠隔授業時の学生の実態（帰福後）

6月21日までの遠隔授業では、

（全学生での結果）

1. 実施場所：帰省先17%→その後大学近郊で実施
2. 通信環境：Wifi85%、パケット通信14%↑（Wifi92%、パケット通信7%）
3. 使用端末：PC64%↓、スマホ28%↑、タブレット4%
(PC72%、スマホ22%、タブレット4%)
1. 通信上限：あり22%、なし78%（上限はなくても制限がある場合が多い）
2. トラブル：あり17%、なし83%（あり15%、なし85%）



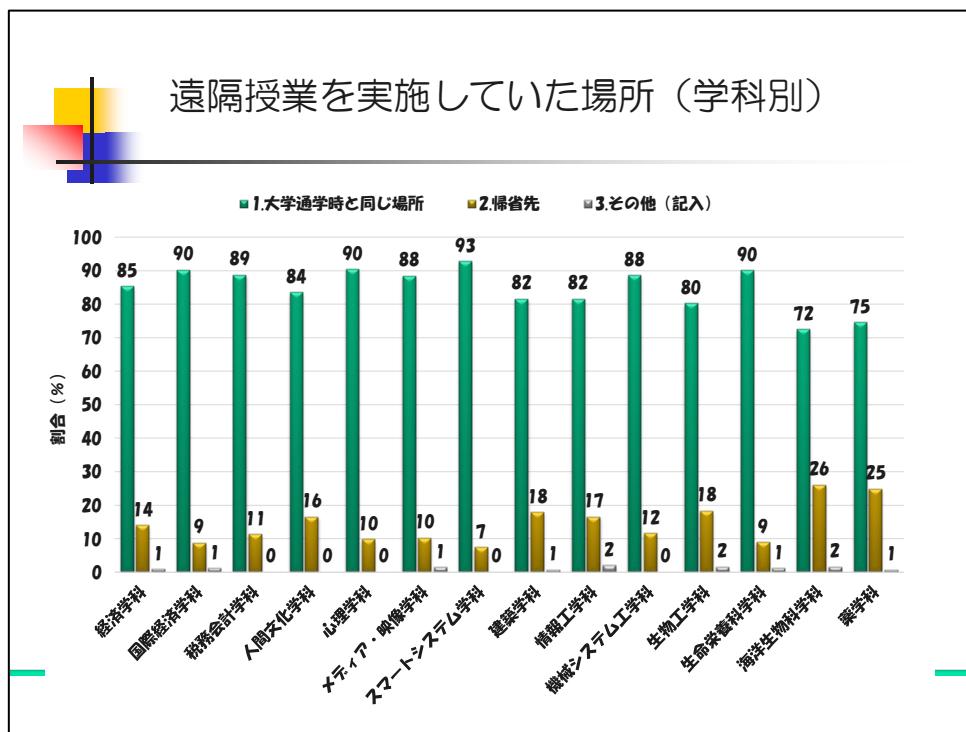
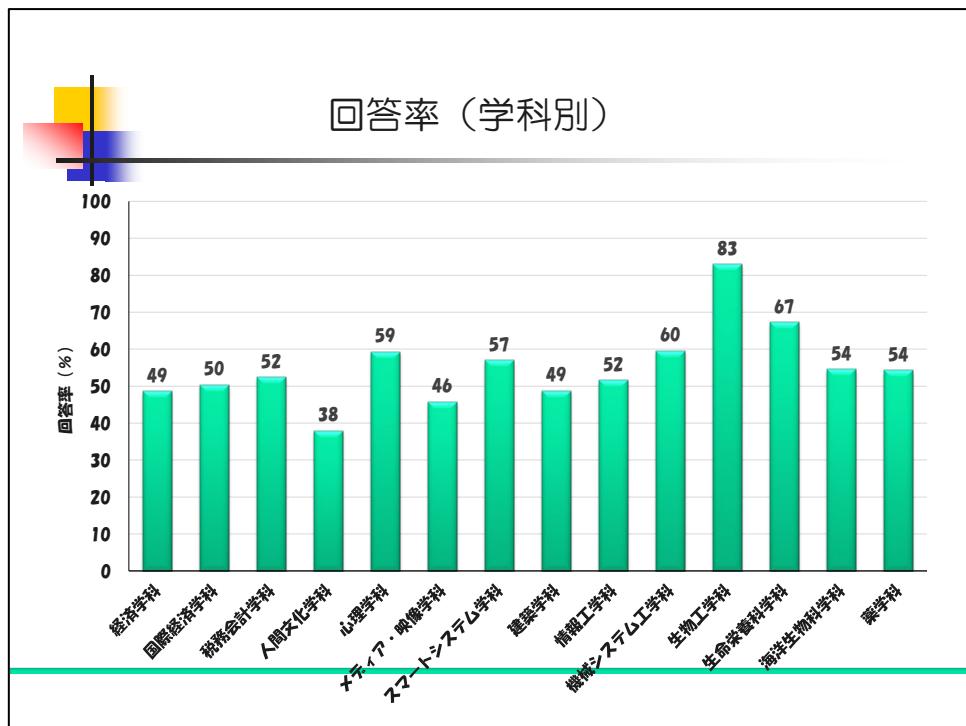
6. 問題の内容・原因：6%程度のPCトラブル+通信速度・通信量の問題

1-3-2. インターネット環境アンケート【学科別】

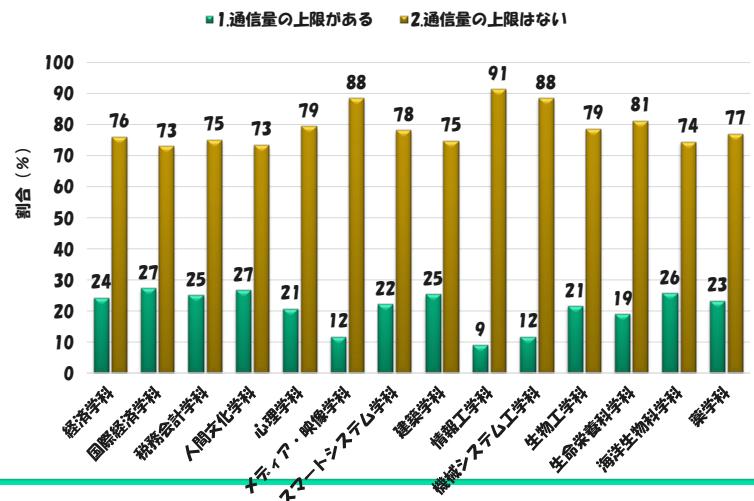
次に、アンケート結果の学科別解析を行った。回答率は学科により異なっていた（38%～83%）。回答率が最も高かった学科は生物工学科であった。遠隔授業を実施していた場所は、ほとんどの学科において、大学通学時と同じ場所であった（学生の80%～90%）。海洋生物学科と薬学科は他学科よりも若干低めの値であった（70%台）。両学科は他県出身者が比較的多いため、この遠隔授業期間に帰省した学生が多かったのかもしれない。

インターネット環境において、通信量の上限がある学生数はほとんどの学科で20%台であったが、メディア・映像学科、情報工学科、機械システム工学科の学生はそれぞれ、12%、9%、12%と低い値であった。各学科の専門性により、学生個々のインターネット環境の整備状況が異なっているのかもしれない。インターネット環境に起因する問題を経験した学生の割合は、9%（スマートシステム学科）～27%（情報工学科）と学科によりばらつきが認められた。

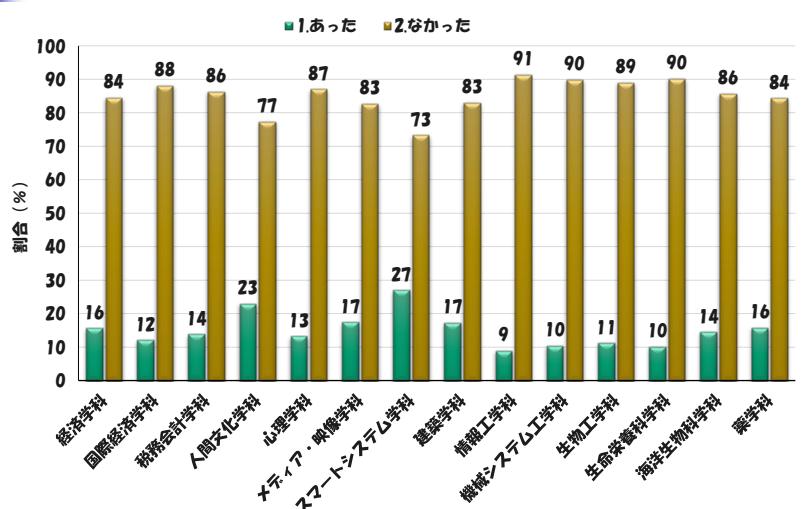
遠隔授業で学生が使用した端末は、すべての学科において、PCが最も多かった。スマートフォンを使用していた学生が20%を超えていた学科は、経済学科（27%）、国際経済学科（34%）、税務会計学科（29%）、人間文化学科（34%）、建築学科（21%）、生物工学科（26%）、海洋生物科学科（27%）、薬学科（24%）であった。



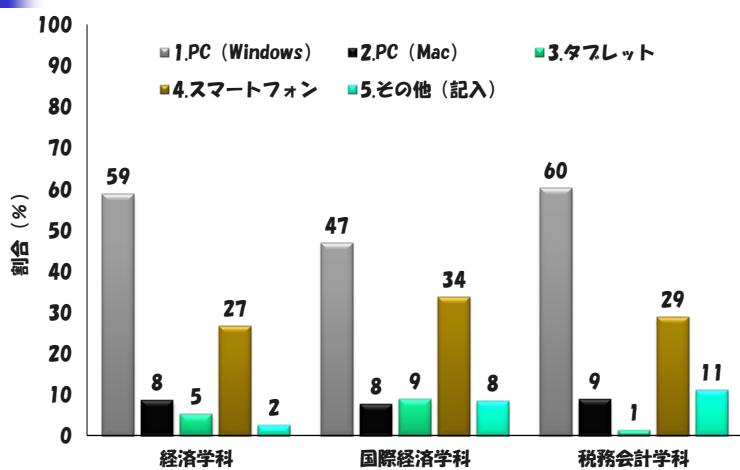
通信量の上限（学科別）



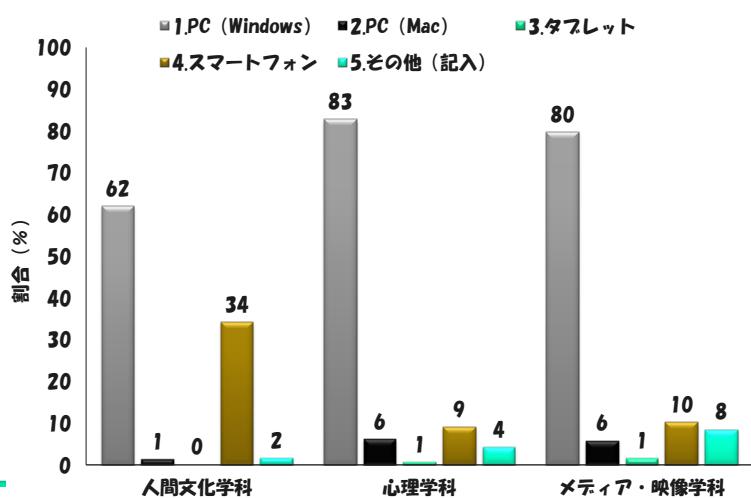
インターネット環境に起因する問題（学科別）



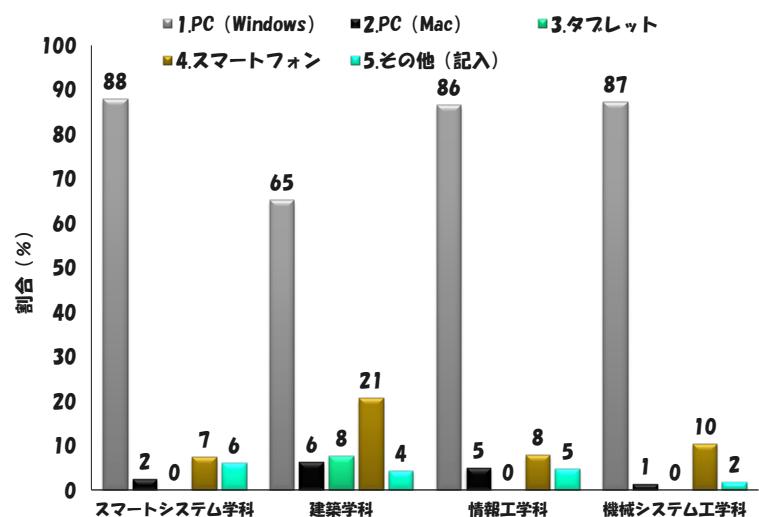
使用した端末（学科別） 経済学部



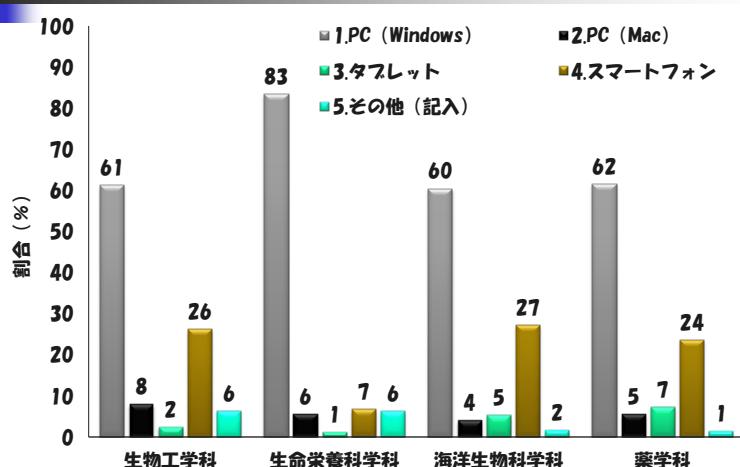
使用した端末（学科別） 人間文化学部



使用した端末（学科別）工学部



使用した端末（学科別）生命工学部・薬学部



1-3-3. 科目別遠隔授業アンケート

科目別遠隔授業アンケートの集計結果(全学レベル)を以下のスライドに示す。また、これらの総括を、最後の2枚のスライド(総括(科目別アンケート)-1、総括(科目別アンケート)-2)に示す。

対象授業数は291、対象学生数は17511名、回答学生数は10156名、回答率は58.0%であった。「授業の形式」は、紙媒体を用いたものが227(28.1%)、音声・動画なしの電子ファイルを用いたものが257(31.8%)、音声・動画ありの電子ファイルを用いたものが204(25.2%)、双方向性会議システムを用いたものが67(8.2%)であった。一授業で複数の形式を用いているものもあるため、授業形式の総数は対象授業科目数よりも多くなっている。「課題の形式」は、選択肢式テスト、記述式テスト、レポートがほぼ同数で、これらの形式を合わせると全課題の75%を占めていた。「授業形式の適切性」は、スライドに示すように全学平均(全授業の平均値)が4.36(5点満点)であった。このスライドに示すヒストグラムの横軸は、[数値A、数値B]の表示がなされ、その上の棒グラフには数値Cが記載されている。これは、アンケート結果の点数が数値A～数値Bの範囲にある科目が、棒グラフ上の数値Cの数だけあったということを意味している。例えば、ヒストグラムの一番左端の[2.8, 3.0]のところでは、棒グラフの数値は1と記載されているが、これはアンケート結果の点数が2.8～3.0の範囲にある科目が1つあったということを意味している。この「授業形式の適切性」に関するアンケートでは、授業評価点数の最頻値は[4.4, 4.6](87科目)(点数が4.4～4.6の範囲にある科目で、その数は87)であった。他のヒストグラムも同様の形式で記載している。「課題形式の適切性」については全学平均(全授業の平均値)が4.39(5点満点)で、最頻値は[4.3, 4.5](77科目)であった。学生が自ら振り返った自己評価「学修への取り組み」については、全学平均(全学生の平均値)が4.17(5点満点)で、最頻値は[4.2, 4.4](77科目)であった。これらの結果は、全学平均がすべて4.0以上となっており、全体的に学生の評価は高いものであると考えられた。「教員によるフィードバックやサポート」は全学平均(全授業の平均値)が3.91(5点満点)で、最頻値は[3.8, 4.0](60科目)であった。この項目のヒストグラムは他のものと比べて分布が広がっており、平均点も4.0を下回っていた。「教員によるフィードバックやサポート」は個々の教員により差が大きく改善の余地があると考えられた。

授業科目の総合点として、「授業形式の適切性」、「課題形式の適切性」、「学修への取り組み」、「教員によるフィードバックやサポート」のすべてを総合して平均点を算出し、ヒストグラムを作成した。全学平均(全授業の平均値)が4.19(5点満点)で、最頻値は[4.2, 4.4](105科目)であった。「教員によるフィードバックやサポート」については、やや評価が低かったが、総合評価においては、学生による遠隔授業の評価は高いものと考えられた。

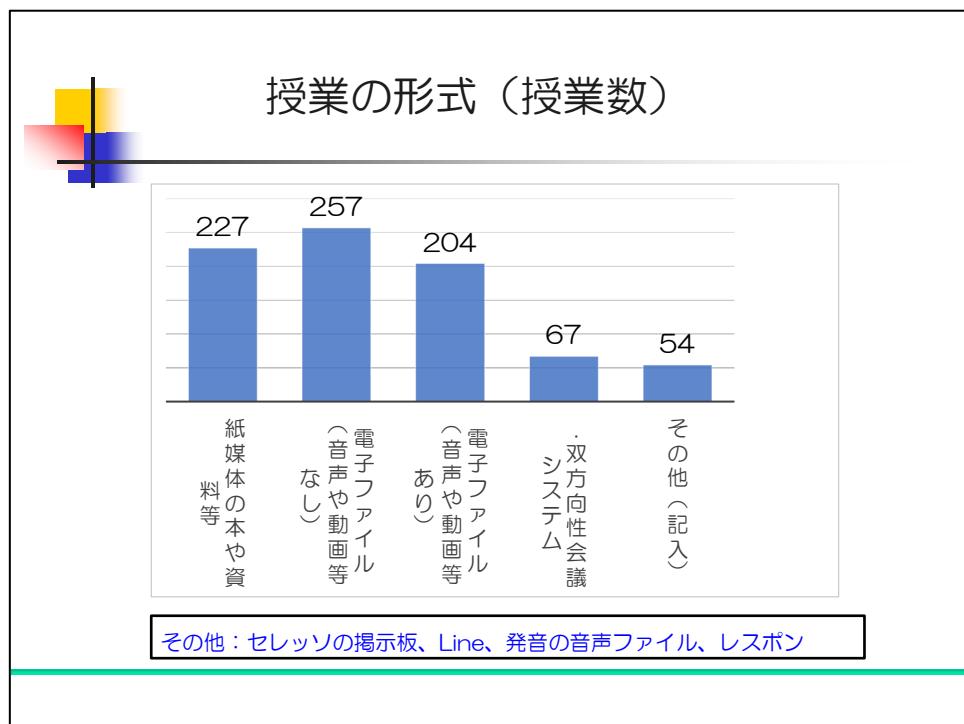
「授業形式」と「授業形式の適切性評価」の関連性を検討するため、横軸に各授業の授業形式を点数化した数値、縦軸に学生による各授業の授業形式の評価点を設定して、散布図を作成した。授業科目ごとの授業形式の点数については、「より実際の授業に近い方法」が高得点になるよう、紙媒体(1点)、電子ファイル(動画・音声なし)(2点)、電子ファイル(動画・音声ありの)(3点)、Zoom(4点)と重みづけ

し、平均値を算出した。この散布図に示す通り、「授業形式」と「授業形式の適切性評価」の間には、単純な相関は認められなかった。従って、「授業形式の適切性評価」は、単に「より実際の授業に近い方法」であれば高得点になるというものではなく、個々の授業の内容や進め方、教員によるサポート体制等によって総合的に評価されると考えられた。

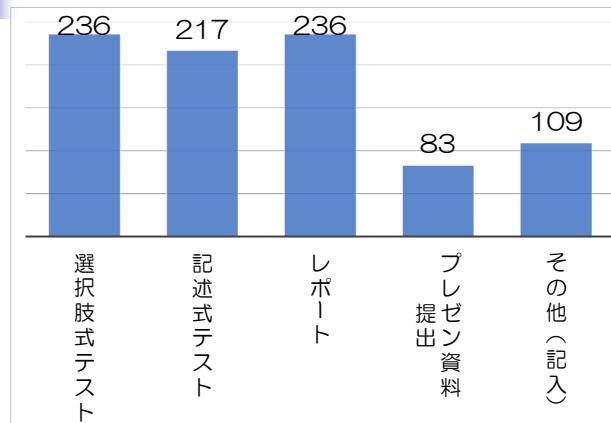
令和2年度前期遠隔授業アンケート

■ 対象：全学生（3899名）
■ 調査期間：6月24日（水）～7月8日（水）
■ 方法：セレッソのアンケート機能を利用
■ 遠隔授業アンケート-1
(ネットワーク環境アンケート)
■ 遠隔授業アンケート-2
(科目別アンケート)

■ 対象者数：17511名
■ 回答者数：10156名
■ 回答率：58.0%
■ 対象授業数：291

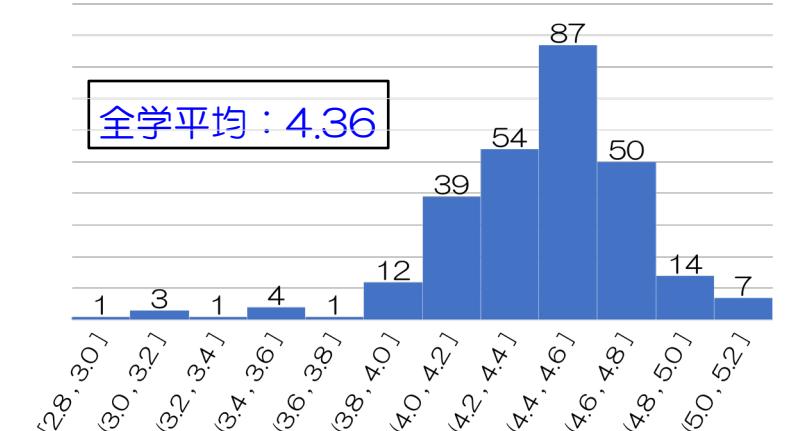


課題の形式（授業数）

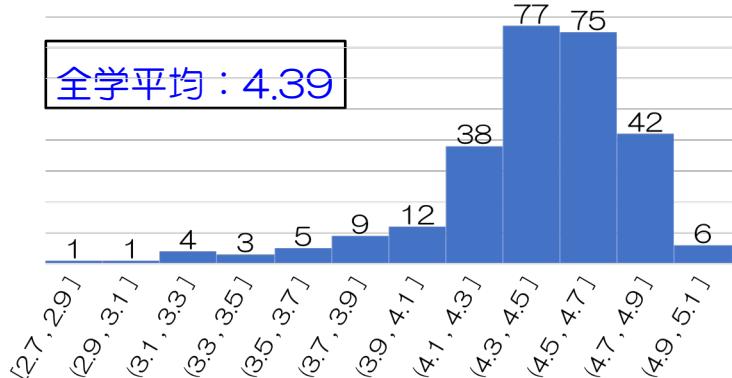


その他：課題を写真に撮り送信、デザイン系などの制作物を送信、セレッソの掲示板、レスポン用いた投稿、録音した音声を送信

授業形式の適切性（平均点別授業数）

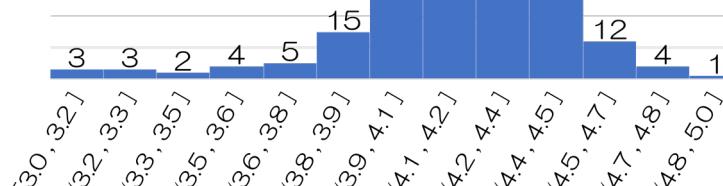


課題形式の適切性（平均点別授業数）



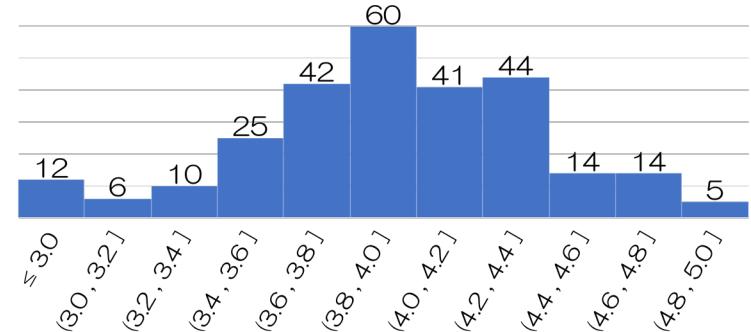
学修への取り組み（平均点別授業数）

全学平均：4.17



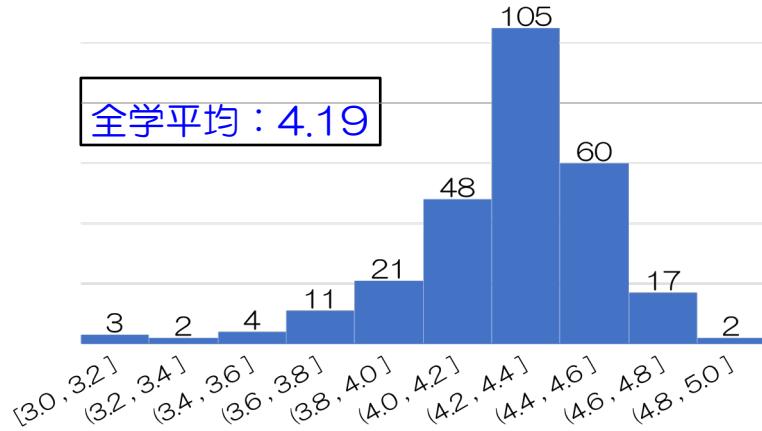
教員によるフィードバックやサポート（平均点別授業数）

全学平均：3.91

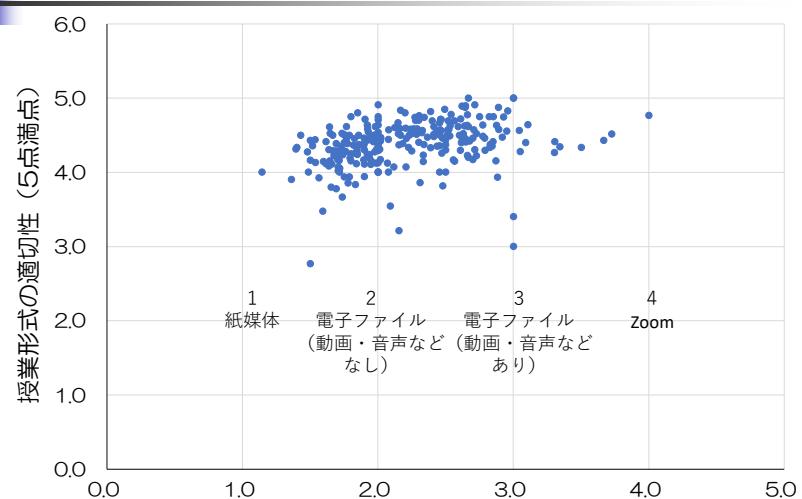


①授業形式の適切性、②課題形式の適切性、③学修への取り組み、
④教員によるフィードバックやサポートのすべてを合わせた平均点別授業数

全学平均：4.19



「授業形式」と「授業形式の適切性評価」の関連性



総括 (科目別アンケート) -1

授業形式の実態 (多い順番)

1. 電子ファイル
(音声・動画等なし) : 257
2. 紙媒体の本や資料等 : 220
3. 電子ファイル
(音声・動画等あり) : 204
4. テレビ会議システム : 70

課題形式の実態 (多い順番)

1. レポート : 236
2. 選択肢式テスト : 236
3. 記述式テスト : 217
4. プrezen資料提出 : 83

総括（科目別アンケート）-2

学生による評価（全学平均）

5点満点

- 授業形式の適切性：4.36
- 課題形式の適切性：4.39
- 学修への取り組み：4.17
- 教員によるフィードバックやサポート：3.91

（最もばらつきが大きい）

フリーコメントで評価の高かった授業の特徴（主観）

- 教員によるサポート
- 音声や動画での解説
- 解説文書の配布

「授業形式」と「授業形式の適切性評価」の関連性

- 明確（単純）な相関なし？
- ただし、平均点4点以上ある授業でも、音声・動画が欲しいとのコメントはある（薦）

1-4. 令和2年度（前期）遠隔授業アンケート総括

令和2年度は、本学で初めての大規模な遠隔授業を実施した。そのため、前期の授業評価アンケートは、遠隔授業の実態の把握および課題の抽出を目的として、2種類の遠隔授業アンケート（①ネットワーク環境アンケート、②科目別遠隔授業アンケート）を実施した。①ネットワーク環境アンケートでは、15%の学生がネットワーク環境に起因するトラブルを経験しており、遠隔授業を進めるうえで考慮すべき学生の意見が抽出された。②科目別遠隔授業アンケートでは、おおむね学生の評価は高かったものの、教員による学生へのフィードバックやサポートについては、改善の余地があることが示された。今後も遠隔授業の実施は継続されることが予想される。本結果をもとに、ネットワーク環境の改善や授業改善を推進していきたい。

1-5 令和2年度（前期）遠隔授業アンケート実施科目一覧

学部	学科	実施教員	職名	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
1 経済学部	経済学科	石丸 敬二		プログラミング基礎	E06CMS2151	木	3時限	61
2 経済学部	経済学科	北浦 孝		スポーツ生理学	EE6SPM1300	木	2時限	32
3 経済学部	経済学科	高羅 ひとみ		租税論	EE6GME2251	水	2時限	38
4 経済学部	経済学科	櫻木 規美子		スポーツ理論Ⅰ	EE6SPM1200	木	4時限	78
5 経済学部	経済学科	佐藤 彰三		地方財政論基礎	EE6GME2650	木	3時限	192
6 経済学部	経済学科	田中 征史		計量経済学	EE6GME3601	月	5時限	130
7 経済学部	経済学科	中村 和裕		現代スポーツ論Ⅰ	EE6SPM1101	火	4時限	74
8 経済学部	経済学科	野田 光太郎		スポーツ経済学Ⅰ	EE6SPM2101	水	2時限	73
9 経済学部	経済学科	早川 達二		日本経済論（昭和期）	EE6GME3201	火	1時限	203
10 経済学部	経済学科	藤本 倫史		スポーツ経営学	EE6SPM3251	木	2時限	78
11 経済学部	経済学科	三川 敦		経済数学	E05MBS1451	火	2時限	64
12 経済学部	経済学科	吉田 卓史		体育（1）	G03AHS1446	水	1時限	39
13 経済学部	経済学科	吉田 卓史		体育（1）	G03AHS1447	水	2時限	40
14 経済学部	経済学科	李 森		労働経済論Ⅰ	EE6GME2550	月	2時限	167
15 経済学部	経済学科	李 森		労働経済論Ⅰ	EE6GME3441	月	2時限	14
16 経済学部	経済学科	王 佳子		法学概論（1）	G03SSL1200	金	3時限	117
17 経済学部	経済学科	勝矢 倫生		日本経済史	EE6GME2301	金	2時限	140
18 経済学部	経済学科	高阪 勇毅		金融システム	EE6GME2351	月	5時限	199
19 経済学部	経済学科	新谷 士朗		スポーツ心理学	EE6SPM3450	金	1時限	46
20 経済学部	経済学科	田邊 一洋		スポーツとメディア	EE6SPM3400	金	1時限	18
21 経済学部	経済学科	大和証券		証券市場論	EE6GME3841	水	4時限	98
22 経済学部	経済学科	蓮尾 陽平		社会・公民科教育法	QC7TTC3420	水	4時限	14
23 経済学部	経済学科	畠本 佳恵		情報処理基礎	G02INL110o	水	4時限	57
24 経済学部	国際経済学科	足立 浩一		マーケティング論Ⅰ	EE6ACM2201	水	2時限	72
25 経済学部	国際経済学科	尾田 温俊		経済学（1）	G03SSL1400	月	1時限	129
26 経済学部	国際経済学科	佐野 穂先		貿易概論	EE6IEC3102	木	1時限	108
27 経済学部	国際経済学科	佐野 穂先		貿易概論	E16IEC3100	木	1時限	45
28 経済学部	国際経済学科	鍋島 正次郎		地域経済論	EE6IEC2151	金	1時限	197
29 経済学部	国際経済学科	春名 章二		ミクロ経済学	E05MBS1102	火	4時限	147
30 経済学部	国際経済学科	Bisset Ian James		国際金融論	EE6IEC3202	月	2時限	83
31 経済学部	国際経済学科	富士 彰夫		アメリカ経済論Ⅰ	E16IEC2180	木	1時限	148
32 経済学部	国際経済学科	藤本 浩由		オープンマクロ経済学	EE6IEC3150	月	4時限	157
33 経済学部	国際経済学科	藤本 浩由		オープンマクロ経済学	E16IEC3201	月	4時限	28
34 経済学部	国際経済学科	劉 曙麗		中国経済論Ⅰ	EE6IEC2301	木	2時限	36
35 経済学部	国際経済学科	平山 亮		アジア直接投資論Ⅰ	E16IEC3601	木	3時限	35
36 経済学部	国際経済学科	向井 洋		金融から見える世界Ⅰ	EE6IEC2401	水	5時限	71
37 経済学部	税務会計学科	大城 朝子		経営学Ⅰ	EE6ACM2101	木	2時限	219
38 経済学部	税務会計学科	許 霽		基礎簿記Ⅰ	E05MBS1203	金	2時限	126
39 経済学部	税務会計学科	小林 正和		販売管理論Ⅰ	EA6ABA2500	火	4時限	116
40 経済学部	税務会計学科	白木 康晴		税法概論Ⅰ	EA6ABA2761	月	3時限	44
41 経済学部	税務会計学科	関下 弘樹		原価計算論Ⅰ	EA6ABA2701	火	2時限	85
42 経済学部	税務会計学科	張 楓		経営史	EA6ABA2400	木	3時限	78
43 経済学部	税務会計学科	長濱 照美		基礎簿記Ⅰ	E05MBS1205	月	3時限	102
44 経済学部	税務会計学科	堀田 彩		経営組織論Ⅰ	EE6ACM3201	金	1時限	49
45 経済学部	税務会計学科	池下 泰宏		税務会計Ⅰ	EA6ABA3701	金	2時限	38
46 経済学部	税務会計学科	津守 貴之		流通システム	EA6ABA2450	水	1時限	49
47 人間文化学部	人間文化学科	青木 美保		日本近現代文学研究1	HA6LIT2160	火	3時限	27
48 人間文化学部	人間文化学科	小原 友行		人文地理概論	HA5BDS1550	水	3時限	47
49 人間文化学部	人間文化学科	重迫 隆司		現代芸術とサブカルチャー論	HA6HIC2340	金	2時限	49
50 人間文化学部	人間文化学科	清水 洋子		中国語（Ⅰ）	G02CHI110i	火	4時限	46
51 人間文化学部	人間文化学科	原 千史		社会学概論	H05BFS1150	火	5時限	25
52 人間文化学部	人間文化学科	原 千史		社会学概論	H05MBS1110	火	5時限	1
53 人間文化学部	人間文化学科	村上 亮		現代ヨーロッパ事情	HA5BDS1500	水	2時限	36
54 人間文化学部	人間文化学科	脇 忠幸		日本語表現法Ⅰ	G02JNE1152	火	2時限	63
55 人間文化学部	人間文化学科	市瀬 信子		中国近世文化研究1	HA6LIT3260	金	4時限	17
56 人間文化学部	人間文化学科	竹村 信治		日本の中世文学1	HA6LIT3420	月	2時限	27
57 人間文化学部	人間文化学科	田野 慎二		日本王朝文学研究1	HA6LIT2100	木	1時限	23
58 人間文化学部	人間文化学科	藤本 真理子		日本語の歴史	HA6ETH3100	火	4時限	10
59 人間文化学部	人間文化学科	藤本 真理子		日本語の歴史1	HA6ETH3530	火	4時限	2
60 人間文化学部	人間文化学科	三井 麻央		ヨーロッパ美術史1	HA6HIC2280	金	4時限	29

61	人間文化学部	心理学科	赤澤 淳子	発達心理学	HP6CRS2350	木	2 時限	68
62	人間文化学部	心理学科	赤澤 淳子	生涯発達心理学	HP6MAS3600	木	2 時限	2
63	人間文化学部	心理学科	枝廣 和憲	教育相談	HP6MAS3800	木	5 時限	10
64	人間文化学部	心理学科	枝廣 和憲	教育相談	HP6RLS3100	木	5 時限	14
65	人間文化学部	心理学科	枝廣 和憲	教育相談	QC7TTC3240	木	5 時限	49
66	人間文化学部	心理学科	金平 希	障害者・障害児心理学	HP6ADS3300	月	4 時限	55
67	人間文化学部	心理学科	金平 希	障害者心理学	HP6MAS2450	月	4 時限	2
68	人間文化学部	心理学科	日下部 典子	コミュニケーション心理学	HP6ADS3500	金	3 時限	37
69	人間文化学部	心理学科	武田 知也	健康・医療心理学	HP6ADS3200	火	1 時限	55
70	人間文化学部	心理学科	武田 知也	健康心理学	HP6MAS2700	火	1 時限	1
71	人間文化学部	心理学科	平 伸二	心理学概論	H05BFS1100	木	1 時限	15
72	人間文化学部	心理学科	平 伸二	心理学概論	H05BFS1101	木	1 時限	68
73	人間文化学部	心理学科	平 伸二	心理学基礎論	H05MBS1410	木	1 時限	2
74	人間文化学部	心理学科	福留 広大	心理調査概論	HP6CRS2100	火	2 時限	64
75	人間文化学部	心理学科	福留 広大	社会調査法	HP6MAS2350	火	2 時限	7
76	人間文化学部	心理学科	松本 明生	心と健康	G03THC1200	火	1 時限	159
77	人間文化学部	心理学科	宮崎 由樹	知覚・認知心理学	HP6CRS2200	火	3 時限	69
78	人間文化学部	心理学科	宮崎 由樹	認知心理学	HP6MAS3550	火	3 時限	5
79	人間文化学部	心理学科	山崎 理央	臨床心理学概論	HP6CRS2150	水	3 時限	66
80	人間文化学部	心理学科	栗延 孟	福祉心理学	HP6ADS3250	集中講義		57
81	人間文化学部	心理学科	山田 健吾	関係行政論	HP6RLS3350	集中講義		38
82	人間文化学部	メディア・映像学科	内垣戸 貴之	メディア応用実習	HM6EPS3350	火	3 時限	39
83	人間文化学部	メディア・映像学科	田中 始男	Web デザイン	HM6EPS2150	火	2 時限	44
84	人間文化学部	メディア・映像学科	筒本 和広	情報処理基礎	G02INL110s	木	4 時限	62
85	人間文化学部	メディア・映像学科	丸山 友美	メディア文化論	G03HIC1650	木	4 時限	157
86	人間文化学部	メディア・映像学科	丸山 友美	メディア文化論	HM6FSU1150	木	4 時限	43
87	人間文化学部	メディア・映像学科	安田 晓	色彩論	H05BFS1200	月	2 時限	116
88	人間文化学部	メディア・映像学科	安田 晓	色彩論	H05MBS1370	月	2 時限	6
89	人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 浩司	ゲームメディア論	HM6FSU2150	火	1 時限	57
90	人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 浩司	ゲームメディア論	HM6FUR2150	火	1 時限	1
91	人間文化学部	メディア・映像学科	大塚 勉	グラフィックデザイン	HM6EPR2100	木	1 時限	3
92	人間文化学部	メディア・映像学科	大塚 勉	グラフィックデザイン	HM6EPS2100	木	1 時限	43
93	人間文化学部	メディア・映像学科	田中 聰登	広告制作	HM6EPR3100	水	3 時限	1
94	人間文化学部	メディア・映像学科	田中 聰登	広告制作	HM6EPS3100	水	3 時限	32
95	人間文化学部	メディア・映像学科	山本 光秀	サウンドデザイン	HM6EPR3150	水	3 時限	3
96	人間文化学部	メディア・映像学科	山本 光秀	サウンドデザイン	HM6EPS3150	水	3 時限	33
97	工学部	スマートシステム学科	沖 俊任	ものづくり加工法	TA6COM2100	金	2 時限	11
98	工学部	スマートシステム学科	香川 直己	電気電子基礎	TA6COM1110	火	1 時限	27
99	工学部	スマートシステム学科	香川 直己	電子基礎	TA6EEC1100	火	1 時限	2
100	工学部	スマートシステム学科	香川 直己	スマートシステム概論	QC7TTC1600	金	3 時限	4
101	工学部	スマートシステム学科	香川 直己	スマートシステム概論	TA6COM1100	金	3 時限	30
102	工学部	スマートシステム学科	香川 直己	回路理論II	TA6EEC2150	金	4 時限	25
103	工学部	スマートシステム学科	伍賀 正典	ロボット応用	TA6CSE4100	月	2 時限	6
104	工学部	スマートシステム学科	伍賀 正典	プログラミング実習	TA6COM2450	水	1 時限	9
105	工学部	スマートシステム学科	菅原 聰	電気磁気学II	TA6EEC2100	木	3 時限	18
106	工学部	スマートシステム学科	関田 隆一	技術者倫理	TA6COM1200	月	1 時限	1
107	工学部	スマートシステム学科	関田 隆一	技術者倫理	TA6COM2500	月	1 時限	14
108	工学部	スマートシステム学科	田中 聰	通信工学	TA6EEC3100	木	1 時限	10
109	工学部	スマートシステム学科	仲嶋 一	基礎電気技術	LB5MAP2900	木	3 時限	13
110	工学部	スマートシステム学科	仲嶋 一	基礎電気工学	LM5PHS2100	木	3 時限	33
111	工学部	スマートシステム学科	仲嶋 一	電気工学概論	TI6HAR4100	木	3 時限	4
112	工学部	スマートシステム学科	三谷 康夫	工業数学I	TA5FUS1200	火	2 時限	28
113	工学部	スマートシステム学科	宮内 克之	防災工学	T06SSE2100	火	1 時限	16
114	工学部	スマートシステム学科	宮内 克之	防災工学	TG6SSE2100	火	1 時限	15
115	工学部	スマートシステム学科	宮内 克之	防災工学	TG6SSE2100	火	1 時限	29
116	工学部	スマートシステム学科	鳴石 しのぶ	キャリアデザインエンジニア入門	TA6COM3100	木	2 時限	13
117	工学部	スマートシステム学科	鳴石 しのぶ	キャリアデザインエンジニア入門	TG6MSA3150	木	2 時限	20
118	工学部	スマートシステム学科	鳴石 しのぶ	キャリアデザインエンジニア入門	TI5FUS3100	木	2 時限	25
119	工学部	建築学科	伊澤 康一	建築環境工学I	TK6FUA2400	木	4 時限	81
120	工学部	建築学科	梅國 章	建築構造材料	T06SSE2200	金	2 時限	127

121	工学部	建築学科	梅國 章	建築材料	TK6FUA2600	金	2 時限	2
122	工学部	建築学科	大島 秀明	都市計画	T06SSE3200	水	1 時限	68
123	工学部	建築学科	大島 秀明	アーバンプランニング	T06SSE3550	水	1 時限	1
124	工学部	建築学科	大島 秀明	アーバンプランニング	TG6SSE3100	水	1 時限	11
125	工学部	建築学科	大島 秀明	アーバンプランニング	TI6SSE4100	水	1 時限	5
126	工学部	建築学科	大島 秀明	都市計画	TK6COM3200	水	1 時限	8
127	工学部	建築学科	佐々木 伸子	住宅計画	TK6FUA1250	水	2 時限	82
128	工学部	建築学科	佐藤 圭一	日本建築史	TK6COM2500	月	2 時限	85
129	工学部	建築学科	田辺 和康	地学	LB5ERS1900	木	1 時限	16
130	工学部	建築学科	田辺 和康	地学	LM5ERS1101	木	1 時限	63
131	工学部	建築学科	田辺 和康	地学(教職)	QC7TTC1251	木	1 時限	13
132	工学部	建築学科	都祭 弘幸	静定力学Ⅱ	TK6FUA2450	金	1 時限	119
133	工学部	建築学科	藤原 美樹	建築計画Ⅰ	TK6FUA2300	月	4 時限	103
134	工学部	建築学科	宮地 功	建築積算	TK6COM4150	火	2 時限	56
135	工学部	建築学科	山田 明	構造・力学入門	TK6FUA1300	金	1 時限	79
136	工学部	情報工学科	池岡 宏	コンピュータグラフィックス	TI6APP2200	木	2 時限	58
137	工学部	情報工学科	尾関 孝史	情報処理概論(情報化社会と倫理)	HM5BDS1100	火	3 時限	12
138	工学部	情報工学科	尾関 孝史	情報処理概論(情報化社会と倫理)	HM5MBS1100	火	3 時限	1
139	工学部	情報工学科	尾関 孝史	情報工学入門(情報化社会と倫理)	TI6COM1100	火	3 時限	58
140	工学部	情報工学科	金子 邦彦	コンピューターサイエンス	TI6COM1150	金	2 時限	57
141	工学部	情報工学科	新谷 敏朗	データ構造とアルゴリズム	TI6SOF2150	金	3 時限	62
142	工学部	情報工学科	中道 上	ヒューマンコンピュータインターラクション	T06SSE2150	月	2 時限	70
143	工学部	情報工学科	宮崎 光二	プログラミング応用	TI6SOF2100	木	3 時限	64
144	工学部	情報工学科	森田 翔太	論理回路	TI6HAR2100	月	3 時限	61
145	工学部	情報工学科	山之上 卓	専門英語	G02ENG3501	金	2 時限	46
146	工学部	機械システム工学科	内田 博志	エンジンシステム	TG6MSA3300	月	3 時限	27
147	工学部	機械システム工学科	加藤 昌彦	要素設計学	TG6MSA2200	木	2 時限	27
148	工学部	機械システム工学科	木村 純壯	制御システム設計	TG6MSA3250	金	2 時限	15
149	工学部	機械システム工学科	小林 正明	計測工学	TG6MSA2800	水	1 時限	12
150	工学部	機械システム工学科	坂口 勝次	熱力学	TG6MSA2500	月	3 時限	28
151	工学部	機械システム工学科	閑根 康史	機械設計製図基礎	TG6MSA1150	火	5 時限	39
152	工学部	機械システム工学科	中東 潤	機能材料学	TG6MSA2400	火	4 時限	29
153	工学部	機械システム工学科	真鍋 圭司	数学Ⅰ	TG5FUS1100	金	2 時限	41
154	工学部	機械システム工学科	土井 康明	流体工学	TG6MSA2450	木	1 時限	41
155	生命工学部	生物工学科	岩本 博行	化学Ⅰ	LB5CHE1600	月	1 時限	39
156	生命工学部	生物工学科	太田 雅也	環境分析学	LB6ABI3850	火	1 時限	43
157	生命工学部	生物工学科	佐藤 淳	地球環境科学	LB6BII2800	木	2 時限	31
158	生命工学部	生物工学科	秦野 琢之	バイオマス・資源リサイクル	LB6ABI2800	火	2 時限	38
159	生命工学部	生物工学科	原口 博行	植物栄養生理学	LB6BII2500	水	2 時限	33
160	生命工学部	生物工学科	久富 泰資	分子生物学	LB6BII2100	金	2 時限	38
161	生命工学部	生物工学科	広岡 和丈	バイオ情報処理演習	LB5PRA3950	水	1 時限	39
162	生命工学部	生物工学科	松崎 浩明	生物学Ⅱ	LB5BIO1100	水	1 時限	39
163	生命工学部	生物工学科	松崎 浩明	生物学Ⅱ	TG5FUS1350	水	1 時限	1
164	生命工学部	生物工学科	山口 泰典	動物機能利用学	LB6ABI3400	月	2 時限	44
165	生命工学部	生物工学科	山本 覚	動物生理学	LB6BII2420	月	1 時限	34
166	生命工学部	生物工学科	吉崎 隆之	ワイン醸造学	LB6ABI3300	火	2 時限	41
167	生命工学部	生物工学科	磯崎 哲夫	理科教育法	QC7TTC3810	火	3 時限	12
168	生命工学部	生物工学科	磯崎 哲夫	理科教育法研究	QC7TTC3840	火	4 時限	3
169	生命工学部	生命栄養科学科	井ノ内 直良	栄養学総論	LN6BAN1100	木	1 時限	33
170	生命工学部	生命栄養科学科	菊田 安至	分子生物学	LN5BMD2100	水	1 時限	45
171	生命工学部	生命栄養科学科	久保田 みどり	臨床栄養学Ⅱ	LN6CLN3251	木	2 時限	24
172	生命工学部	生命栄養科学科	田中 信一郎	疾患学総論	LN5BMD2200	月	2 時限	42
173	生命工学部	生命栄養科学科	中崎 千尋	地域公衆栄養学	LN6PHN3101	月	2 時限	23
174	生命工学部	生命栄養科学科	山本 英二	基礎化学	LN5CHE1100	水	2 時限	32
175	生命工学部	生命栄養科学科	吉田 純子	応用栄養学Ⅰ	LN6APN2100	木	2 時限	42
176	生命工学部	生命栄養科学科	荻野 太司	社会福祉概論	LN5SHE2200	火	2 時限	43
177	生命工学部	生命栄養科学科	福田 伸治	食品衛生学	LN5FOH2150	金	2 時限	42
178	生命工学部	生命栄養科学科	石井 香代子	卒業演習Ⅰ	LN6SPI4100	集中講義	集中講義	37
179	生命工学部	生命栄養科学科	西 彰子	栄養教育論実習	LN6NUE3201	集中講義	集中講義	23
180	生命工学部	海洋生物科学科	有瀧 真人	魚類解剖学	LM6MCS2250	金	1 時限	112

181	生命工学部	海洋生物科学科	伊丹 利明		魚類生理学	LM6MCS2200	金	2時限	114
182	生命工学部	海洋生物科学科	金子 健司		沿岸域の水産業	LM6FIE3201	金	1時限	89
183	生命工学部	海洋生物科学科	我如古 菜月		栄養学	LM6MCS2400	木	2時限	100
184	生命工学部	海洋生物科学科	北口 博隆		暮らしこ微生物	LM5BIO2150	火	2時限	112
185	生命工学部	海洋生物科学科	倉掛 昌裕		食品衛生学	LB6BII3300	金	2時限	33
186	生命工学部	海洋生物科学科	倉掛 昌裕		食品衛生学	LM6MFS3201	金	2時限	67
187	生命工学部	海洋生物科学科	阪本 憲司		魚学概論	LM6MCS1100	水	1時限	123
188	生命工学部	海洋生物科学科	真田 誠至		博物館概論	HA6CUR2100	金	2時限	10
189	生命工学部	海洋生物科学科	真田 誠至		博物館概論	LM6AQS3201	金	2時限	48
190	生命工学部	海洋生物科学科	真田 誠至		博物館概論	QC7CUC2100	金	2時限	6
191	生命工学部	海洋生物科学科	高村 克美		動物組織学	LM6MCS2300	水	1時限	107
192	生命工学部	海洋生物科学科	水上 雅晴		観賞魚の飼育と繁殖	LM6AQS3101	月	1時限	71
193	生命工学部	海洋生物科学科	満谷 淳		専門英語	G02ENG350p	木	1時限	28
194	生命工学部	海洋生物科学科	三輪 泰彦		生化学	LM5CHE2100	月	2時限	114
195	生命工学部	海洋生物科学科	山岸 幸正		化学 I	LM5CHE1102	月	2時限	59
196	生命工学部	海洋生物科学科	渡辺 伸一		生物統計学	LM5BIO2100	水	2時限	79
197	薬学部	薬学科	赤崎 健司		社会・集団と健康	PP6HLS4151	木	1時限	121
198	薬学部	薬学科	石津 隆		薬学の基礎となる化学 A	PP5MBS1340	木	2時限	106
199	薬学部	薬学科	石津 隆		医薬品管理	PP6LAS4101	金	1時限	141
200	薬学部	薬学科	井上 敦子		循環器系・腎疾患の薬・病態・治療	PP6CLP3100	火	2時限	122
201	薬学部	薬学科	井上 敦子		消化器系疾患の薬・病態・治療	PP6CLP3140	木	1時限	123
202	薬学部	薬学科	井上 裕文		基礎分析化学 A	PP5MBS1260	月	2時限	106
203	薬学部	薬学科	井上 裕文		薬局方収載の試験法	PP6PHY3151	水	1時限	113
204	薬学部	薬学科	江藤 精二		悪性腫瘍の薬・病態・治療	PP6CLP4180	火	2時限	131
205	薬学部	薬学科	岡村 信幸		薬になる動植物	PP6CHE2150	火	2時限	109
206	薬学部	薬学科	岡村 信幸		漢方医学概説	PP6CLP1100	水	2時限	107
207	薬学部	薬学科	小嶋 英二朗		機器分析学	PP6PHY2200	木	1時限	113
208	薬学部	薬学科	五郎丸 剛		医薬品の安定供給と社会保障制度	PP6LAS4150	月	2時限	134
209	薬学部	薬学科	今 重之		感染症の薬物治療	PP6CLP4300	木	2時限	134
210	薬学部	薬学科	白川 真		薬学の基礎としての数学 A	PP5MBS1180	月	1時限	107
211	薬学部	薬学科	杉原 成美		化学物質の生体への影響	PP6HLS3100	月	1時限	121
212	薬学部	薬学科	杉原 成美		生体のなりたち	G03NAS1400	火	1時限	110
213	薬学部	薬学科	田中 哲郎		実習 V	PP6PET4100	月	3時限	132
214	薬学部	薬学科	田中 哲郎		薬物の臟器への到達と消失	PP6CLP3180	火	1時限	123
215	薬学部	薬学科	田村 豊		薬の効くメカニズム	PP6CLP2100	水	1時限	118
216	薬学部	薬学科	町支 臣成		基礎有機化学 I	PP6CHE1100	火	2時限	109
217	薬学部	薬学科	町支 臣成		医薬品の化学構造と性質	PP6CHE4100	水	2時限	137
218	薬学部	薬学科	長崎 信浩		病原微生物と感染症	PP6BIO3150	水	2時限	123
219	薬学部	薬学科	秦 季之		化学反応速度	PP6PHY3100	木	3時限	125
220	薬学部	薬学科	広瀬 雅一		生命倫理	PP5MBS3101	金	4時限	121
221	薬学部	薬学科	藤岡 晴人		有機化学 I	PP6CHE2100	月	1時限	106
222	薬学部	薬学科	前田 賴伸		統計解析と臨床研究	PP6CLP4220	火	1時限	131
223	薬学部	薬学科	前原 昭次		物質の基本概念	G03NAS1600	水	1時限	106
224	薬学部	薬学科	道原 明宏		ゲノム情報と創薬	PP6BIO2150	月	2時限	117
225	薬学部	薬学科	道原 明宏		バイオ・細胞医薬品	PP6CLP4340	金	2時限	42
226	薬学部	薬学科	本屋敷 敏雄		生体エネルギー代謝	PP6BIO2100	木	2時限	110
227	薬学部	薬学科	森田 哲生		生体調節分子	PP6BIO3100	月	2時限	115
228	薬学部	薬学科	山下 純		薬学入門 I	PP5MBS1100	月	3時限	106
229	薬学部	薬学科	渡邊 正知		中枢神経系疾患の薬・病態・治療 II	PP6CLP4140	水	1時限	134
230	薬学部	薬学科	木平 孝高		ファーマシューティカルケア総合演習 I	PP6PET6150	集中講義		128
231	大学教育センター	大学教育センター	上西 幸治		TOEIC I	G02ENG1400	月	5時限	68
232	大学教育センター	大学教育センター	大塚 豊		教育課程論	QC7TTC2100	木	5時限	56
233	大学教育センター	大学教育センター	小野 太幹		数理科学	G03NAS1101	火	3時限	92
234	大学教育センター	大学教育センター	記谷 康之		インターネット・リテラシ入門	G03NAS1851	金	4時限	64
235	大学教育センター	大学教育センター	地主 弘幸		物理の世界	G03NAS1252	木	3時限	45
236	大学教育センター	大学教育センター	竹盛 浩二		日本語表現法	G02JNE110p	金	4時限	83
237	大学教育センター	大学教育センター	Tang Warren		英語 I	G02ENG110j	木	2時限	41
238	大学教育センター	大学教育センター	津田 将行		キャリアデザイン I	G04CAE1103	木	5時限	199
239	大学教育センター	大学教育センター	中尾 佳行		英語 I	G02ENG110b	火	4時限	42
240	大学教育センター	大学教育センター	前田 吉広		キャリアデザイン I	G04CAE1101	木	5時限	187

241	大学教育センター	大学教育センター	劉 国彬		中国語（Ⅰ）	G02CHI110f	木	3時限	63
242	大学教育センター	大学教育センター	Lowes Jason		英語Ⅲ	G02ENG210e	火	2時限	30
243	大学教育センター	大学教育センター	若松 正晃		英語Ⅲ	G02ENG210d	月	3時限	37
244	大学教育センター	大学教育センター	赤松 頌也		フランス語（Ⅰ）	G02FRE1102	木	2時限	50
245	大学教育センター	大学教育センター	梅木 璃子		英語Ⅲ	G02ENG210b	月	3時限	46
246	大学教育センター	大学教育センター	上村 崇		倫理学（1）	G03THC1250	火	4時限	70
247	大学教育センター	大学教育センター	遠藤 耕二		哲学（1）	G03THC1100	火	2時限	108
248	大学教育センター	大学教育センター	大牛 英則		英語Ⅰ	G02ENG110c	火	4時限	43
249	大学教育センター	大学教育センター	岡本 昌規		体育実技Ⅲ（陸上競技）	EE6SPM2600	金	1時限	16
250	大学教育センター	大学教育センター	崔 真英		韓国語（Ⅰ）	G02KOR1102	火	4時限	45
251	大学教育センター	大学教育センター	神野 靖子		音楽	G03AHS1241	火	2時限	24
252	大学教育センター	大学教育センター	齋藤 一彦		体育（1）	G03AHS1441	火	2時限	40
253	大学教育センター	大学教育センター	齋藤 拓海		日本史（1）	G03HIC1102	水	3時限	75
254	大学教育センター	大学教育センター	柴原 直樹		日本史（1）	G03HIC1103	金	3時限	101
255	大学教育センター	大学教育センター	菅波 真吾		剣道（1）	G03AHS1361	金	2時限	9
256	大学教育センター	大学教育センター	末葭 敏久		中国語（Ⅰ）	G02CHI110d	火	4時限	46
257	大学教育センター	大学教育センター	鈴木 ヘザー		英語Ⅰ	G02ENG110s	金	4時限	44
258	大学教育センター	大学教育センター	外林 省二		書道	G03AHS1121	火	3時限	30
259	大学教育センター	大学教育センター	高垣 裕子		英語Ⅲ	G02ENG210g	火	2時限	30
260	大学教育センター	大学教育センター	田中 宏和		市民生活と法	G03SSL1101	金	2時限	180
261	大学教育センター	大学教育センター	谷川 充美		日本語表現法1	G02JNE1151	月	4時限	39
262	大学教育センター	大学教育センター	張 治清		中国語（Ⅰ）	G02CHI110g	木	2時限	37
263	大学教育センター	大学教育センター	帖佐 幸樹		日本語表現法	G02JNE110e	月	3時限	40
264	大学教育センター	大学教育センター	中越 信和		自然と人間	G03NAS1453	木	2時限	56
265	大学教育センター	大学教育センター	西村 正登		教育原理	QC7TTC1100	火	5時限	58
266	大学教育センター	大学教育センター	橋野 仁史		絵画	G03AHS1161	金	2時限	23
267	大学教育センター	大学教育センター	藤井 晶子		日本語表現法	G02JNE110g	月	4時限	50
268	大学教育センター	大学教育センター	藤本 明成		陶芸	G03AHS1202	水	4時限	29
269	大学教育センター	大学教育センター	前村 晃子		ドイツ語（Ⅰ）	G02GER1101	木	2時限	54
270	大学教育センター	大学教育センター	溝淵 裕		憲法	G03SSL1152	金	1時限	50
271	大学教育センター	大学教育センター	宮田 朋恵		日本語表現法	G02JNE110f	月	4時限	78
272	大学教育センター	大学教育センター	宮岡 弥生		日本語表現法	G02JNE110m	金	3時限	46
273	大学教育センター	大学教育センター	森岡 悅子		英語Ⅰ	G02ENG110u	金	4時限	41
274	大学教育センター	大学教育センター	山本 賢太郎		囲碁から学ぶ人間学（1）	G03AHS1800	火	4時限	20
275	大学教育センター	大学教育センター	Leriget de la Plante		英語Ⅰ	G02ENG110d	火	4時限	42
276	大学教育センター	大学教育センター	Krzysztof Medrzycki		英語Ⅰ	G02ENG110j	木	2時限	42
277	大学教育センター	大学教育センター	Willems Grant		英語Ⅰ	G02ENG110v	金	4時限	36
278	大学教育センター	大学教育センター	Henriquez Millon Adriana Maria		英語Ⅰ	G02ENG110a	火	4時限	43
279	大学教育センター	大学教育センター	操 智		中国語（Ⅰ）	G02CHI110j	木	2時限	33
280	大学教育センター	大学教育センター	山岡 啓子		英語Ⅲ	G02ENG210j	火	2時限	32
281	大学教育センター	大学教育センター	李 政樹		韓国語（Ⅰ）	G02KOR1103	木	2時限	43
282	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理基礎	G02INL110a	月	2時限	30
283	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理基礎	G02INL110c	月	3時限	42
284	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理基礎	G02INL110d	月	4時限	27
285	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理基礎	G02INL110e	火	3時限	41
286	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理基礎	G02INL110f	木	3時限	41
287	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理基礎	G02INL110g	木	4時限	43
288	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理基礎	G02INL110j	金	3時限	42
289	共同利用センター	共同利用センター	鶴崎 健一		自然と人間	G03NAS1452	火	2時限	192
290	国際センター	国際センター	趙 建紅		日本語（2）（留学生用科目）	G02JN11150	水	2時限	28
291	IR室	IR室	片桐 重和		情報処理基礎	G02INL110u	月	2時限	56

2. 【後期】授業評価アンケート

2-1. アンケート調査の目的

学生が主体的に学ぶ授業の展開を目指して、学生が授業をどのように受講しているのか、授業の何を期待しているのかを教員が理解し、各教員の授業改善に資するために本アンケートを実施する。また、全学的な教育改革の成果を検討する貴重な資料とする。さらに、学生が自己評価し、自身の学習姿勢を点検して改善に役立てるために本アンケートを実施する。

2-2. アンケート調査の概要

(1) 実施期間

令和2年12月16日（月）～1月11日（土）

(2) 調査科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）を対象に、1科目（演習・実習を含む受講生6人以上の科目）について、アンケート調査を行った。科目の選定は、各学科長・センター長に依頼した。遠隔授業アンケートでは、全学で延べ251科目（受講者数延べ17423人）について実施した。調査科目はp.133～137に示す。

(3) アンケート調査内容

アンケートの調査項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学修点検に関する7項目、自由記述1項目の合計15項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。なお、今年度から、対象科目に実習・演習を含めたこと、遠隔授業も実施していることから、これらにも対応できるよう設問内容を昨年度のものから加筆訂正した。各設問を以下に示す。

【質問1】<授業準備> 授業の準備は適切になされていると思いますか？

適切である／ほぼ適切である／どちらとも言えない／やや不適切である／不適切である

【質問2】<教員の話し方> 教員の話は聞き取りやすいですか？／（音声のない遠隔授業の場合では）資料は読みやすいですか？

聞き取りやすい（読みやすい）／ほぼ聞き取りやすい（ほぼ読みやすい）／どちらとも言えない／やや聞き取りにくい（やや読みにくい）／聞き取りにくい（読みにくい）

【質問3】<授業の計画性> 授業はシラバス通りに行われていますか？

行われている／ほぼ行われている／どちらとも言えない／やや異なっている／全く異なっている／シラバスを読んでいない

【質問 4】<授業時間> 授業を遅く始めたり、早く終わったりしないで、授業時間を守っていますか？
守っている／ほぼ守っている／どちらとも言えない／やや守っていない／守っていない／
この授業は遠隔授業なのでわからない

【質問 5】<授業の工夫> 教員は、授業内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？
思う／やや思う／どちらとも言えない／あまり思わない／思わない

【質問 6】<質問への誠意> 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えてていますか？
誠意をもって答えている／ほぼ誠意をもって答えている／どちらとも言えない／
やや誠意が感じられない／誠意が感じられない／質問したことがない

【質問 7】<授業への満足度> この授業に対する総合的なあなたの満足度を 5 段階で示してください
満足／ほぼ満足／どちらとも言えない／やや不満／不満

【質問 8】<関連学習> この授業に関して、1 回の授業あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？
3 時間以上／2～3 時間未満／1～2 時間未満／30 分～1 時間未満／30 分未満

【質問 9】<集中力> 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？
全くない／ほとんどない／どちらとも言えない／しばしばある／毎回ある

【質問 10】<出席状況> 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？
全出席／ほぼ出席／ときどき欠席する／やや欠席が多い／欠席が大変多い

【質問 11】<知識や技能の深まり> この授業を受講して、あなたの知識や技能は深まっていますか？
大いに深まっている／やや深まっている／どちらとも言えない／あまり深まっていない／
全く深まっていない

【質問 12】<質問への積極性> 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？
学修が十分進んでおり、質問の必要がない／しばしば質問する／ときどき質問する／
質問はあるが、ほとんど質問していない／学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない

【質問 13】<意欲の高まり> この授業を受講して、授業内容を更に詳しく学びたいと思いますか？
大いに思う／やや思う／どちらとも言えない／あまり思わない／全く思わない

【質問 14】<学修の成果> この授業あなたが得た成果を 5 段階で自己評価してください。
十分に成果はあがっている／少し成果はあがっている／どちらとも言えない／
あまり成果はあがっていない／全く成果はあがっていない

【質問 15】自由記述欄の記載事項

(4) 調査結果の集計

アンケート調査及び結果の集計は学修支援システム Cerezo (セレッソ) の機能を利用して行った。集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には 5、強く否定する回答には 1）を乗じ全回答数で除することで、平均点を算出した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、最高点は 5.0、最低点は 1.0 となる。なお、質問 3 では「シラバスを読んでいない」、質問 4 は「この授業は遠隔授業なのでわからない」、質問 6 は「質問したことがない」という選択肢を増やし、6 段階評価とした。なお、これらの選択肢については、その回答を平均点の算出には用いていない。

集計は、全学、学部・センター、学科、科目単位で行った。本報告書では、全学、学部・センター、学科単位での集計結果を掲載した。なお、所属教員が 1 名の国際センター、社会連携センター、および IR 室については本集計表から除外した。集計結果で表示している全学の各種値は、上記の 2 センターと IR 室の数値も含めて計算しているため学部・センターの合計値とは一致しない。

(5) 学生へのフィードバック方法

アンケート調査の結果のフィードバックは、授業担当教員がアンケート調査終了後の授業時や定期試験時あるいは Cerezo を用いてリモートで行った。

(6) アンケート実施後の教員による報告書提出

授業担当教員に集計結果返却後、各教員は報告書（p. 37 の報告書書式を参照）を学科長に提出し、学科長は学科教員の報告書を取りまとめて大学教育センター教育開発部門長に提出した。

(7) アンケート実施後の学科による総括

年度末に前期および後期の調査結果を踏まえて学科単位で授業評価アンケートを総括し、学科長から大学教育センター教育開発部門長に提出した（p. 56～132）。

令和2年度後期 授業評価アンケート結果に対する報告書						
担当教員	氏 名		所属学部・学科			
			学部		学科	
講 義 名			科目分類(不要な方を消去する)		受講者数	回答率
			共通教育科目	専門科目	名	%

お手数ですがこの科目のアンケート集計結果を各質問毎に記載してください

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7						
授業準備	話し方	計画性	授業時間	講義の工夫	質問への誠意	満足度						
質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14						
関連学習	集中力	出席状況	知識の深まり	質問への積極性	意欲の高まり	学修の成果						

◆アンケート結果の学生へのフィードバック方法

（記入用）

◆この講義に対する学生の評価結果について (アンケートの質問1～質問7が該当します)

○高く評価された事項

○改善を求められている事項

○今後の授業改善の計画

◆この講義を受講した学生の自己点検結果について (アンケートの質問8～質問14が該当します)

○学修成果という点でこの結果をどのように考えますか

○学生の学修成果を望ましい方向に進展させる方策はありますか

2-3. 全学、学部・センターのアンケート調査結果

2-3-1. 全学、学部・センターの集計結果一覧 (表1: 質問1~7、表2: 質問8~14)

表1 令和2年度後期【学部・センター】授業評価アンケート集計結果 質問1~質問7

講義番号	学部	学科	曜日	主担当教員	実施教員	科目名	系数	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
受講者数								17,423	3,832	1,635	2,288	2,209	4,094	2,826	196
回答者数								9,078	1,404	772	1,329	1,374	2,250	1,638	127
回答率								52.1%	36.6%	47.2%	58.1%	62.2%	55.0%	58.0%	64.8%
【質問1】 授業準備		適切である	5	6,263	959	553	865	1,024	1,584	1,076	1,584	1,076	1,584	1,076	94
授業の準備は適切になされていると思いますか?		ほぼ適切である	4	2,078	305	172	321	295	511	395	511	395	511	395	18
		どちらとも言えない	3	582	108	38	114	44	121	132	44	121	132	132	14
		やや不適切である	2	110	24	6	21	8	23	24	8	23	24	24	1
		不適切である	1	45	8	3	8	3	11	11	3	11	11	11	0
		平均点		4.59	4.55	4.64	4.52	4.70	4.62	4.53	4.62	4.53	4.53	4.53	4.61
【質問2】 教員の話し方		聞き取りやすい(読みやすい)	5	5,438	852	511	746	846	1,368	947	1,368	947	1,368	947	77
教員の話は聞き取りやすいですか?／(音声のない遠隔授業の場合では)資料は読みやすいですか?		ほぼ聞き取りやすい(ほぼ読みやすい)	4	2,388	338	191	376	367	586	427	367	586	427	427	36
		どちらとも言えない	3	831	126	45	135	109	195	193	109	195	193	193	11
		やや聞き取りにくい(やや読みにくい)	2	315	64	19	52	49	78	46	52	49	78	46	2
		聞き取りにくい(読みにくい)	1	106	24	6	20	3	23	25	3	23	25	25	1
		平均点		4.40	4.37	4.53	4.34	4.46	4.42	4.36	4.42	4.36	4.36	4.36	4.46
【質問3】 授業の計画性		行われている	5	5,556	886	448	889	839	1,338	989	889	1,338	989	989	79
授業はシラバス通りに行われていますか?		ほぼ行われている	4	1,627	255	163	260	260	289	317	260	289	317	317	22
		どちらとも言えない	3	497	86	46	97	51	67	123	51	67	123	123	7
		やや異なっている	2	76	16	4	17	5	8	21	5	8	21	21	2
		全く異なっている	1	19	4	2	4	0	6	2	0	6	2	2	1
		シラバスを読んでいない	-	1,303	157	109	62	219	542	186	62	219	542	186	16
		平均点		4.62	4.61	4.59	4.59	4.67	4.72	4.56	4.67	4.72	4.56	4.56	4.59
【質問4】 授業時間		守っている	5	5,605	889	491	822	899	1,362	965	1,362	965	1,362	965	70
授業を遅く始めたり、早く終わらせたりしないで、授業時間を守っていますか?		ほぼ守っている	4	1,494	225	131	246	199	351	286	199	351	286	286	23
		どちらとも言えない	3	567	101	44	102	68	103	122	44	102	122	122	10
		やや守っていない	2	115	26	9	19	7	29	19	7	29	19	19	2
		守っていない	1	34	9	3	6	2	9	5	2	9	5	5	0
		この授業は遠隔授業なのでわからない	-	1,263	154	94	134	199	396	241	94	199	396	241	22
		平均点		4.60	4.57	4.62	4.56	4.69	4.63	4.57	4.56	4.63	4.57	4.57	4.53
【質問5】 講義の工夫		思う	5	5,569	851	523	770	911	1,337	985	851	1,337	985	985	82
教員は、授業内容を理解しやすくするよう工夫していると思いますか?		やや思う	4	2,377	339	165	349	363	652	425	339	652	425	425	33
		どちらとも言えない	3	833	150	65	152	80	183	174	65	183	174	174	11
		あまり思わない	2	206	42	13	37	14	55	41	55	41	41	41	1
		思わない	1	93	22	6	21	6	23	13	6	23	13	13	0
		平均点		4.45	4.39	4.54	4.36	4.57	4.43	4.42	4.43	4.42	4.42	4.42	4.54
【質問6】 質問への誠意		誠意をもって答える	5	3,542	655	396	525	482	570	771	771	570	771	771	70
教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか?		ほぼ誠意をもって答える	4	939	177	88	177	142	110	204	110	142	204	204	12
		どちらとも言えない	3	661	133	53	127	85	94	142	53	94	142	142	7
		やや誠意が感じられない	2	72	16	6	14	6	9	19	6	9	19	19	2
		誠意が感じられない	1	47	9	3	11	5	10	8	5	10	8	8	1
		質問したことがない	-	3,817	414	226	475	654	1,457	494	654	1,457	494	494	35
		平均点		4.49	4.47	4.59	4.39	4.51	4.54	4.50	4.51	4.54	4.50	4.50	4.61
【質問7】 授業への満足度		満足	5	4,510	718	413	638	737	1,056	800	737	1,056	800	800	72
この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください		ほぼ満足	4	3,116	413	258	465	482	852	531	482	852	531	531	39
		どちらとも言えない	3	1,141	197	80	170	127	271	250	127	271	250	250	16
		やや不満	2	224	56	12	39	20	50	47	20	50	47	47	0
		不満	1	87	20	9	17	8	21	10	8	21	10	10	0
		平均点		4.29	4.25	4.37	4.26	4.40	4.28	4.26	4.40	4.28	4.26	4.26	4.44
【質問1】～【質問7】の平均				4.49	4.46	4.55	4.43	4.57	4.52	4.46	4.52	4.57	4.52	4.52	4.54

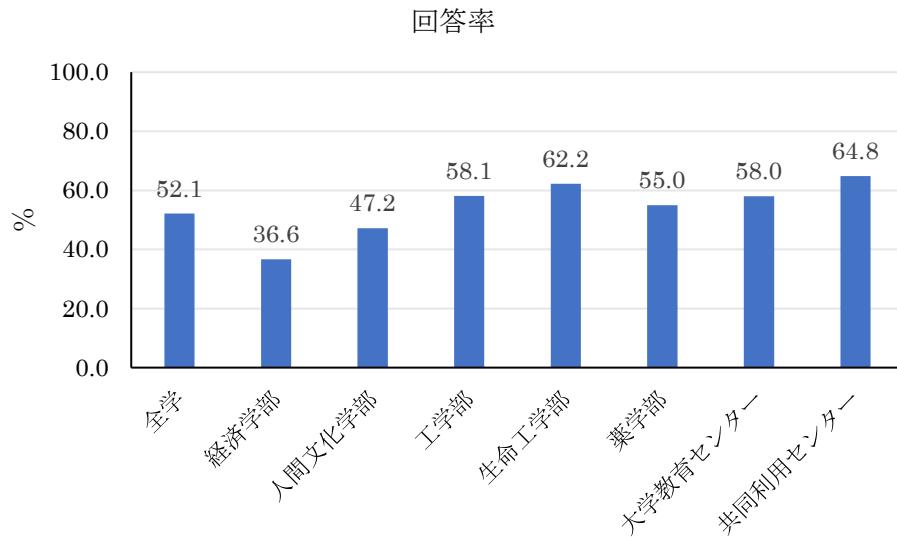
表2 令和2年度後期【学部・センター】授業評価アンケート集計結果 質問8～質問14

講義番号	学部	学科	曜日	主担当教員	実施教員	科目名	係数	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
受講者数								17,423	3,832	1,635	2,288	2,209	4,094	2,826	196
回答者数								9,078	1,404	772	1,329	1,374	2,250	1,638	127
回答率								52.1%	36.6%	47.2%	0.0%	62.2%	55.0%	58.0%	64.8%

【質問8】 関連学習 この授業に関して、1回の授業あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？	3時間以上	5	480	74	35	88	40	153	71	6					
	2～3時間未満	4	955	118	62	136	92	374	148	13					
	1～2時間未満	3	2,653	427	180	367	331	832	433	35					
	30分～1時間未満	2	2,845	479	265	405	530	550	519	35					
	30分未満	1	2,145	306	230	333	381	341	467	38					
	平均点		2.42	2.41	2.23	2.43	2.18	2.75	2.29	2.32					
	全くない	5	4,389	676	300	552	607	1,277	845	78					
	ほとんどない	4	2,946	447	286	452	468	690	485	35					
	どちらとも言えない	3	1,256	203	123	238	210	212	223	14					
	しばしばある	2	394	59	50	73	73	60	67	0					
	毎回ある	1	93	19	13	14	16	11	18	0					
	平均点		4.23	4.21	4.05	4.09	4.15	4.41	4.26	4.50					
【質問9】 集中力 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全出席	5	6,039	789	502	749	887	1,912	1,010	81					
	ほぼ出席	4	2,359	454	209	438	393	294	473	39					
	ときどき欠席する	3	493	122	45	104	62	32	109	6					
	やや欠席が多い	2	140	30	14	26	28	7	33	1					
	欠席が大変多い	1	47	9	2	12	4	5	13	0					
	平均点		4.56	4.41	4.55	4.42	4.55	4.82	4.49	4.57					
	大いに深まっている	5	3,847	559	366	597	589	934	676	62					
	やや深まっている	4	3,915	583	307	519	630	1,062	672	52					
	どちらとも言えない	3	1,030	185	81	167	128	197	236	13					
	あまり深まっていない	2	213	58	12	30	25	39	42	0					
	全く深まっていない	1	73	19	6	16	2	18	12	0					
	平均点		4.24	4.14	4.31	4.24	4.29	4.27	4.20	4.39					
【質問10】 出席状況 授業には特別な事情(公認欠席、忌引きなど)を除き、出席していますか？	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	4,105	716	368	584	644	823	820	54					
	しばしば質問する	4	665	112	71	126	96	87	150	13					
	ときどき質問する	3	1,032	162	109	161	155	192	209	23					
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2,932	374	201	423	422	1,001	426	31					
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	344	40	23	35	57	147	33	6					
	平均点		3.58	3.78	3.73	3.60	3.62	3.19	3.79	3.61					
	大いに思う	5	3,269	465	281	508	524	796	595	53					
	やや思う	4	3,606	522	315	479	604	983	584	48					
	どちらとも言えない	3	1,700	310	128	275	187	374	348	21					
	あまり思わない	2	352	70	35	40	42	76	81	3					
	全く思わない	1	151	37	13	27	17	21	30	2					
	平均点		4.05	3.93	4.06	4.05	4.15	4.09	4.00	4.16					
【質問11】 知識や技能の深まり この授業を受講して、あなたの知識や技能は深まっていますか？	十分に成果はあがっている	5	3,254	510	291	503	492	740	619	51					
	少し成果はあがっている	4	4,203	601	372	570	669	1,137	696	56					
	どちらとも言えない	3	1,329	228	93	196	181	321	263	19					
	あまり成果はあがっていない	2	213	47	9	39	29	37	47	1					
	全く成果はあがっていない	1	79	18	7	21	3	15	13	0					
	平均点		4.14	4.10	4.21	4.12	4.18	4.13	4.14	4.24					
	【質問8】～【質問14】の平均			3.89	3.85	3.88	3.85	3.87	3.95	3.88	3.97				

2-3-2. アンケート回答率について

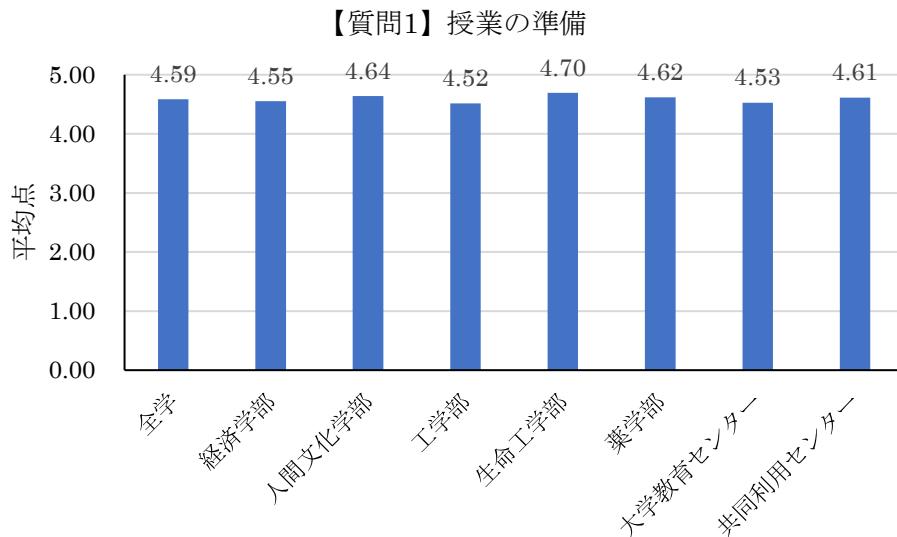
回答率をグラフに示した。全学平均では、52.1%であった（令和元年度後期の全学平均：50.1%、平成30年度後期の全学平均：51.2%）。回答率は例年と同程度であった。学部・センター間で回答率に差が認められた（30%台～60%台）。今後は学生へのアンケートの依頼方法についても再検討を行い、より多くの学生に協力してもらえるよう改善を図っていきたい。



2-3-3. 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）

① 【質問1】授業準備について

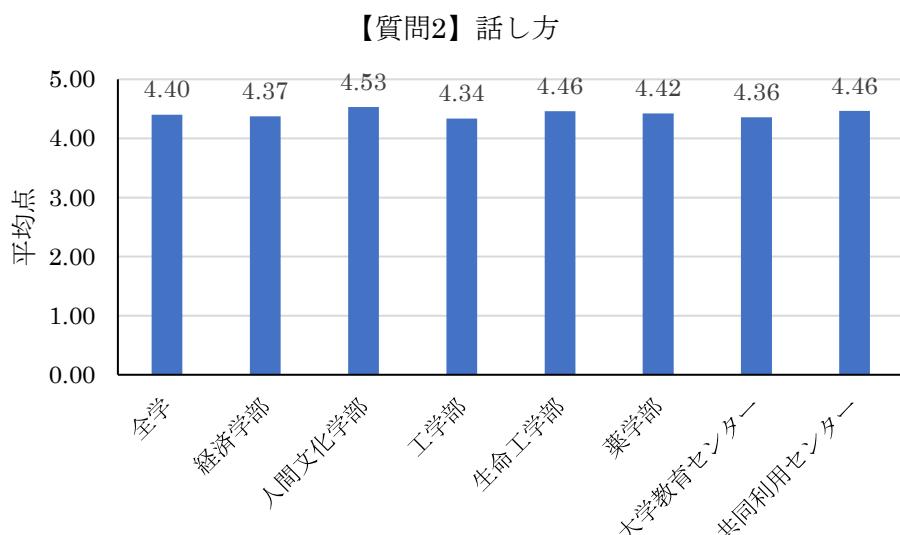
教員の「授業準備」は、すべての学部・センターにおいて4.5以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。



学生による授業評価アンケート（後期）<授業準備>回答の割合										
	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター	
【質問1】 授業準備 授業の準備が 適切になされ ていると思 いますか？	適切である	5	69.0%	68.3%	71.6%	65.1%	74.5%	70.4%	65.7%	74.0%
	ほぼ適切である	4	22.9%	21.7%	22.3%	24.2%	21.5%	22.7%	24.1%	14.2%
	どちらともいえない	3	6.4%	7.7%	4.9%	8.6%	3.2%	5.4%	8.1%	11.0%
	やや不適切である	2	1.2%	1.7%	0.8%	1.6%	0.6%	1.0%	1.5%	0.8%
	不適切である	1	0.5%	0.6%	0.4%	0.6%	0.2%	0.5%	0.7%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 【質問2】 話し方について

教員の「話し方」は、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.3以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。



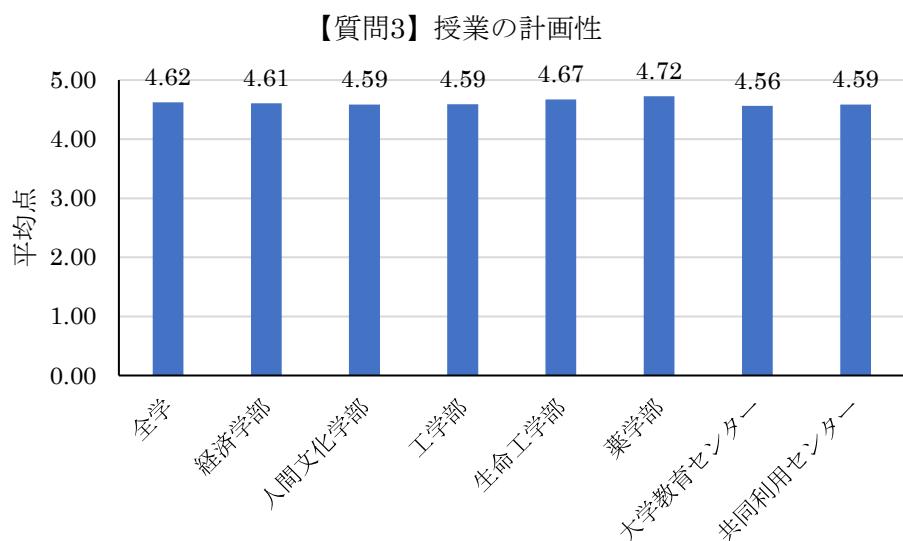
学生による授業評価アンケート（後期）<話し方>回答の割合										
	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター	
【質問2】 話し方 教員の話し方 は明確です か？	聞き取りやすい	5	59.9%	60.7%	66.2%	56.1%	61.6%	60.8%	57.8%	60.6%
	ほぼ聞き取りやすい	4	26.3%	24.1%	24.7%	28.3%	26.7%	26.0%	26.1%	28.3%
	どちらともいえない	3	9.2%	9.0%	5.8%	10.2%	7.9%	8.7%	11.8%	8.7%
	やや聞き取りにくい	2	3.5%	4.6%	2.5%	3.9%	3.6%	3.5%	2.8%	1.6%
	大変聞き取りにくい	1	1.2%	1.7%	0.8%	1.5%	0.2%	1.0%	1.5%	0.8%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③ 【質問3】授業の計画性について

「授業の計画性」は、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.5以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。

シラバスを読んでいない学生の割合は全学平均で14.4%であり、昨年度(15.1%)と同程度であった。学部・センター別で比較すると、経済学部(11.2%)、人間文化学部(14.1%)、工学部(4.7%)、生命工学部(15.9%)、薬学部(24.1%)、大学教育センター(11.4%)、共同利用センター(12.6%)であった。

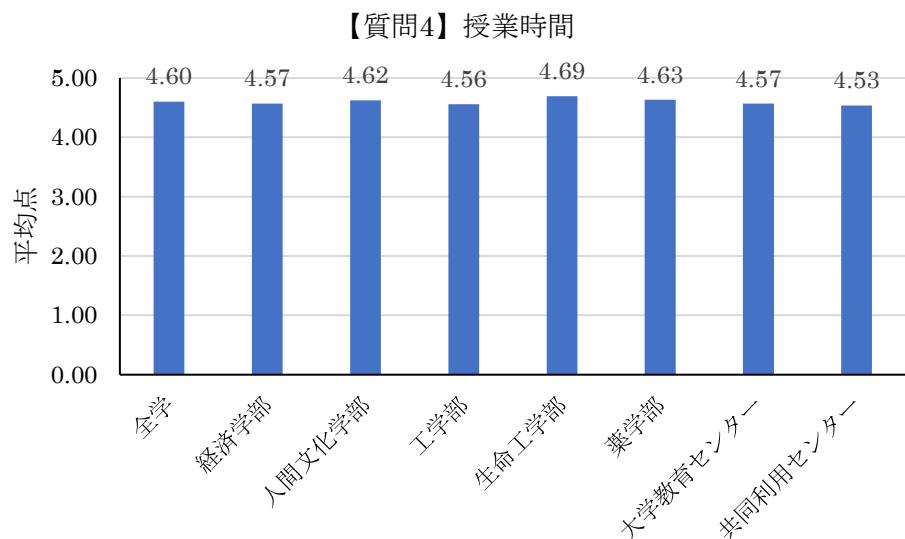
シラバスに記載されている授業のねらいや目的、授業の流れを把握しながら学習することは、授業内容の理解をより深める効果があることから、初回授業時に、あるいは授業を進めながら、適宜シラバスを用いた授業説明を行うなどの対応策が必要と考えられる。



学生による授業評価アンケート（後期）<計画性>回答の割合									
	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問3】 授業はシラバス通り行われていますか？	行われている	5	61.2%	63.1%	58.0%	66.9%	61.1%	59.5%	60.4%
	ほぼ行われている	4	17.9%	18.2%	21.1%	19.6%	18.9%	12.8%	19.4%
	どちらともいえない	3	5.5%	6.1%	6.0%	7.3%	3.7%	3.0%	7.5%
	やや異なっている	2	0.8%	1.1%	0.5%	1.3%	0.4%	0.4%	1.3%
	全く異なっている	1	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%	0.3%	0.1%
	シラバスを読んでいない	—	14.4%	11.2%	14.1%	4.7%	15.9%	24.1%	11.4%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④ 【質問4】授業時間について

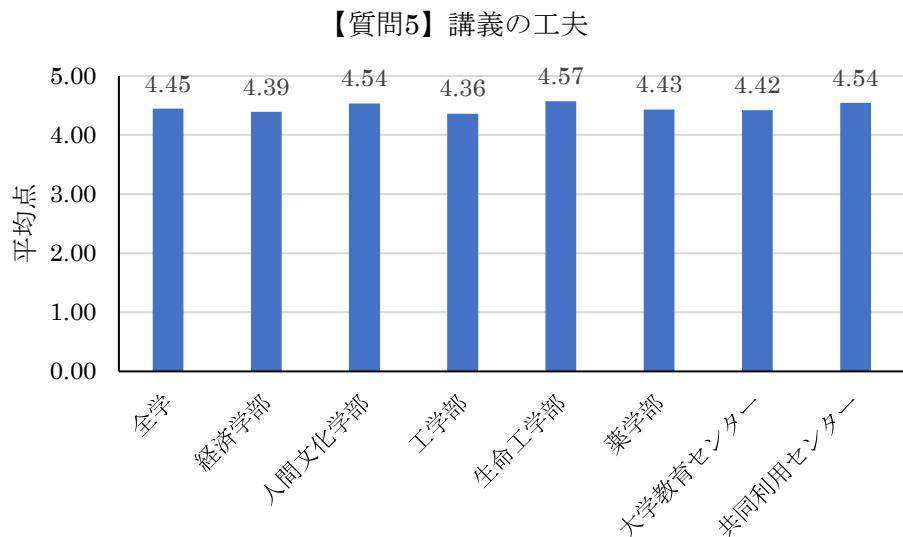
「授業時間」の遵守については、すべての学部・センターにおいて4.5以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。



学生による授業評価アンケート（後期）<計画性>回答の割合										
	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター	
【質問4】 授業時間 授業をあまりに 遅く始めたり、 早く終わったり しないで、90分 間の授業時間を 守っています か？	守っている	5	61.7%	63.3%	63.6%	61.9%	65.4%	60.5%	58.9%	55.1%
	ほぼ守っている	4	16.5%	16.0%	17.0%	18.5%	14.5%	15.6%	17.5%	18.1%
	どちらともいえない	3	6.2%	7.2%	5.7%	7.7%	4.9%	4.6%	7.4%	7.9%
	やや守っていない	2	1.3%	1.9%	1.2%	1.4%	0.5%	1.3%	1.2%	1.6%
	守っていない	1	0.4%	0.6%	0.4%	0.5%	0.1%	0.4%	0.3%	0.0%
	この授業は遠隔 授業なのでわか らない	-	13.9%	11.0%	12.2%	10.1%	14.5%	17.6%	14.7%	17.3%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤ 【質問5】講義の工夫について

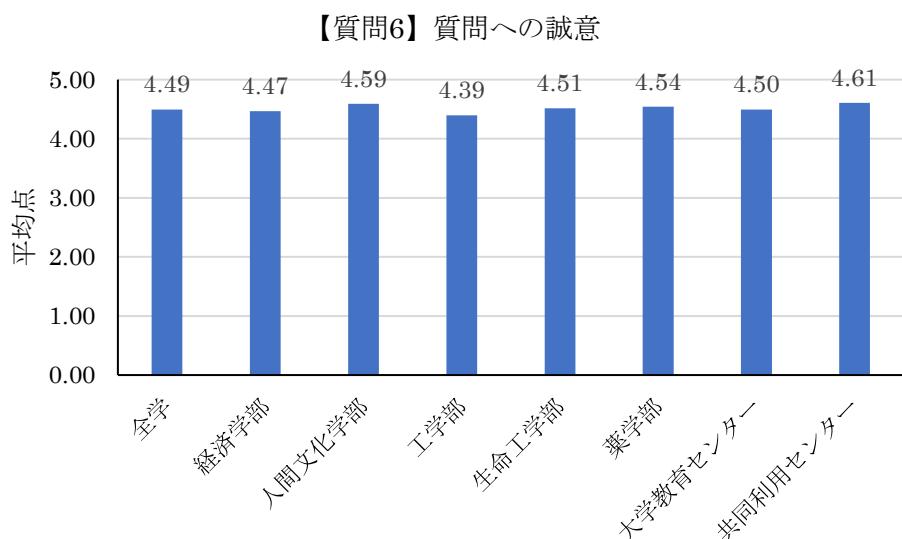
「講義の工夫」については、すべての学部・センターにおいて4.0以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかつた。



学生による授業評価アンケート（後期）<講義の工夫>回答の割合										
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問5】 講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思 いますか？	思う	5	61.3%	60.6%	67.7%	57.9%	66.3%	59.4%	60.1%	64.6%
	やや思う	4	26.2%	24.1%	21.4%	26.3%	26.4%	29.0%	25.9%	26.0%
	どちらともいえない	3	9.2%	10.7%	8.4%	11.4%	5.8%	8.1%	10.6%	8.7%
	あまり思わない	2	2.3%	3.0%	1.7%	2.8%	1.0%	2.4%	2.5%	0.8%
	全く思わない	1	1.0%	1.6%	0.8%	1.6%	0.4%	1.0%	0.8%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥ 【質問6】質問への誠意について

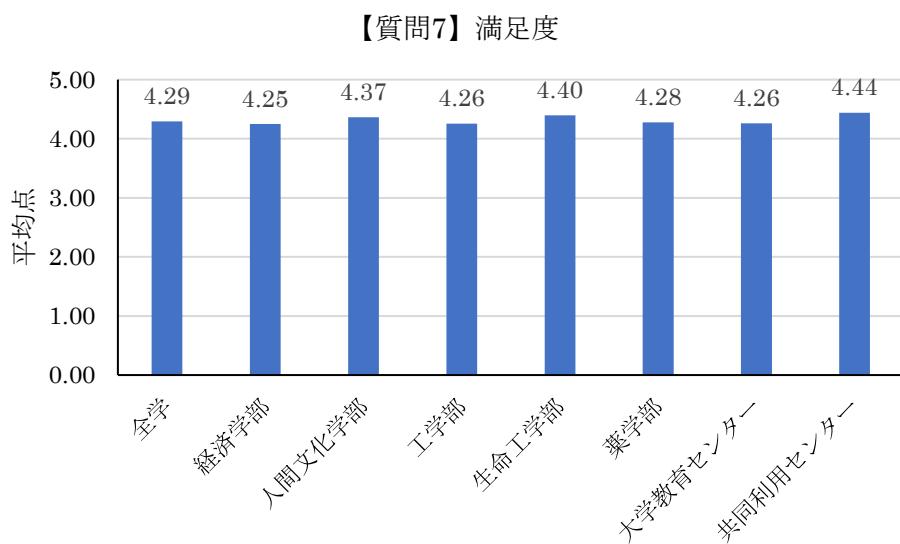
「質問への誠意」については、すべての学部・センターにおいて4.0以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。回答の割合については、薬学部において、「誠意をもって答える」が25.3%と低く、「質問したことが無い」が64.8%と高い値となっている。おそらく「質問したことが無い」ため、「誠意をもって答える」の回答が少ないものと考えられるが、薬学部においては、その原因を解析する必要がある。



学生による授業評価アンケート（後期）<質問への誠意>回答の割合										
	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター	
【質問6】質問への誠意 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えてていますか？	誠意をもって答える	5	39.0%	46.7%	51.3%	39.5%	35.1%	25.3%	47.1%	55.1%
	ほぼ誠意をもって答える	4	10.3%	12.6%	11.4%	13.3%	10.3%	4.9%	12.5%	9.4%
	どちらとも言えない	3	7.3%	9.5%	6.9%	9.6%	6.2%	4.2%	8.7%	5.5%
	やや誠意が感じられない	2	0.8%	1.1%	0.8%	1.1%	0.4%	0.4%	1.2%	1.6%
	誠意が感じられない	1	0.5%	0.6%	0.4%	0.8%	0.4%	0.4%	0.5%	0.8%
	質問したことがない	－	42.0%	29.5%	29.3%	35.7%	47.6%	64.8%	30.2%	27.6%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦ 【質問7】講義の満足度について

「講義の満足度」については、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.0以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。ただし、講義に対する満足度は、依然として授業評価7項目の中で最も低い評価もあるため、引き続き改善への取り組みが必要である。講義の満足度には様々な要因が関与していると考えられるので、個々の授業において担当教員がアンケート結果を解析し、改善していく必要がある。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。



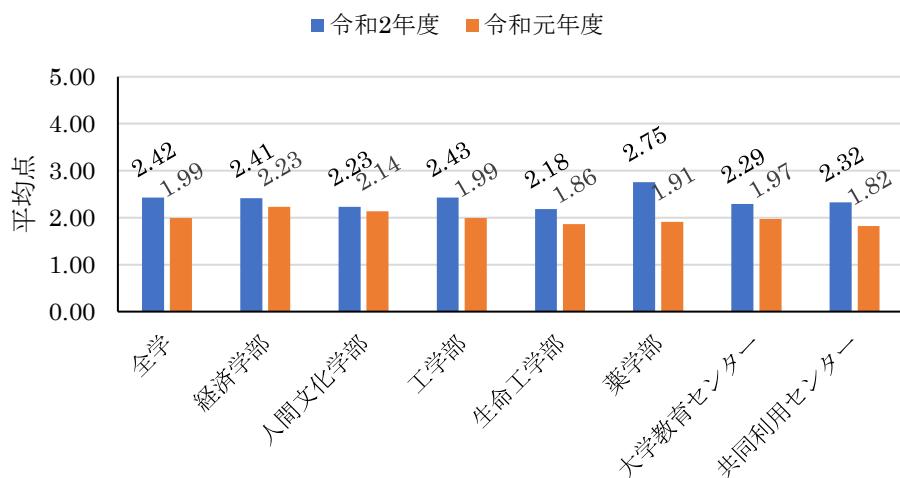
学生による授業評価アンケート（後期）<満足度>回答の割合										
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問7】授業への満足度 この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください	満足	5	49.7%	51.1%	53.5%	48.0%	53.6%	46.9%	48.8%	56.7%
	ほぼ満足	4	34.3%	29.4%	33.4%	35.0%	35.1%	37.9%	32.4%	30.7%
	どちらとも言えない	3	12.6%	14.0%	10.4%	12.8%	9.2%	12.0%	15.3%	12.6%
	やや不満	2	2.5%	4.0%	1.6%	2.9%	1.5%	2.2%	2.9%	0.0%
	不満	1	1.0%	1.4%	1.2%	1.3%	0.6%	0.9%	0.6%	0.0%
	平均点		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-3-4. 調査結果の内容（学生の自己点検について）

① 【質問8】関連学習について

「関連学習（授業に関する予習や復習、あるいは関連の学習）」については、2点台の結果であったが、昨年度に比較するとすべての学部で平均点が高くなっていた。最も変化が大きかったのは、薬学部（令和2年度2.75、令和元年度1.91）であった。今年度は遠隔授業が実施されたため、課題やレポート作成など授業時間外の時間が増えたものと考えられた。

【質問8】関連学習

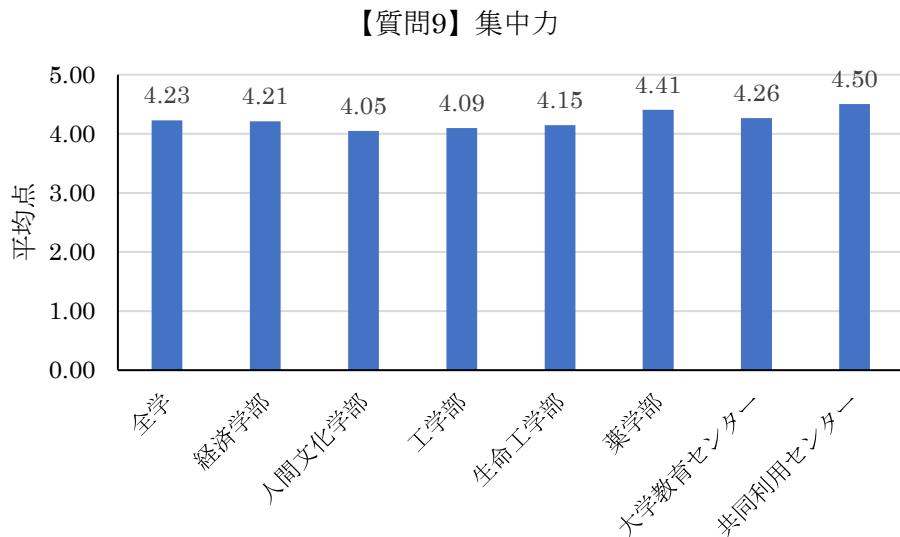


【令和2年度】学生による授業評価アンケート（後期）<関連学習>回答の割合										
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問8】 関連学習 この授業に関して、1回の講義あたり平均して どのくらい予習・復習、あるいは関連の学習 をしましたか？	3時間以上	5	5.3%	5.3%	4.5%	6.6%	2.9%	6.8%	4.3%	4.7%
	2～3時間未満	4	10.5%	8.4%	8.0%	10.2%	6.7%	16.6%	9.0%	10.2%
	1～2時間未満	3	29.2%	30.4%	23.3%	27.6%	24.1%	37.0%	26.4%	27.6%
	30分～1時間未満	2	31.3%	34.1%	34.3%	30.5%	38.6%	24.4%	31.7%	27.6%
	30分未満	1	23.6%	21.8%	29.8%	25.1%	27.7%	15.2%	28.5%	29.9%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【令和元年度】学生による授業評価アンケート（後期）<関連学習>回答の割合										
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問8】 関連学習 この授業に関して、1回の講義あたり平均して どのくらい予習・復習、あるいは関連の学習 をしましたか？	3時間以上	5	4.8%	7.8%	6.1%	4.3%	2.7%	4.6%	4.5%	4.2%
	2～3時間未満	4	5.4%	7.7%	6.6%	5.3%	4.1%	4.8%	4.9%	3.8%
	1～2時間未満	3	17.3%	20.3%	20.4%	16.8%	15.7%	16.2%	16.9%	13.9%
	30分～1時間未満	2	29.0%	28.2%	28.9%	32.3%	31.3%	25.8%	30.3%	25.7%
	30分未満	1	43.5%	36.1%	38.0%	41.3%	46.1%	48.6%	43.4%	52.3%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 【質問9】集中力について

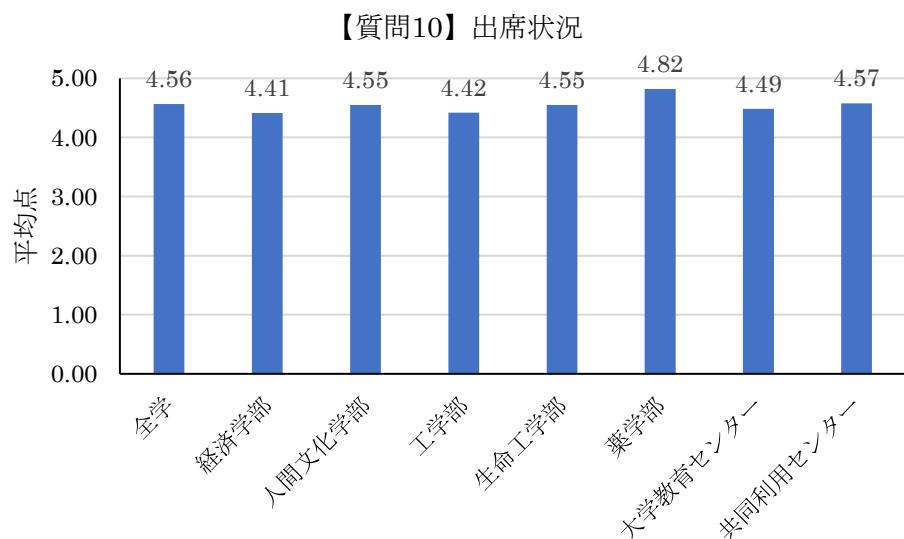
「集中力」については、すべての学部・センターにおいて前後期ともおおよそ4.0前後であり、おおむね良好であった。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。



学生による授業評価アンケート（後期）<集中力>回答の割合										
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問9】集中力 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	48.3%	48.1%	38.9%	41.5%	44.2%	56.8%	51.6%	61.4%
	ほとんどない	4	32.5%	31.8%	37.0%	34.0%	34.1%	30.7%	29.6%	27.6%
	どちらとも言えない	3	13.8%	14.5%	15.9%	17.9%	15.3%	9.4%	13.6%	11.0%
	しばしばある	2	4.3%	4.2%	6.5%	5.5%	5.3%	2.7%	4.1%	0.0%
	毎回ある	1	1.0%	1.4%	1.7%	1.1%	1.2%	0.5%	1.1%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③ 【質問10】出席状況について

「出席状況」については、すべての学部・センターにおいて4.0以上であり、高い自己評価となっている。出席確認を厳密に行って授業回数の1/5以上欠席した学生については担当教員が担任に連絡するというシステムが有効に機能しているものと考えられる。回答の割合については、薬学部において85%の学生が「全出席」しており、最も高い値であった。

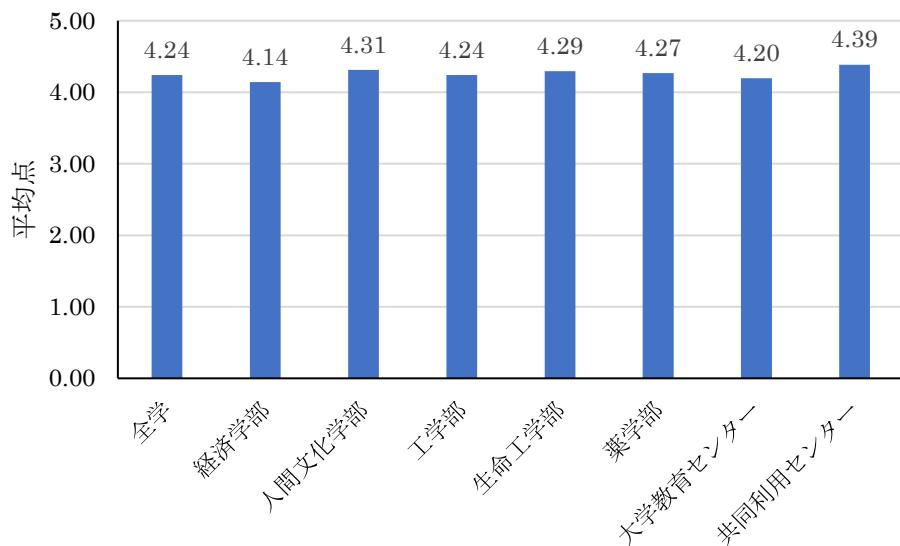


学生による授業評価アンケート（後期）<出席状況>回答の割合										
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問10】出席状況 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？	全出席	5	66.5%	56.2%	65.0%	56.4%	64.6%	85.0%	61.7%	63.8%
	ほぼ出席	4	26.0%	32.3%	27.1%	33.0%	28.6%	13.1%	28.9%	30.7%
	ときどき欠席する	3	5.4%	8.7%	5.8%	7.8%	4.5%	1.4%	6.7%	4.7%
	やや欠席が多い	2	1.5%	2.1%	1.8%	2.0%	2.0%	0.3%	2.0%	0.8%
	欠席が大変多い	1	0.5%	0.6%	0.3%	0.9%	0.3%	0.2%	0.8%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④ 【質問11】知識の深まりについて

「知識の深まり」については、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.0以上であり、高い自己評価となっている。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。

【質問11】知識の深まり

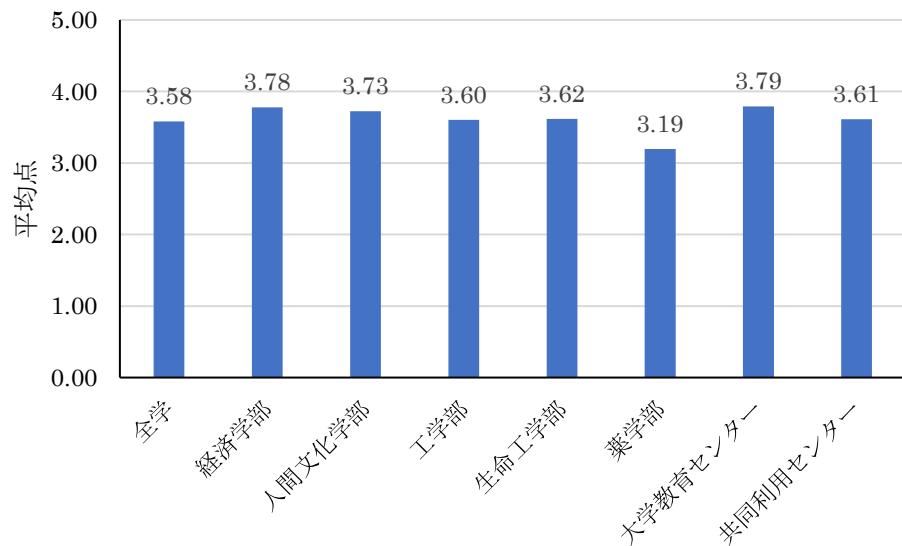


	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター	
【質問11】 知識の深まり この科目を受 講して、あな たの知識は深 まっています か？	大いに深まっている	5	42.4%	39.8%	47.4%	44.9%	42.9%	41.5%	41.3%	48.8%
	やや深まっている	4	43.1%	41.5%	39.8%	39.1%	45.9%	47.2%	41.0%	40.9%
	どちらとも言えない	3	11.3%	13.2%	10.5%	12.6%	9.3%	8.8%	14.4%	10.2%
	あまり深まっていない	2	2.3%	4.1%	1.6%	2.3%	1.8%	1.7%	2.6%	0.0%
	全く深まっていない	1	0.8%	1.4%	0.8%	1.2%	0.1%	0.8%	0.7%	0.0%
	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤ 【質問12】質問への積極性について

「質問への積極性」については、すべての学部・センターにおいて3点台の自己評価となっており、まだ改善の余地が残っている。回答の割合については、「質問はあるが、ほとんど質問していない」の回答は薬学部が最も多かった。

【質問12】質問への積極性



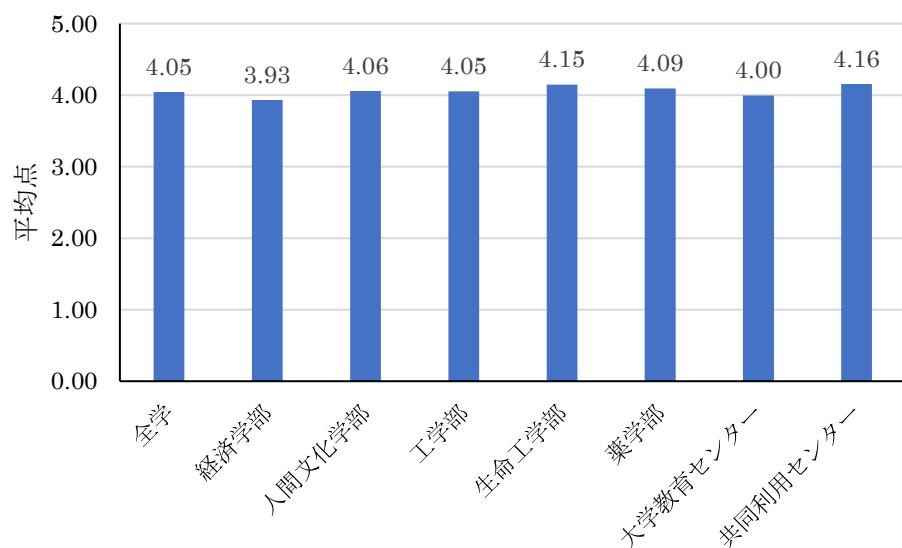
学生による授業評価アンケート（後期）<質問への積極性>回答の割合									
	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問12】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？	学修が十分進んでおり、質問の必要がない しばしば質問する	5	45.2%	51.0%	47.7%	43.9%	46.9%	36.6%	50.1%
	ときどき質問する	4	7.3%	8.0%	9.2%	9.5%	7.0%	3.9%	9.2%
	質問はあるが、ほとんど質問していない 学修に取り組んでいため、質問すべきことがみつからない	3	11.4%	11.5%	14.1%	12.1%	11.3%	8.5%	12.8%
	計	2	32.3%	26.6%	26.0%	31.8%	30.7%	44.5%	26.0%
	計	1	3.8%	2.8%	3.0%	2.6%	4.1%	6.5%	4.7%
合計									
100.0%									

⑥ 【質問13】意欲の高まりについて

「意欲の高まり」については、すべての学部・センターにおいて前後期ともおおよそ4.0前後の自己評価となっており、おおむね良好であった。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。

本項目についてはまだ改善の余地があると考えられるので、学生の自己評価が上がるよう、授業担当教員にはさらなる授業内容・方法の改善が求められる。

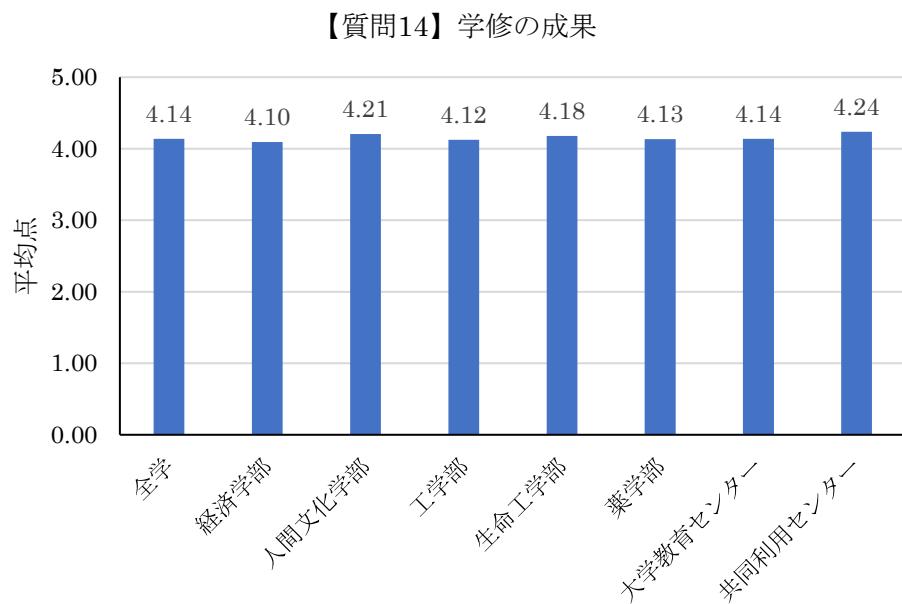
【質問13】意欲の高まり



学生による授業評価アンケート（前期）<意欲の高まり>回答の割合									
	回答	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問13】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いま すか？	大いに思う	5	36.0%	33.1%	36.4%	38.2%	38.1%	35.4%	36.3%
	やや思う	4	39.7%	37.2%	40.8%	36.0%	44.0%	43.7%	35.7%
	どちらともいえない	3	18.7%	22.1%	16.6%	20.7%	13.6%	16.6%	21.2%
	あまり思わない	2	3.9%	5.0%	4.5%	3.0%	3.1%	3.4%	4.9%
	全く思わない	1	1.7%	2.6%	1.7%	2.0%	1.2%	0.9%	1.8%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦ 【質問14】学修の成果について

「学修の成果」については、すべての学部・センターにおいて4.0以上であり、高い自己評価となっている。ただし、多くの学部・センターで「大いに思う」ではなく「やや思う」という回答が最も多かった。改善の余地があると考えられる。回答の割合については、学部・センター間で大きな相違は認められなかった。



回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター	
【質問14】 学修の成果 この科目であ なたが得た成 果を5段階で 自己評価して ください。	大いに思う	5	35.8%	36.3%	37.7%	37.8%	35.8%	32.9%	37.8%	40.2%
	やや思う	4	46.3%	42.8%	48.2%	42.9%	48.7%	50.5%	42.5%	44.1%
	どちらともいえない	3	14.6%	16.2%	12.0%	14.7%	13.2%	14.3%	16.1%	15.0%
	あまり思わない	2	2.3%	3.3%	1.2%	2.9%	2.1%	1.6%	2.9%	0.8%
	全く思わない	1	0.9%	1.3%	0.9%	1.6%	0.2%	0.7%	0.8%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-4. 全学、学部・センターの全体総括

全学レベル、学部・センターレベルでの授業評価アンケート結果を分析すると、本学では全体的に以下の特徴が認められる。

(1) 学生による授業評価結果（質問1～質問7）

- 全学レベルにおいても学部・センターレベルにおいても、質問1～質問7の各平均点は4.0以上である。
- 全学レベルにおいても学部・センターレベルにおいても、質問1～質問7の平均点を平均した値（学生による総合的な授業評価）は4.5前後である。

以上の結果は、学生の授業に対する評価が、昨年度に引き続き全体としては極めて高い状況を維持していることを示している。今後も、自己点検・評価を繰り返しながら、さらなる向上を目指して授業に取り組んでいきたい。

(2) 学生の自己点検（質問8～14）

- 全学レベルにおいても学部・センターレベルにおいても、質問8の「関連学習」の平均点は2点台（2.18～2.75）であり、昨年度の2点前後（1.82～2.23）よりも高くなっていた。遠隔授業の導入により、授業時間外の学修が増えたものと考えられた。
- 全学レベルにおいても学部・センターレベルにおいても、質問10の「出席状況」については平均点が4.4以上である。
- 全学レベルにおいても学部・センターレベルにおいても、質問12の「質問への積極性」については、質問8と同様に依然として平均点が低い傾向にある（3.19～3.79）。
- その他の質問項目については、平均点はおおよそ4.0以上であり、おおむね良好である。

学生の自己点検結果は、全体的には昨年度に引き続きおおむね良好であると判断できる。また、遠隔授業を導入したためか、質問8の「関連学習」に関しては、わずかではあるが平均点は上昇した。

また質問10と12の結果は、授業には真面目に出席するものの、質問への積極性にはやや欠けるという本学の学生像を反映していると考えられる。質問への積極性に関しては、教員がハード面（ICTを用いた質問方法の工夫など）やソフト面（学生と教員の距離感を近づけるコミュニケーションの工夫など）の両方を通じた、より質問をしやすい環境づくりが必要である。

各学科・センターごとの詳細な分析と総括は、「2-5. 学科の授業評価アンケート結果（p.55～56）」および「2-6. 学科、センターの総括（p.56～132）」を参照していただきたい。今後も、学科・センターレベルでの授業改善を通して、全学的な授業の向上を目指していきたい。

2-5. 学科・センターの授業評価アンケート結果

学科・センターごとの集計結果を表3、4に示す。なお、全学の各種値は、各センターとRI室を含めた値のため、本表の全学科の合計値とは一致していない。

表3 令和2年度後期【学科】授業評価アンケート集計結果 質問1～質問7																
講義番号	係数	全学	経済学科	国際絏済学科	税務会計学科	人間文化学科	心理学科	メディア・映像学科	スマートシステム学科	建築学科	情報工学科	機械システム工学科	生物工学科	生命栄養学科	海洋生物学科	薬学科
学部		17,423	2,266	654	912	580	652	403	372	1,109	457	350	435	383	1,391	4,094
学科		9,078	819	241	344	262	278	232	204	727	208	190	342	227	805	2,250
曜限		52.1%	36.1%	36.9%	37.7%	45.2%	42.6%	57.6%	54.8%	65.6%	45.5%	54.3%	78.6%	59.3%	57.9%	55.0%
主担当教員																
実施教員																
科目名																
受講者数																
回答者数																
回答率																
【質問1】授業準備																
授業の準備は適切になされていると思いますか？																
適切である	5	6,263	543	161	255	194	208	151	137	461	130	137	248	165	611	1,584
ほぼ適切である	4	2,078	194	52	59	53	61	58	52	181	52	36	87	41	167	511
どちらとも言えない	3	582	68	20	20	11	8	19	13	67	21	13	6	17	21	121
やや不適切である	2	110	11	6	7	3	1	2	2	11	5	3	1	3	4	23
不適切である	1	45	3	2	3	1	0	2	0	7	0	1	0	1	2	11
平均点		4.59	4.54	4.51	4.62	4.66	4.71	4.53	4.59	4.48	4.48	4.61	4.70	4.61	4.72	4.62
【質問2】教員の話し方																
教員の話は聞き取りやすいですか？／(音声のない遠隔授業の場合では)資料は読みやすいですか？																
聞き取りやすい(読みやすい)	5	5,438	485	133	234	181	188	142	112	396	115	123	212	143	491	1,368
ほぼ聞き取りやすい(ほぼ読みやすい)	4	2,388	213	55	70	58	69	64	60	214	56	46	100	56	211	586
どちらとも言えない	3	831	78	25	23	14	12	19	24	72	24	15	18	19	72	195
やや聞き取りにくい(やや読みにくい)	2	315	30	22	12	8	8	3	7	32	9	4	11	9	29	78
聞き取りにくい(読みにくい)	1	106	13	6	5	1	1	4	1	4	2	1	0	0	2	23
平均点		4.40	4.38	4.19	4.50	4.56	4.56	4.45	4.35	4.30	4.29	4.49	4.49	4.47	4.44	4.42
【質問3】授業の計画性																
授業はシラバス通りに行われていますか？																
行われている	5	5,556	516	151	219	155	181	112	134	487	134	134	169	133	537	1,338
ほぼ行われている	4	1,627	158	41	56	70	38	55	38	151	38	33	89	36	135	289
どちらとも言えない	3	497	42	16	28	17	6	23	15	57	15	10	18	8	25	67
やや異なっている	2	76	5	5	6	2	1	1	0	9	5	3	1	3	1	8
全く異なっている	1	19	1	1	2	1	0	1	0	3	1	0	0	0	0	6
シラバスを読んでいない	-	1,303	97	27	33	17	52	40	17	20	15	10	65	47	107	542
平均点		4.62	4.64	4.57	4.56	4.53	4.77	4.44	4.64	4.57	4.55	4.66	4.54	4.66	4.73	4.72
【質問4】授業時間																
授業を遅く始めたり、早く終わったりしないで、授業時間を守っていますか？																
守っている	5	5,605	517	166	206	187	172	132	124	423	144	131	260	181	458	1,362
ほぼ守っている	4	1,494	127	35	63	48	36	47	40	139	34	33	72	32	95	351
どちらとも言えない	3	567	60	13	28	12	8	24	15	58	19	10	6	10	52	103
やや守っていない	2	115	14	7	5	4	2	3	2	14	0	3	2	3	2	29
守っていない	1	34	6	1	2	1	0	2	1	3	0	2	0	0	2	9
この授業は遠隔授業なのでわからない	-	1,263	95	19	40	10	60	24	22	90	11	11	2	1	196	396
平均点		4.60	4.57	4.61	4.53	4.65	4.73	4.46	4.56	4.51	4.63	4.61	4.74	4.73	4.65	4.63
【質問5】講義の工夫																
教員は、授業内容を理解しやすくするために工夫していると思いますか？																
思う	5	5,569	479	144	228	190	193	140	122	408	114	126	222	145	544	1,337
やや思う	4	2,377	220	48	71	47	63	55	59	188	59	43	100	57	206	652
どちらとも言えない	3	833	84	33	33	21	17	27	19	91	26	16	11	23	46	183
あまり思わない	2	206	25	10	7	2	5	6	3	25	6	3	7	2	5	55
思わない	1	93	11	6	5	2	0	4	1	15	3	2	0	4	23	
平均点		4.45	4.38	4.30	4.48	4.61	4.60	4.38	4.46	4.31	4.32	4.52	4.56	4.52	4.59	4.43
【質問6】質問への誠意																
教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか？																
誠意をもって答える	5	3,542	358	122	175	151	139	106	87	273	87	78	152	74	256	570
ほぼ誠意をもって答える	4	939	106	26	45	25	26	37	31	26	33	26	52	12	78	110
どちらとも言えない	3	661	74	28	31	16	12	25	18	70	23	16	18	12	55	94
やや誠意を感じられない	2	72	12	1	3	3	0	3	0	7	4	3	3	2	1	9
誠意を感じられない	1	47	7	2	0	1	0	2	1	9	1	0	3	1	1	10
質問したことがない	-	3,817	262	62	90	66	101	59	67	281	60	67	114	126	414	1,457
平均点		4.49	4.43	4.48	4.54	4.64	4.72	4.40	4.48	4.36	4.36	4.46	4.52	4.54	4.50	4.54
【質問7】授業への満足度																
この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください																
満足	5	4,510	403	126	189	143	157	113	97	340	97	104	168	111	458	1,056
ほぼ満足	4	3,116	252	63	98	87	92	79	83	248	76	58	134	85	263	852
どちらとも言えない	3	1,141	121	38	38	21	27	32	24	102	24	20	34	28	65	271
やや不満	2	224	35	8	13	7	2	3	0	25	9	5	3	2	15	50
不満	1	87	8	6	6	4	0	5	0	12	2	3	3	1	4	21
平均点		4.29	4.23	4.22	4.31	4.37	4.45	4.26	4.36	4.21	4.24	4.34	4.35	4.33	4.44	4.28
【質問1】～【質問7】の平均		4.49	4.45	4.41	4.51	4.58	4.65	4.42	4.49	4.39	4.41	4.53	4.56	4.55	4.58	4.52

表4 令和2年度後期【学科】授業評価アンケート集計結果 質問8～質問14

講義番号	全 学	経済学 科	国際 経済学 科	税務会 計学 科	人間文化 学 科	心理 学 科	メ ディア ・ 映像 学 科	スマ ートシ ス テ ム 学 科	建築 学 科	情報 工 学 科	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	生物 工 学 科	生命 栄 養 科 学 科	海洋 生物 科 学 科	薬 学 科		
学部																	
学科																	
曜限																	
主担当教員																	
実施教員																	
科目名																	
受講者数	17,423	2,266	654	912	580	652	403	372	1,109	457	350	435	383	1,391	4,094		
回答者数	9,078	819	241	344	262	278	232	204	727	208	190	342	227	805	2,250		
回答率	52.1%	36.1%	36.9%	37.7%	45.2%	42.6%	57.6%	54.8%	65.6%	45.5%	54.3%	78.6%	59.3%	57.9%	55.0%		
【質問8】 関連学習	3時間以上	5	480	36	18	20	11	13	11	4	65	12	7	3	11	26	153
	2～3時間未満	4	955	52	22	44	23	24	15	26	55	35	20	20	5	67	374
この授業に関して、1回の授業あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？	1～2時間未満	3	2,653	245	70	112	77	62	41	58	202	62	45	70	39	222	832
	30分～1時間未満	2	2,845	275	90	114	90	98	77	71	228	52	54	146	83	301	550
	30分未満	1	2,145	211	41	54	61	81	88	45	177	47	64	103	89	189	341
	平均点		2.42	2.30	2.53	2.60	2.36	2.24	2.07	2.38	2.45	2.58	2.22	2.05	1.97	2.30	2.75
【質問9】 集中力	全くない	5	4,389	382	112	182	89	121	90	73	328	78	73	108	93	406	1,277
	ほとんどない	4	2,946	270	77	100	109	94	83	82	235	63	72	143	83	242	690
授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	どちらとも言えない	3	1,256	121	38	44	46	40	37	34	118	55	31	53	34	123	212
	しばしばある	2	394	32	12	15	17	18	15	13	37	12	11	29	17	27	60
	毎回ある	1	93	14	2	3	1	5	7	2	9	0	3	9	0	7	11
	平均点		4.23	4.19	4.18	4.29	4.02	4.11	4.01	4.03	4.15	4.00	4.06	3.91	4.11	4.26	4.41
【質問10】 出席状況	全出席	5	6,039	447	134	208	153	205	144	110	422	114	103	191	163	533	1,912
	ほぼ出席	4	2,359	280	78	96	85	60	64	68	223	77	70	122	53	218	294
授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？	ときどき欠席する	3	493	68	21	33	16	10	19	20	55	15	14	19	9	34	32
	やや欠席が多い	2	140	21	5	4	8	2	4	5	17	2	2	8	1	19	7
	欠席が大変多い	1	47	3	3	3	0	1	1	10	0	1	2	1	1	5	
	平均点		4.56	4.40	4.39	4.46	4.46	4.68	4.49	4.38	4.42	4.46	4.43	4.44	4.66	4.57	4.82
【質問11】 知識や技能の深まり	大いに深まっている	5	3,847	327	86	146	125	138	103	78	340	84	95	131	74	384	934
	やや深まっている	4	3,915	355	101	127	105	119	83	95	272	86	66	173	119	338	1,062
この授業を受講して、あなたの知識や技能は深まっていますか？	どちらとも言えない	3	1,030	101	34	50	28	19	34	29	83	32	23	30	28	70	197
	あまり深まっていない	2	213	25	16	17	3	2	7	1	20	4	5	8	5	12	39
	全く深まっていない	1	73	11	4	4	1	0	5	1	12	2	1	0	1	1	18
	平均点		4.24	4.17	4.03	4.15	4.34	4.41	4.17	4.22	4.25	4.18	4.31	4.25	4.15	4.36	4.27
【質問12】 質問への積極性	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	4,105	429	102	185	132	115	121	76	363	65	80	128	114	402	823
	しばしば質問する	4	665	55	31	26	16	28	27	22	57	26	21	23	7	66	87
授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？	ときどき質問する	3	1,032	96	35	31	31	50	28	20	73	43	25	61	13	81	192
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2,932	216	62	96	75	79	47	82	213	68	60	117	66	239	1,001
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	344	23	11	6	8	6	9	4	21	6	4	13	27	17	147
	平均点		3.58	3.79	3.63	3.84	3.72	3.60	3.88	3.41	3.73	3.37	3.59	3.40	3.51	3.74	3.19
【質問13】 意欲の高まり	大いに思う	5	3,269	242	80	143	79	128	74	65	276	87	80	101	67	356	796
	やや思う	4	3,606	325	85	112	113	105	97	86	257	70	66	169	105	330	983
この授業を受講して、授業内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	どちらとも言えない	3	1,700	191	52	67	54	31	43	47	149	43	36	45	45	97	374
	あまり思わない	2	352	37	16	17	12	13	10	5	25	6	4	16	8	18	76
	全く思わない	1	151	24	8	5	4	1	8	1	20	2	4	11	2	4	21
	平均点		4.05	3.88	3.88	4.08	3.96	4.24	3.94	4.02	4.02	4.13	4.13	3.97	4.00	4.26	4.09
【質問14】 学修の成果	十分に成果はあがっている	5	3,254	286	85	139	105	110	76	61	298	69	75	115	56	321	740
	少し成果はあがっている	4	4,203	370	102	129	117	143	112	103	292	96	79	165	127	377	1,137
この授業であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	どちらとも言えない	3	1,329	132	34	62	34	24	35	37	101	31	27	51	40	90	321
	あまり成果はあがっていない	2	213	22	14	11	4	1	4	2	23	9	5	9	4	16	37
	全く成果はあがっていない	1	79	9	6	3	2	0	5	1	13	3	4	2	0	1	15
	平均点		4.14	4.10	4.02	4.13	4.22	4.30	4.08	4.08	4.15	4.05	4.14	4.12	4.04	4.24	4.13
【質問8】～【質問14】の平均			3.89	3.83	3.81	3.93	3.87	3.94	3.81	3.79	3.88	3.82	3.84	3.73	3.77	3.96	3.95

2-6. 学科、センターの総括

令和2年度の授業評価アンケートについて、学科長・センター長が総括し、報告書を作成した。今後、この自己点検・評価を基に、さらなる授業改善が期待される。

① 経済学部経済学科

令和 3 年 3 月 2 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

経済学部経済学科

学科長 北浦 孝

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、経済学科では前期 23 科目、後期 21 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

授業ツールに関する 5 項目は、遠隔授業で使用したツールを①教科書等の紙媒体を使用したもの、②Word や PDF や音声なしの PowerPoint などの電子ファイルを使用したもの、③YouTube 等を用いた講義動画（教員の講義を撮影した動画や PowerPoint 等によるスライド（音声付き）動画など）を

使用したもの、④Zoom 等による双方向性会議システムを用いたもの、及び⑤その他のツールを使用して行ったものの区別とそのツールの使用の適切性を問う設問で構成されている。経済学科の講義の大部分は②と③が 38%を占め、①は 13%④は 10%であった。これは、全学では、②が中心であったのに比べると動画を使った講義を積極的に行っていったことが伺われる。それらのツール使用の適切性については 20 科目が 5 段階評価で 4 段階以上の評価、3 科目で 3 段階の評価を得た。一部ツールの不慣れから評価を下げたものがあるが、概ね専任および非常勤においても十分に高いレベルを有していると判断できる。

分析結果を踏まえた改善方策：

経済学科の教員の授業のツール使用の適切性については 20 科目が 5 段階評価で 4 段階以上の評価、3 科目で 3 段階の評価を得たが、通信の不具合の発生や音声の不具合などツールの不慣れから評価を下げるケースがあり、これらは通信のインフラ整備や適切な用具の準備等で改善できるので、学科のみならず学部を上げて改善の努力をする予定である。新しいツールの使用方法については FD 等を利用して改善する予定である。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析：

課題の形式に関する 5 項目は、授業の課題を①チェックリスト形式テスト（セレッソの「小テスト等、複数の選択肢から回答を選んでチェックする形式のテスト）で行ったものが 37%、②記述式テストで行ったものが 22%、③レポートで行ったものが 38%、④プレゼンテーション資料（PowerPoint スライド等、プレゼンテーション用資料の提出）で行ったものが 0.3%、⑤その他が 2%であり、全学では①が 43%、②が 19%、③が 32%、④が 1.7%、⑤が 5%であったのと比べると、数値による正解の有無で判断できないと言う文・社会系学科の特徴が出ていたものと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

課題の形式の適切性については、平均 4.40 で全学の平均 4.43 とほぼ同じであり、全科目で 5 段階評価で 4 段階以上の評価を得ており、専任および非常勤においても十分に高いレベルを有していると判断できる。学生の学修への取り組みも全学とほぼ同じく 4.18 であり、学生の大部分が非常に熱心に取り組んでいると考えられる。

◇ 「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

教員から学生に対するフィードバックは、平均 3.90 で全学の平均 3.93 とほぼおなじであり、10 科

目が 4 段階評価、12 科目が 3 段階評価、1 科目が 2 段階評価であった。これは、遠隔授業でのフィードバックが人数や使用するツールによって即時にできるものから時間を要するものまで種々あり、講義中に行うには時間的な制約から困難性が伴い、大部分は Cerezo を通じて担当教員が行うもののが多かった。その詳細は、提出された報告書に記載している通りである。

分析結果を踏まえた改善方策：

教員から学生に対するフィードバックは、非リアルタイムの授業が大部分であり、学生のノートテイクや課題の進捗状況を確認しながら授業を行うことができなかった点があり、理解度の把握が困難であった。改善を求められている事項については、授業量を減らして対応することや時間はかかるが理解が深まると言った利点もあるので、ノートテイクにかかる時間が短くなるよう、配布資料を増やすなどの改善策を講じて対応する必要があると思われる。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇ 「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業準備や話し方や授業時間など技術的な設問と講義内容の工夫や満足度など授業の妥当性を問う設問で構成されている。経済学科の教員の授業準備、話し方、計画性等の授業技術も満足度など授業の妥当性もすべての項目で、平均値が 5 段階評価で 4 段階以上の評価を得ており、全学の平均とほぼ同じであり、専任および非常勤においても十分に高いレベルを有していると判断できる。

分析結果を踏まえた改善方策：

経済学科の教員の授業技術については、学生はどちらとも言えないという 3 段階の標準以上の評価をしているが、今後もさらに改善努力を継続する予定である。全般的に評価が高くても、個々人には常に上位の評価が得られるように改善の余地は存在すると思う。

◇ 「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

多くの科目で多くの項目で全学平均よりは若干低いものの、質問への積極性は 3 段階であり、学修が十分に進んでおり、質問の必要が無いと言う授業効果の表れとも思われる。しかし、「授業の予習・復習の時間」は、2 段階と 3 段階の回答が多く、それは 30 分から 2 時間未満の学習と言う事であり、5 段階の 3 時間以上に比べ、顕著に低くなっている。学習の成果は全学 4.14 と同程度の 4.10 の 4 段階であり、成果は少し上がっていると判断されるが、「意欲の高まり」も含め、学生の自己点検の部分には科目によ

る差異もあり、まだまだ改善の余地があると言える。

分析結果を踏まえた改善方策：

今回の後期のアンケート対象科目には遠隔授業も対面授業も混在しているため従来の評価と若干異なる部分があるが、全学的に取り組んでいる準備や復習などの学習の充実への努力を今後も継続する必要がある。また、学生に対して新型コロナ感染対策のため在宅学習が多くなっている事からアルバイトの時間を縮小するように指導して、授業の課題対策の準備および復習の学習のための時間とエネルギーを確保させることが肝要である。また、学内における ICT を活用できる教育環境の整備と並行して、自学自習の習慣を身に着ける指導が必要と思われる。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員（専任・非常勤を含め）全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求めた。また、学科会議において更なる改善とそのために必要なサポート体制に関する意見収集を行い、FD の資料および予算要求等に反映する資料とする。

【8】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義中または最終回の授業実施時、あるいは Cerezo を通じて当該授業科目担当教員が行った。その詳細は、提出された報告書に記載している通りである。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 教員が興味を引くようなテーマを扱ったり資料を改善したりしても、そもそも目にしなければ意味がない。オンラインでの講義であることはわかっているにもかかわらず、配布資料を一切読んでいない学生が結構いた（禁止しているのに剽窃を行う、提出締切を理解していない、等）。セレッソへのアクセスを行っていないことも一因であると思われる所以、学生のオンラインへのアクセスを徹底してほしいと感じる。
- (2) 地方財政の科目で関連学習の項目の評価が、非常に低位にあります。しかしながら、地方財政は学生にとっても身近な問題であり、「気づき」を促すことが大切であろうと考えます。自らのひとつ一つの体験は、すべて地方自治・地方財政に関連していることを、意識できるよう取組みを行ってまいります。自分の「住んでいるまち」「生まれたまち」など縁のある「まち」の情

報に接することができるよう「わがまちの財政白書」にも取り組んでおり、引き続き身近な「情報」として意識できるよう教材や課題の作成にあたって工夫して行きます。

- (3) 授業評価は学部・学科を分類することなく、全教員に開示したほうがいいと思う。(大教センター、学科長の負担を軽減できる)
- (4) 報告書の記入も Cerezo、Office365 フォームを活用してほしい。(教員の入力・送信作業の軽減、とくに数値を入力する作業は不要だと思います。)
- (5) 授業評価アンケートの運用プロセスにおいて、事務員さんの作業負担が全く見えません。評価される側の教員が評価プロセスを主導しているのはおかしいです。現状の学科長の事務負担を学部事務室が負担するなど、運用プロセスの節々で事務員さんが関与する体制が望ましいと思います。
- (6) 学生の基礎能力の差異を加味しながら調整をして、学生の授業理解度などの反応を見ながら可能な限りシラバスに則した形で進行できるよう改善に努め、学生の満足度を高めていきたい。しかし、働き方改革の促進とは言うものの学生指導も含め学内業務の負担過多もあることから、教員の改善のための時間の余裕も制限されていることから、段階的改善を試みる。授業開始当初と、授業終了前での「学生ができるようになったこと」の比較を明確にできれば、より学生の学習意欲を引き出せるのではないかと思われる。
- (7) 対面授業では、多くがスマホを見ており、注意しても一瞬スマホから目を離すのみであり、受講姿勢に問題がある。大学での授業の意義が理解されていないので、これをどのように改善するかを考えている。甘やかされてきた従来の指導方法にテコ入れをする必要がある。F ランクに甘んじている大学上部の意識改革が必要です。面倒見の良いと言う言葉が正しく理解されていない。
- (8) 卒業時の学生の質保証に向け、授業開始当初と、授業終了後の「学生ができるようになったこと」の比較が明確にできれば、より学生の学習意欲を引き出せるのではないかと思われる。科目的必要性を正しく理解させる工夫が必要と思われる。

【10】総 括

今回の後期のアンケート対象科目には遠隔授業も対面授業も混在しているため従来の評価と若干異なる部分があるが、本学科における授業の実施と学生の学修成果の実態を表す結果が得られたと思える。また先述のように、授業改善に向けた課題も明らかになった。概して、アンケートの評点は結構高いので、改善点を見つけにくい面もある。従って、評点にもっとメリハリがあった方が、授業改善のためには効果的なアンケートとなるかもしれない。更に、昨年度、学科全体の学習プログラムの段階的設定が必要との意見があり、今年度カリキュラム改革を行いその改善にも取り組み、授業内容の見直しを行ったので、引き続き改善改革を実施して行く予定である。また、

アンケートとは別の問題として、卒業や進級判定の段階で問題となる学生への対応で保護者が成績不良の情報を知らなかつた事から、親子の意思の不通の責任を担任教員への指導不足と責任転嫁をしてくるケースがあり、学生の大人としての自覚形成を促す必要がある。以上のことと踏まえ、総合的な授業改善を今後も実施していく。

以上

② 経済学部国際経済学科

令和 3 年 2 月 25 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

経済学部国際経済学科

学科長 足立 浩一

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、国際経済学部では前期 11 科目、後期 11 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システムセレッソを利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

YouTube 等を用いた講義動画（教員の講義を撮影した動画や PowerPoint 等によるスライド（音声付き）動画など）が最も多く、次にセレッソ等で配布された電子ファイル（Word 文書、PDF、PowerPoint スライド（音声なし）等）、紙媒体の本や資料等（教科書、指定図書等）と続き、Zoom 等による双方向

性会議システムを用いた講義（テレビ会議システムのようなもの）についても少数ではあるがある。

ツールが適切であるとの回答は学科平均が、4.24と全学平均4.39、学部平均4.32に比べて低い。特に動画ではなく、セレッソにパワーポイントファイルをアップするという形式の授業ツールについては、適切ではないとの回答も多い。YouTubeによる動画配信について、繰り返し動画を見ることで、学修効果が高まるというコメントが多かった。また、一方では声が聞き取りにくい、資料の閲覧期間が短くて、課題をしようとしたらすでに見れないといったコメントもみられた。

分析結果を踏まえた改善方策：

学生はオンライン授業が多すぎ、さらに各授業で大量の課題が出されることもあり、授業をしっかりと理解し、課題に答えるのはかなり大変なようである。教材の閲覧期間を長くし、学生が理解するまで何度も視聴できるようにすることや、動画画面や音声がクリアで受講しやすいようなコンテンツ作成を心掛ける必要がある。学科内にはICTの得意な教員も苦手な教員もいるので、学科内での技術シェアも必要だと思われる。

◇「課題の形式」について

点検結果の分析：

全学では、セレッソの「小テスト」等のチェックリスト形式テストが多いのに比べて、国際経済学科ではレポート形式の課題が多い。「この科目の課題の形式は適切だと思いましたか？」の質問に対しての評価は、学科平均4.14と全学平均4.43、学部平均4.34に比べて低い。一方、小テストに関しては、自分の理解度を確認出来てよいという回答が多い。

分析結果を踏まえた改善方策：

セレッソでのチェックリスト形式の小テストに関しては、学生が授業での学習成果を自身で確認することができるため有用である。これに関しては、遠隔授業ならではの成果でもある。一方、多くの授業でレポート課題を出されると学生は大きなストレスを抱えることにもなるため、各科目でバランスを考慮する必要がある。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

「この科目の遠隔授業において、教員からはどの程度のフィードバックやサポートがありましたか？」という質問に対しても、学科平均は3.61と全学平均3.93、学部平均3.86に比べ低い。この項目については教員により非常に大きなばらつきがある。

分析結果を踏まえた改善方策：

フィードバックについては、より詳細な資料を添付してほしいという学生の声もあった。出題するからには、レポートに対するフィードバックをしっかりと行う。レポートの評価基準を明確に示す、チェックリスト形式テストについても必ず採点し、こまめにフィードバックを行うなどを徹底する。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

ほぼすべての項目（質問）で全学平均を下回っている。これについても当然ではあるが、教員間にはばらつきがある。学生評価が、必ずしも授業の質と完全に合致するわけではないにしても、「教員の話し方」や「講義の工夫」に関する評価が低いのは、問題があると言わざるを得ない。

分析結果を踏まえた改善方策：

授業改善のためには、学科 FD を実施するなどして、とりあえずは専任教員の授業の質の向上を図るべきである。特に来年度は新任教員が増加するので、授業評価向上のため学科内で情報共有したい。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

「関連学習」に関しては平均 2.53 と全学平均 2.42、学部平均 2.41 に比べて高いものの、「集中力」、「出席状況」、「知識や技能の深まり」、「意欲の高まり」、「学修の成果」については全学平均よりも低い。特に「意欲の高まり」と「学習成果」についてのポイントが低いのは問題である。

分析結果を踏まえた改善方策：

遠隔授業の科目が多いため、対面授業に比べ、学生の集中力を引き出したり、意欲を高めるたりすることが難しい現状にある。遠隔授業でこれを克服するためには、セレッソでのコミュニケーションや Zoom によるリアルタイム授業を交えるなど工夫したい。

【7】 教員へのフィードバックについて

後期多くの授業が遠隔授業となったため、学生の自由記述には「早く対面授業に戻ってほしい」という声が多かった。個人の評価結果については各自に送付しているが、学科としての結果を教員間でシェアし、改善策を考えることが必要である。学科会議または学科 FD での議題としたい。

【8】 学生へのフィードバックについて

全員がセレッソのコースニュース等を利用し学生に対してフィードバックを行った。対面授業を行った一部の教員はセレッソと授業中のフィードバックを併用している。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 対面授業になっても、セレッソやミニッツペーパーを使ったコミュニケーションによる理解度の把握が必要である。
- (2) 授業中の集中を促すよう、YouTube 等授業動画が単調にならないような工夫する。
- (3) 1, 2 年次はそこそこまじめに勉強するが、本来一番勉強すべき 3, 4 年次になると「ゼミ」等一部出欠管理が厳しい授業を除いてダレてしまっている。
- (4) 学生が人生で選択することは、全て経済にかかわっているので、日常で「なぜ」と自身に問いかけるようにしてほしい。
- (5) 学生はこれまで学び発見する喜びを経験してこなかったのではなかろうか？個々の学生を担当・指導するチューター制度の拡充（チューター 1 名につき学生 8 名位？若しくはゼミの拡充とその担当教員のチューター兼務）を検討してみては如何であろうか？
- (6) 講義内容がやや理論的な内容に偏りがちであるので、現実の例と対応させることで社会問題に学生の意識を向けるよう改善に努める。
- (7) 学生が意欲的に取り組めるような問題解決型課題を出すことで、集中力の向上や出席率の向上にもつながる。
- (8) 講義において、解決すべき問題点を指摘し、総合的に分析して研究課題意識を養成する。これにより卒業研究のテーマとしたくなるように誘導する。
- (9) 来年度も当面は遠隔授業が予想されることから、コンテンツの一層の充実、プレゼンテーションの工夫、適正量の課題提出を考えたい。

【10】 総 括

新型コロナウィルス感染拡大に伴い、多くの授業が長期間遠隔授業となった。対面授業と遠隔授業には、それぞれメリットとデメリットがあるが、今回コロナ禍により遠隔授業を経験したことで、教員にとっては、今後対面授業に戻った場合もセレッソや YouTube、Zoom などをを利用して授業をより充実したものにするための貴重なヒントを得たと思われる。今後も ICT を活用して授業改善を図りたい。

以上

③ 経済学部税務会計学科

令和 3 年 3 月 12 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

経済学部税務会計学科

学科長 小林 正和

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、税務会計学科では前期 10 科目、後期 10 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

「質問 1 ツールの使用」では、全学で一番多いのが「セレッソ等で配布された電子ファイル」、2 番目が「YouTube 等を用いた講義動画」であったが、経済学部と税務会計学科では 1 番目が「YouTube 等を用いた講義動画」、2 番目が「セレッソ等で配布された電子ファイル」であった。

「質問2授業ツールは適切か」では、全学、経済学部、税務会計学科とも1番目は適切であるとの回答であった。平均点は、全学4.36、経済学部4.34、税務会計学科4.37で、税務会計学科が一番良かった。

分析結果を踏まえた改善方策：

税務会計学科は、全学、経済学部と比べて良かったため、さらに進めていくようにしたい。

◇「課題の形式」について

点検結果の分析：

「質問5課題を出した形式」では、全学、経済学部、税務会計学科とも一番目がレポートであった。

「質問6課題の形式は適切か」では、「適切である」と「ほぼ適切である」を合計したものが、全学、経済学部、税務会計学科とも約9割で一番多かった。平均点は、全学4.39、経済学部4.35、税務会計学科4.41で、税務会計学科が一番良かった。

分析結果を踏まえた改善方策：

改善方策としては、今後とも遠隔授業が続けば、現在のままでも十分であると考えるが、さらに「適切である」が増えるようにすることが必要である。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

「質問10教員のフィードバック、サポートがあったか」では、「適切である」と「ほぼ適切である」を合計したものが、全学、経済学部、税務会計学科とも一番多かった。平均点は、全学3.91、経済学部3.88、税務会計学科3.97で、税務会計学科が一番良かった。

分析結果を踏まえた改善方策：

税務会計学科は、全学、経済学部と比べて良かった。さらに進めていくようにしたい。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

- ・「質問7講義の満足度」では、全学（4.29）、経済学部（4.25）と比較して、税務会計学科は、4.31と満足度が若干高くなっている。
- ・「質問1～7の平均」は、全学（4.49）、経済学部（4.46）と比較して、税務会計学科は、4.51と若干高い。

分析結果を踏まえた改善方策：

・評価科目「質問7講義の満足度」と「質問1～7の平均」のどちらも、全学、経済学部と比べて若干高い。各教員が継続して改善を行った結果、学生に評価されているのではないかと考える。改善方策としては、今後とも講義の満足度を上げるように各教員が取り組みを行うことが必要である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

・「質問8～14の平均」は、全学（3.89）、経済学部（3.85）と比較して、税務会計学科は、3.93と若干高い。
・この評価科目の結果が全学、学部と比較して高いのは、各教員が継続して改善を行った結果、学生に評価されているのではないかと考える。

分析結果を踏まえた改善方策：

このように評価を行い、全学、学部で比較することで、どこが良くて、どこが足りないのか各自理解できたと考える。

改善方策としては、①事前学習を学生に課することで、講義に取り組み姿勢が生まれる、②ただ単に教えるのではなく、学生に質問をしたり、学生の興味を引くような内容の講義にすること、等が挙げられるのではないかと考える。

【7】 教員へのフィードバックについて

教員へのフィードバックは、メールで各教員へ提出し、各先生から締切内に結果報告書を受け取っている。全員締切内に提出を行った。

【8】 学生へのフィードバックについて

各教員が、授業時間内、セレッソで学生へのフィードバックを行っている。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

【前期】

＜提案＞

（1）Youtubeなどで音声がありで見れるようにしてほしい。

- (2) 学んだ単語の小テストがあるとより一層理解が深まると思う。
- (3) 質問があった後に的確な回答が返ってくる等のサポートが欲しい。
- (4) ノートをセレッソでアップしてくれたらうれしい、
- (5) 対面授業をしてほしい。

＜意見＞

- (1) 質問への早い返事が欲しいです。
- (2) 単語の説明を書くことで、内容も理解することができた。
- (3) 文章をまとめる力がついた。
- (4) 回答に書き方があるとわかりやすいです。
- (5) 自分の都合のいい時間に取り組める。
- (6) 個別に相談できるLINE等でやりとりができれば良いと思います。
- (7) 良いと感じたのは、大学に登校する時間を、勉強する時間に回せたことです。
- (8) 動画があるので、何回も繰り返し見ることができます。
- (9) レポートが難しかったので、もう少しヒントが欲しいと思った。
- (10) 個人的には通常の形式のほうが、直接質問したり記述式の小テストのため、対面のほうが良いと感じた。
- (11) 簿記2級を受験する上で、独学するくらいならと思い授業を取らせていただいたのですが、理解しやすく、この授業を取ってよかったです。
- (12) 足らないところをその場で聞くことができない。
- (13) zoomで授業を行うことで講義に集中でき、資料がオンライン上で配られることで復習することができた。
- (14) zoom授業が廃止になり、資料だけの授業に変更になったことが残念です。

【後期】

＜提案＞

- (1) 特にないです。

＜意見＞

- (1) オンライン授業の中でも基礎簿記IIは最もわかりやすい授業であると思っています。強いて言うならオンライン授業ではなく、対面授業が良かったです。
- (2) わかりやすい動画有難うございます。
- (3) 備後経済論の講義では、コロナで対面での起業のお話を聞けなかったことはとても残念でしたが、

オンラインの授業でも学べる事がたくさんあったので良かったです。

(4) 出席の閲覧履歴についてはあまりよく分からず、3日以内に見ているにも関わらず、欠席になるときがあるので、レスポンや小テストだけでよいと思う。

(5) オンライン授業だけでは質問などもしづらく、内容も理解できない部分があった。対面授業で講義を受けたかったです。

(6) 授業料を返金してほしい。

(7) 今回の授業はコロナでオンラインになったが、私個人としてはむしろ対面よりも無駄が省かれてよかったです。そうして余った時間を個人の目的達成のための試験勉強に使うことができた。私は大学の実習以外のほとんどの学習は個人で完結することができるものだと思っている。すでに理論化されたものや、ある問題をある基準に沿って解答したり、理解したりするという範囲での勉強は自らが進んで学ぶのが一番効果が高いように思える。もちろんそのきっかけや補助として授業というのも非常に役には立つと思う。

【10】総括

「質問7講義の満足度」、「質問1~7の平均」、「質問8~14の平均」は、すべて全学、経済学部とも比較して若干高くなっている。これは、各先生が遠隔講義や対面講義に対して、積極的に取り組んでいることが評価されたのではないかと考える。

また「学生の自己点検」の評価科目はどちらも全学、学部と比較して若干高くなっている。これは各教員が継続して改善を行った結果、学生に評価されているのではないかと考える。

今後もこれらの評価科目について、さらに改善を行い、より良い講義を実施していきたいと考える。

以上

④ 人間文化学部人間文化学科

令和 3 年 3 月 20 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

人間文化学部人間文化学科

学科長 小原 友行

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、人間文化学科では前期 12 科目、後期 16 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

①質問 1 の授業ツールとしては、「YouTube 等を用いた講義動画（教員の講義を撮影した動画や PowerPoint 等によるスライド（音声付き）動画など）」「Zoom 等による双方向性会議システムを用いた講義（テレビ会議システムのようなもの）」「紙媒体の本や資料等（教科書、指定図書等）」の順番で

多かった。

②質問2の授業ツールの適切性の平均は、4.42（全学4.36、学部4.53）であった。

③このように、突然の遠隔授業として手探りの出発であったが、概ね好評であったと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

①各教員の報告書によれば、音声や動画の要素を取り入れたツールの開発が求められる。

②また、遠隔授業の中でも、協働的でより深い学びにつながる授業ツールの開発が求められる。

③さらには、セレッソやゼルコバの機能を十分活用した指導法の工夫・開発が求められる。

◇「課題の形式」について

点検結果の分析：

①質問5の課題の形式としては、「レポート」「チェックリスト形式テスト」「記述式テスト」の順番で多かった。

②質問6の課題の形式の適切性の平均は、4.45（全学4.39、学部4.53）であった。

③このように、課題の形式の適切性についても、概ね好評であったと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

①各教員の報告書によれば、全体として、課題の形式や内容については高評価であった。

②学生の自由記述においても、「自分でしっかりと調べないといけないのでとても勉強にはなった」「自分でまとめるので文章力や理解力は高まった」「毎回出される課題が興味深く、楽しかった」という肯定的な記述も見られた。

③遠隔授業の中で生まれてきたこのような意識を、対面型授業においても生かしていくことが求められる。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

①質問10の教員からのフィードバックの適切性の平均は、4.17（全学3.91、学部4.12）であり、全学や学部の平均より高かった。

②このように、教員からのフィードバックに関しては、学科教員の創意工夫や努力がなされたものと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

①学科教員の創意工夫や努力は見られたが、全体としては、フィードバックやサポートについては改善

する必要があった。

②自由記述では、「対面授業を受けてみて、こちらの方がよいと思った」「一人ぼっちで授業をしている感じがあって寂しかった」という意見も見られた。

③対面型が望ましいが、それが難しい場合は、受講生からの課題提出に対して何よりもコメントのフィードバックを多くすることや、受講生間の議論を可能にするシステムを構築することなどによって、学習の深化を図っていくように授業改善が求められる。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

①質問1～7の平均は、4.58（全学4.49、学部4.55）であった。

②質問7（満足度）に焦点をあてると、4.37（全学4.29、学部4.37）であった。

③このように、全体としては良好であったと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

①コロナ禍の中での対面型授業の成果はある程度みられたのではないかと考えられる。

②さらに成果を上げるためにには、受講生の好奇心や探究心を高めるような授業になるように内容や教材の工夫・改善を図っていくことが求められる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

①質問8～14の平均は、3.87（全学3.89、学部3.88）であった。

②質問14（学修の成果）に焦点をあてると、4.22（全学4.14、学部4.21）であった。

③このように、全体としては概ね良好であったと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

①他の項目と比較して、質問8の関連学習の数値が低く、自主的な学習態度に課題が残ると考えられる。

②その改善のためにも、授業内での動機付けに基づく授業外での積極的な学びへの継続が求められる。

③これらを踏まえると、学習内容を時事問題に関連づける等の教材化の工夫や、新聞やテレビ、インターネット等の多様なメディアを活用した指導法の工夫が求められる。

【7】 教員へのフィードバックについて

①「学生による授業評価アンケート」のデータを、常勤および非常勤の教員にメール添付で送付し、各授

業科目に関する点検・分析・評価と今後の学習指導の改善策についての回答を求めた。

②常勤教員に対しては、学科会議において検討を行い、次年度に向けての改善点を確認した。

【8】 学生へのフィードバックについて

①コロナ禍の影響もあり、常勤および非常勤の教員の多くが、セレッソを通してフィードバックを行った。

②新年度4月の学科のオリエンテーションの場で、学生へのフィードバックを行う予定である。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

（1）学生の提出した課題を授業の中でどのように評価し、そこから新たな文脈を創造していく、学生の出した意見を創造的な営みに結び付けていくことが必要だと感じる。学生の意見の評価をもっと行うことが必要だと言える。

（2）期末レポートという形ではなく、より小規模のレポートを回数を増やす方式をとるほうが学修時間の確保につながる可能性もある。来期に一度試行してみるつもりである。

（3）受講生からの課題提出に対して何よりもコメントのフィードバックを多くすることや、受講生間の議論を可能にするシステムを構築することによって、学習の深化を図っていくように授業改善を図っていきたい。

（4）コロナの感染防止のために従来とは違って対人距離が拡げられ、大きな教室で行っていたために、それまで行っていた机間巡回やその際の個別指導が頻回には実施できなくなった。今後はこうした条件下でも質問をしやすい環境を整備するために、質問・コメントカードを配付したり、質問時間を確保するなどの工夫をしていきたい。

（5）興味を持って聴いてくれている学生は多いが、学生自身の評価とレポートなどに現れる結果に乖離があるようだ。講義形式なので熱心に聴いた学生が理解したように思うだけであれば残念に思うので、理解に至るプロセスを工夫したい。

（6）教室の整備（全ての講義で、DVDやBlue-rayが使えるようにしてほしい）。

（7）これまで、課外で行う課題（いわゆる宿題）を出せば、客観的な数値（学習時間）はあがると考えてきた。図らずも今年度はオンデマンド式の授業となり、例年よりも格段に課題が増えた。にもかかわらず、「関連学習」の結果は変わらない。授業で指示された課題は、「予習」「復習」と考えられていないのだろう。内発的動機づけを高める外発的な刺激を試行錯誤したい。

（8）宿題やテストの準備などを事前に行う習慣をつけさせたい。こうした習慣が身に付いていない学

生の場合、遠隔時は特に学修に遅れが出ることを危惧している。対策としては、「事前に学習準備をすることの大切さ」に気づかせ、一步前に踏み出させが必要だろう。また、オンラインを利用した敷居の低い練習問題で成功体験を積ませ、なおかつ明確な評価を出すこと、学生自身が学習状況を明確に把握できる仕組みがあると良いと考えている。

【10】 総 括

全体として総括すれば、コロナ禍の下ではあったが、前期・後期通して、「学生による授業評価アンケート」の結果を見る限りでは、学科の授業に対する評価は概ね良好と考えられるが、引き続きもう一步の工夫・改善を行っていくことが必要である。

そのためにも、各教員の研究内容に基づいた授業内容の工夫・改善、学生の興味・関心や知的好奇心・探究心、さらには感動を喚起するような時事教材や地域教材の開発・導入、遠隔授業であっても学生による主体的な学びを保証する学習のアクティブ化、セレッソ等を活用して学生間の討論や議論を引き出す授業の改善等に、さらに磨きをかけていくことが求められる。

以上

⑤ 人間文化学部心理学科

令和 3 年 3 月 19 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

人間文化学部心理学科

学科長 日下部 典子

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、心理学科では前期 21 科目、後期 11 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：ほとんどの授業がオンデマンドの授業だったが、「動画だけでは分からぬところがあるので、配布資料が欲しい」とのコメントが複数あった。所々動画が途切れたり、接続状況が悪くなったり、音声が聞こえなくなるなどの問題が発生していた。また、教員によって出席方法が異なり、戸惑った学生も多かった。

分析結果を踏まえた改善方策：動画視聴、音声が途切れた時の対応などを学生に周知した。出席方法が異なる点については、後期開始時に、各教科でセレッソのコースニュースに出欠方法について説明を記載した。

◇「課題の形式」について

点検結果の分析：チェックリスト形式が最も多く、続いてレポートなどの課題、記述式テストと続いた。課題形式の適切性については4.52と評価が高く、おおむね問題なかったと考えられる。レポート課題等の回答がよく分からなかったとのコメントがあった。

分析結果を踏まえた改善方策：課題の回答の解説を丁寧にしていくことが必要であると考えられる。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：ほとんどの教員がセレッソを通じて、学生たちに結果を伝えた。

分析結果を踏まえた改善方策：学生達からのコメントを、後期の遠隔授業の資料作成、you tube動画作成などに生かされたと考えられる。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：心理学科全体の評価は、全ての項目で全学平均よりも高く、多くの教員が分かりやすい授業を目指して努力している結果だと考えられる。項目内容から、特に「授業準備」「質問への誠意」の数値が高く、一人一人の学生の理解促進に向けて、丁寧な授業していることの表れと言える。

分析結果を踏まえた改善方策：「教員の話し方」「授業への満足度」が相対的に低かった。遠隔授業がほとんどであったため、オンデマンド資料の音声、視覚資料の作成に注意を払う必要がある。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：「出席状況」「学習の成果」「知識や技能の深まり」の数値が高かった。遠隔授業が多くなったが、学生達は自分のペースで学び、それぞれが学習成果を上げていたことは評価できる。

分析結果を踏まえた改善方策：「関連学習」の数値が低く、1時間未満が6割強であった。オンデマンドになり、ほとんどの講義で課題が課された結果、全ての講義で学習時間を長くとることは難しいかもしれない。「集中力」が次に低かったので、遠隔授業の視聴方法の確認、資料作成の工夫が必要である。

【7】 教員へのフィードバックについて

各教員に個別に各自の結果をフィードバックした。遠隔授業に関しては、問題点を全員で共有し、改善策を検討した。

【8】 学生へのフィードバックについて

各教員がセレッソのコースニュース等を通じて、フィードバックした。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

(1) 遠隔授業で自分のペースで学びを深めることができた学生も多かったことから、授業内容の充実、参考文献の紹介、レポートなどへの細かなフィードバックなどを通して、さらに学習意欲、学習成果を高めていく。

(2) 出欠方法が分からなかつたり、視聴方法に戸惑つたりした学生がいたことから、学生への遠隔授業の視聴方法、出席方法などを、授業の第1回目のオリエンテーションはもちろんだが、毎回授業開始あるいは終了時にコースニュースや動画で周知する。

【10】 総括

今年度は、教員、学生ともに準備がないまま遠隔授業が始まり、教員も資料作成に戸惑ったことがあった。ただ、授業内容については、自分のペースで視聴できる、分からぬところを繰り返し確認できる等、遠隔授業が良かったとの回答も多かった。今後もこのような点を踏まえつつ、授業準備をしていくことが重要である。また、新入生を中心に、出席方法や視聴方法が分からぬ学生もいたので、個別対応がひとつようである。遠隔授業だけでは、質問をすることが難しい場合もあり、工夫の余地がある。

以上

⑥ 人間文化学部メディア・映像学科

令和 3 年 3 月 20 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

人間文化学部メディア・映像科

学科長 中嶋 健明

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、メディア・映像学科では前期 12 科目、後期 9 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

【質問 1】から【質問 5】の結果から分析。

最も多く使われたツールは、Cerezo 等で配布された電子ファイルであった。

次いで Youtube 等を用いた講義動画となっている。

また、従来通りの紙媒体も用いられていた。

何れにしても、受講生は各自のペースで、何度でも繰り返し視聴・購読が可能な事から、概ね高い評価となっている。

一方でそれらコンテンツの視聴期間（期限）の設定について、各教員が悩み答えが出せないようだ。

また、配布させる教材にしろ動画にしろ、一方的に送るものだ、その理解度を図る方法として、アンケートやレポートなどは用意されているが、きめ細かい対応が可能かと言えば、これらのツールでは難しいようだ。

特に実習・演習系の授業の多いメディア・映像学科の特性として、リアルタイム性が重要な科目もあり、Zoomなどの双方向性会議システムを用いた授業が重宝した事例もあるようだ。

オンライン授業に徐々に慣れ、電子ファイルなどの教材とZoomを用いたハイブリット授業も多く行われた。実時間でZoomで講義を開始し、パワーポイント資料で説明後課題を出し、各自のペースで提出期限までに提出させる。授業時間中はZoomを開いておき質問にはリアルタイムで回答する、と言ったもので、この形式が出席率向上にも役立っていたようだ。

また、一部授業ではLINEのグループ機能で授業を進めた科目もあり、学生にとっては親近感があったようだ。

【質問6】【質問9】【質問10】の回答からも、講義形式の適切性・取り組みや教員からのサポートなど、概ね良い評価であった。

分析結果を踏まえた改善方策：

遠隔授業の長所として任意の時間に学習できる点、何度でも繰り返し学習できる点などが挙げられていて、質問への対応も概ね良い評価をされているようだ。

しかし、学生個人個人へのきめ細かい対応やサポートは充分では無いようで、成績と照らし合わせてみると、授業について来られない学生が、複数出てしまった様だ。

この解決方法として、担任教員による個別のZoomによる面談等で補った。

今回のアンケート結果から、これまでほとんど経験した事の無かった遠隔授業に、コロナ禍の影響で取り組み、多くの事が分かった。

- ① 多くの種類の教材を用いた方が効果が上がるようだ。
- ② オンデマンド形式の授業は、学科の特性から効果が得られないかも知れない。
- ③ 開講時間を厳密に設定しない授業の場合、課題を溜めてしまう学生が多く居て、結果として出席率と成績を落とす、落ちこぼれ学生を産んでしまった。
- ④ 実時間に行われるZoomなどを用いた対面に近い授業で、「パワーポイント教材」「パワーポイント課題」による講義形式に加えて、各自自由に課題に取り組む時間を設け、授業時間の間Zoomを開いて

において、実時間で質問に答える、ハイブリット形式の授業では、落ちこぼれを産みにくい事が分かった。

⑤ 最後に感染の危険が無いという書き込みも多く見られた。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析： レポートによる課題が 271（学科合計）と最も多く、次いで小テストなどによるチェックリスト形式が 129（同）と多かった。プレゼン資料の提出を課した授業 20（同）と一部行われていたようだ。

メディア・映像学科の特性として作品の提出を求めた授業も多く、その他として 97（同）と多くあった。また、課題によっては容量の大きいデータに提出も必要であったが、学内のシステムとしての受け口が無く混乱もあったようだ。

最終的には Microsoft の Sharepoint のグループ機能を使って提出させるなどの工夫が行われた。それでも数十 MB を超えるデータのやり取りは難しく、授業の中でデータの軽量化に関する知識も指導しなくてはならない。

分析結果を踏まえた改善方策：

遠隔授業アンケートの結果を振り返り、講義形式の授業では効果があるという結果が伺えるが、実習・演習科目では Zoom などの利用によって、対面授業に近い形の授業が必要となったようで、映像や共通のアプリで開ける形式のファイルは共有が可能で、課題の提出にも大きな問題はないようだ。しかし一部の授業では、紙に描いたものを写真に撮って提出させる課題などもあって、ネットからの盗用が疑われるものの提出があったこともあり、レポート課題とも共通の、コピペ盗用に対する対応も必要となるようだ。

◇ 「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

全ての授業において、フィードバックは Cerezo によるものだ。

またその内容は提出された各教科担当教員からの報告書に記載されている。

分析結果を踏まえた改善方策：

Cerezo によるフィードバックは、従来の授業形態と同様の対応である。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇ 「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は平均4.42であり、総合的には授業技術と講義内容は妥当な水準となっている。総合的満足度を問う設問 7 は4.26であり、授業技術等に較べて多少低い値であるが妥当な水準と考えられる。ただし、教員間の差は大きく、3.75 ~4.61 となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：

学科の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、授業間で差は大きくなっている。授業技術について研修を行うなどの対策が必要と考えられる。このような対策によって総合的な満足度は更に向上すると考えられる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

学生自身の学習点検に関する 7 項目の平均値は 3.18 であった。学生自身が自戒を込めて真撃に質問 1 から質問 7 よりも低めに回答した結果とも考えられる。ただし、関連学習については 2.07 と昨年度より非常に低い数値となっており、準備学修が不十分であると考えられる。学科専門科目には実習を含む演習系の科目も多く、事前の準備の難しいものもあり、今回は一部では遠隔授業が続いているが、教員側が充分の資料を提供しての授業が多かったことがこの結果に現れているようだ。対面→遠隔に切り替わらざるを得ない授業もあり、学生のモチベーションを保つためには、相応の工夫が必要なのかも知れない。また平成 28 年度から始めたノート PC 必携化によって、全ての学生が授業時間外でも学習可能な環境になっているが、今年度後期に限っては、学生にとっては授業について来るだけで精一杯だったかも知れない。

分析結果を踏まえた改善方策：

学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業である。まずは、非常に低い数値となっている関連学習について、事前学習の方法等を具体的に指示し、実施状況を定期的に確認するなどして、学習する習慣付けを行うことから始める必要がある。昨年度よりシラバスにも事前学習の内容と時間数を記入した。この事によって、学生の自覚が促された可能性もあって、1 昨年度はごく僅か改善されたが、今年度後期については対面→遠隔への切り替えなどもあり、戸惑いがあったことを窺わせる。ノート PC 必携化によって環境が改善されて久しいが、充分な学習意欲を促す結果に繋がらない。それに加えてコロナ禍の影響もあったが、対面にはない繰り返し学習が可能な環境などもあり、改善される要因になるかも知れない。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員（非常勤も含む）に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【8】 学生へのフィードバックについて

学生へのフィードバックは後期後半から行われた遠隔授業の再開によって、全てがCerezoを用いたものとなった。その内容については、教員から提出された授業評価報告書に記載されている。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

(1) 制作に重きを置いた学科であることから、学生は「学術的な映像の見方／読み方」を学ぶ本授業を制作実習に直接繋がらない知識だと考えていることがわかった。しかしながら、提出された期末レポートを読む限り、授業の目的や意図は十分に伝わっていることが確認できる。以上から、目標設定や授業方法は適切だが、理解度に対するフィードバックに不安を覚えている学生が多いように思われる。この点を次年度では工夫したい。

(2) 後期後半、オンラインでの講義になったとたん、授業に出席しなくなる学生が増えた。こうしたことの影響から学習の成果に関して二極化した印象がある。また「質問をすること」に対する消極性が顕著であるため、これらの点について検討する必要があると考えられる。自身の学修成果を客観的に振り返ることの必要性に気づけるような課題について検討したい。オンライン講義について、学生によって授業に向かう態勢に大きな差があった（結果、呼びかけにすぐ応答できないなど）。

(3)これまで大学会館のAV室で、映画館のような上映環境で行われてきた授業であったが、コロナ禍での実施のため15号館5階のパソコン室での実施となってしまい、さらに後半の3週間ではオンラインでの実施となってしまった。作品の鑑賞に変えて作品のリサーチとそのレポートの課題へと変更せざるを得ない状況であった。今後も新型コロナ対応が変わらなければ同様な環境が続くと思われ、根本的な講義内容の変更を考えなければならない。

【10】 総括

授業評価アンケートでは概ね高い評価を得ており、点検を怠らず現状を維持することが望ましいと言える。ただし、評価に大きな幅のあることに注意する必要がある。また今年度後期においては授業開始時に一部対面で行われていた授業が後半遠隔に移行してしまい、その環境の変化について来るだけでも大変な学生が多く居た。また教員にとっても大きい負担が加わってしまったことは否めず、授業評価アンケ

ートには現れない多くの改善が工夫されていることを充分評価したいと思っている。

以上

⑦ 工学部スマートシステム学科

令和 3 年 3 月 25 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

工学部スマートシステム学科

学科長 仲嶋 一

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、スマートシステム学科では前期 12 科目、後期 9 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

動画配信またはリアル対面式のものの評価は良く、資料配布式のものは評価の低い傾向にあった。しかしながら、資料配布でも説明が詳しくされていると高く評価されているものがあり、一概に判断はできない。対面授業に近い感覚となるものが総じて良い評価となっているようである。

分析結果を踏まえた改善方策：

リアル対面を含む動画を極力取り入れ、対面に近いペース感覚の中で、繰り返して視聴できるといったリモートの利点を活かした構成とするのが良いと考えられる。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析：

良い評価を得ていた授業の形式は、記述式テスト、レポート、チェック式テストであり、良い評価の得られなかつた授業の形式も同じであり、形式による差異の傾向はみられなかつた。このため、学生は課題の形式よりもその内容で判断していると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

形式よりはむしろ、学生の取り組みやすさ、取り組みに対していかにモチベーションを高めるかを深く検討していく必要がある。

◇ 「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

特に授業の形態や課題の形式との相関は見られなかつた。定量的な分析は難しいが、学生のコメントへの対応により評価が分かれると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

学生のコメントにはきめ細かい対応が必要であり、学生のコメントを引き出す工夫も含めて気配りをしていく必要がある。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇ 「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

総じて良い評価が得られている。時間超過ということで授業時間での評価の低かった例があるが、例年と異なる授業時間の中で、致し方のない面もあると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

次年度も授業時間は短縮されるので、本年度の経験を活かした時間配分が必要である。

◇ 「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

全学の平均に比べ総じて低めではあるものの、ほぼ平均値であった。集中力に関しては、その中では比較的低い評価値となっており、リモートと対面が交互に実施された中で、モチベーションを維持させることが困難であったことが窺われる。

分析結果を踏まえた改善方策：

対面からリモートに移行した場合、孤独感を感じさせない対面の雰囲気を維持し学生のモチベーションを確保する施策を講じる必要がある。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【8】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義中に、または Cerezo を通じて、授業科目担当教員が行った。また、その折に追加の意見聴取も行っている。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) リモートにおける同期型授業を主に実施するためには、本学の通信トラフィックに対する耐力を明確化する必要がある。
- (2) セレッソを利用したオンデマンド形式は有効であったと思われるが、学生の個々の反応を見たり、授業のライブ感を出すことは難しい。Youtube での配信や Zoom のような会議ツールを利用した双方向の話し合いを取り入れることが改善策として考えられる

【10】 総 括

本年度は、新型コロナ禍により、リモート、対面が交錯する中で、試行錯誤で授業が実施され、積み上げられ精錬されたものとは言い難い状況であった。その中で、リモートにおける授業のノウハウが蓄積された意義は大きく、今後、ポストコロナの時代においてもリモートを有効に活用し、従来の対面だけによる授業をより改善していく下地が備わったものと認識している。この知見を活かして、次年度以降も教育の質の向上に、学科を挙げて取り組んでいきたいと考える。

以上

⑧ 工学部建築学科

令和 3 年 3 月 19 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

工学部建築学科

学科長 都祭 弘幸

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、建築学科では前期 10 科目、後期 15 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析： 建築学科教員のアンケート結果は、4.07～4.75 に分布し、学科平均値は 4.32 であった。工学部平均値 4.36、全学平均値 4.36 よりも若干低い評価であった。オンデマンド授業では、パワーポイント動画や PDF 資料を何度も学修することができる点が高評価であった。また、Zoom を使用したリアルタイム授業では、資料を見ながら説明を聞くことができる点が学生にとっては理解しやすいと高

評価であった。

授業ツールで最も多かったのは、Cerezo で配信する PDF 資料で全教員が該当した。同時に Zoom による双方向授業を実施したのは 4 教員にとどまった。

分析結果を踏まえた改善方策： 授業ツールに関する改善として、Zoom によるリアルタイム授業で必要な資料を Cerezo で配信するタイプの授業形式が高い評価を得る傾向が見られた。直接、解説・説明を聞いて、資料で復習することができるからであろう。中には Zoom 授業を独自にレコーディングしていた学生もいたようである。

オンデマンドではパワーポイントに音声を入れた画像データを配信した例が多かったようである。いずれも音声・画像付きで復習できる点が学生にとっては好まれることを表している。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析： 建築学科教員のアンケート結果は、4.26～4.69 に分布し、学科平均値は 4.45 であった。工学部平均値 4.42、全学平均値 4.39 よりも若干であるが高い評価であった。

建築学科の場合、課題形式は Cerezo の小テストを利用した選択形式が最も多く 48%、次いで同じく Cerezo 小テストにおける記述式テストが 31%で、レポートが 18%であった。レポート形式の課題を出した科目の評価が高くなる傾向が見られた。

建築学科全体で学生の回答を見ると、「適切である」が 66%、「ほぼ適切である」が 23%であり、約 9 割が適切であると評価されている。学科全教員が適切な課題形式を選択していると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策： 課題の形式については、各授業科目により求められる内容や難易度が異なるので、一律に課題形式の方向性を決めることはできない。授業科目に適した課題ツールが求められるとともに、学生が適切と受け取ることができるものが望まれる。

学生の評判が良かったことは、レポート課題の場合、word データ送付に限定するのではなく、手書きしたものや写真撮影データでも認めてくれたことであった。このように課題形式だけでなく、課題の提出方法に関しても柔軟な対応が必要であると考えられる。

◇ 「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析： 授業評価アンケート実施教員 10 名中 8 名が Cerezo を用いてアンケート結果をフィードバックした。残り 2 名はフィードバックを実施していない。

分析結果を踏まえた改善方策： フィードバックを実施しなかった教員のコメントは、授業が終了していたため 1 名、理由不明 1 名であった。授業が終了していたとしても Cerezo が公開されている期間に、学

生に回答を返すことが求められることを全教員が認識する必要がある。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析： 質問1から質問7は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問である。7項目の学科平均は4.39であり、学部平均4.43および全学平均4.49を下回った。昨年度の後期と比較すると、学科平均4.59、学部平均4.50、全学平均4.53であり、全学的に低下したことが分かる。ただし、学科平均は学部平均・全学平均よりも下がったことから改善が求められていると判断する。

分析結果を踏まえた改善方策： 質問1から質問7の全項目で、全学平均・学部平均を下回っていた。全学平均との差が大きかった項目は、「講義の工夫」（建築学科平均4.31）であった。重要な項目である「授業への満足度」は、建築学科平均4.21であり全学平均4.29を若干ではあるが下回ったので、次年度は満足度について工学部平均・全学平均を上回るようにしたい。後期は新型コロナ禍でありながら、対面授業とオンデマンド授業が混在していた。対面授業での工夫、オンデマンド授業での工夫、授業内容に応じてそれぞれの課題があると思われる。各教員の授業評価における“改善を求められている事項”や学生からのコメントを考慮した工夫を検討し改善を図っていく。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析： 質問8から14までの7項目の学科平均は3.88であり、全学平均3.89、工学部平均3.85とほぼ同等であった。昨年度の後期学科平均3.67と比較すると約0.2改善した。工学部平均・全学平均も昨年度よりも0.15程度改善されている。

項目別では、「関連学習」、「知識や技能の深まり」、「質問への積極性」、「学修の成果」の4項目が全学平均を上回った。それに対して、「集中力」、「出席状況」、「意欲の深まり」の3項目は全学平均より低い評価であった。

分析結果を踏まえた改善方策： 低い評価であった「集中力」、「出席状況」、「意欲の深まり」のうち、「集中力」と「出席状況」は昨年も全学平均よりも低い評価であった。「出席状況」を改善するために、学科全体でより一層の出席状況把握が求められる。教員のZelkovaへの早期出欠登録を徹底させる必要がある。「集中力」に関しては、個々の授業科目における創意工夫が必要だと思われる。演習の採用やグループ別指導なども考えられるが、実務者教員であれば実務経験を交えた講義、学内外のフィールドワークの検討など、学生が興味を持つ内容を盛り込んで改善につなげたい。

【7】 教員へのフィードバックについて

対象科目のアンケート集計結果を担当教員にフィードバックし、担当教員はそれを基に授業アンケート実施報告書を作成した。実施報告書の提出率は、前期・後期ともに 100% であった。

【8】 学生へのフィードバックについて

前期については、授業評価アンケートを実施した 10 科目中 8 科目で学生にフィードバックされた。後期については、常勤教員 11 名中 10 名、非常勤講師 4 名中 4 名全員が学生へのフィードバックを実施している。フィードバックの方法は、前期・後期ともにほとんどが Cerezo を用いた報告がであった。

前期・後期で実施したアンケート 25 科目中で 22 科目が学生にフィードバックされている。実施率で 88% であることから実施 100% となるよう学科の会議等で呼び掛ける。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 遠隔授業では、質問時間や投票などを採用し学生参加型の授業を検討する。
- (2) 遠隔授業における Cerezo 掲示板（スレッド）の有効な活用し、双方向のコミュニケーションツールとして使用できないだろうか。
- (3) オンデマンドではあったが、Zoom によるリアルタイム授業を行い、録画を授業後に配信する手法を採用した。
- (4) 対面授業、遠隔授業にかかわらず質問が少ない。質問を増やす方策が課題である。
- (5) 授業内容と実社会との関連を深めるために事例や活用イメージを取り入れる。
- (6) 遠隔授業においても学生作品を発表する時間を設け、学生同士が刺激し合う機会があると良い。

【10】 総 括

今年度は前期については遠隔授業であったため、授業ツールと課題形式がアンケートの主軸であった。授業ツールに関するアンケート結果は、学科平均値は 4.32 であり、工学部平均値 4.36、全学平均値 4.36 よりも若干低い評価であった。また、課題形式に関するアンケート結果は、学科平均値は 4.45 であり、工学部平均値 4.42、全学平均値 4.39 よりも若干ではあるが高い評価となった。

授業ツールでは、Zoom によるリアルタイム授業あるいはパワーポイントや Zoom を録画した動画配信によるものが好まれる傾向がある。課題形式については、小テストの選択・記述式が大半であるが、授業内容によってはレポートが適切と判断されることもある。その場合、レポートの提出方法は word データにこだわらず、手書きレポートの写真撮影データ提出を認めることができると評価される。前期の遠隔授業における“学修への取り組みの度合い”という評価では、学科平均値は 4.22 であり、工学

部平均値 4.15、全学平均値 4.17 よりも若干高い評価であった。

後期の授業評価アンケートは例年通りの評価項目であった。質問 1 から質問 7 の 7 項目学科平均は 4.39 であり、昨年度の後期学科平均よりも 0.2 低下した結果となった。遠隔と対面授業が混在したことが低下を招いた一つの要因と考えられるが、個々の授業における課題やコメントを真摯に受けとめ検討・改善する必要がある。

質問 8 から 14 までの 7 項目の学科平均は 3.88 であり、昨年度の後期学科平均 3.67 と比較すると約 0.2 改善した。工学部平均・全学平均も昨年度よりも 0.15 程度改善されている。全学平均より低い評価となった「集中力」、「出席状況」、「意欲の深まり」の 3 項目については改善しなければならない。特に「集中力」と「出席状況」は、昨年と同じ傾向であることから改善を求められる項目だと考えられる。

実施した授業評価アンケートに関しては、前期・後期ともに全担当教員が実施報告書を作成し 100% の提出率であった。しかし、学生へのフィードバックは、前期・後期ともに 100% ではなく、前後期全体で 88% であった。フィードバック 100% への改善が必要である。

学生の授業評価アンケートへの回答率は、科目による差はあるが、学科平均が前期 60.2%、後期 65.6% であり、前期・後期ともに全学平均を上回った。より回答率が高くなるようそれぞれの授業で指導・改善を図っていくことが大切である。

以上、アンケート結果の分析を学科内で共有し、今後の授業改善に取り組んでいきたい。

以上

⑨ 工学部情報工学科

令和 3 年 3 月 3 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

工学部情報工学科

学科長 尾関 孝史

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

各教員の授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、情報工学科では前期 8 科目、後期 8 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

情報工学科では、2 の電子ファイルがほぼ半数を占めている。3 の YouTube や 4 の Zoom は全学平均に比べるとあまり利用はしていない。動画を多用しなかった理由の 1 つは、学内ネットワークに過大な負荷をかけない配慮をしたためである。学科平均（4.40）が全学平均（4.36）を若干上回った結果を

得た。

分析結果を踏まえた改善方策 :

学生の意見の中には映像による解説を増やしてほしいとの意見もあった。しかし、前期は映像が良く見られていたが、後期はあまり見られていないものがある。映像で理解したつもりになった学生も多いため、教科書を読むことをより重視する授業を実施する。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析 :

情報工学科では、1のチェックリスト形式テストが多用された。これは全学の傾向と同様である。一方、レポートの利用はあまり多くなかった。なお、学科平均（4.46）が全学平均（4.39）より高い評価を得ている。

分析結果を踏まえた改善方策 :

学生が長いレポートを書くことが苦手なようなので、各学年の演習でレポートを出すことを検討した。

◇ 「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析 :

学科平均（4.09）が全学平均（3.91）より高い評価を得ている。

分析結果を踏まえた改善方策 :

全体的に学科平均と全学平均に大きな差異はなかった。また、特定の教員や特定の項目でひどく低い評価は見られなかった。このため、大きな改善方策は不要で、各自で細かな改善を行うこととした。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇ 「授業評価アンケート」について

点検結果の分析 :

学科平均が全学平均から若干低い項目が多かったが、大きな差異はなかった。また、特定の教員や特定の項目でひどく低い評価は見られなかった。

分析結果を踏まえた改善方策 :

大きな改善方策は不要で、各自で細かな改善を行うこととした。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

関連学修及び意欲の高まりの項目で学科平均（2.58）が全学平均（2.42）を少し上回った。その他は少し下の評価となった。しかし、全体的に学科平均と全学平均に大きな差は見られなかった。

分析結果を踏まえた改善方策：

大きな改善方策は不要で、各自で細かな改善を行うこととした。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート結果を各教員に配布した。また、集計を元に、2月24日に学科内のFDを行い、今後の改善方針に関して議論を行い、大きな改善点がないことを確認した。

【8】 学生へのフィードバックについて

Ceressoを利用して、アンケート結果を学生へ公表した。また、各授業の必要な改善点を説明した。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- （1）授業の意義を伝え、学生の集中力を高め、質問を多く受け付けるなどの工夫を行う。
- （2）「関連学習」の意識付けを促すため、すでに実施している授業開始時に予習しているか確認するための小テストの実施を検討する。
- （3）質問しやすくするため、授業中に教員側から学生に積極的に声かけを行うようにする。

【10】 総括

遠隔授業では、教科書を読む学生が少なかった印象を受けている。安易に映像による解説を増やすのではなく、教科書を読んで細かい内容も学修するように指導する必要がある。また、長文のレポート作成の経験が少ないため、いくつかの演習でレポート課題を増やすように学科で検討した。今後はCeressoを利用した事前・事後学習を推し進め、学生の授業への準備や復習を促し、受け身でない学修を指導したい。

以上

⑩ 工学部機械システム工学科

令和 3 年 3 月 19 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

工学部機械システム工学科

学科長 内田 博志

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、機械システム工学科では前期 9 科目、後期 10 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：「セレッソ等で配布された電子ファイル」を授業ツールとした教員が最も多く、「YouTube 等を用いた講義動画」がこれに次いだ。

分析結果を踏まえた改善方策：

授業ツールの評価はおおむね良好であった。科目の特性により、電子ファイルの配信、講義動画のいずれの形式で授業を行うかを十分に検討し、それぞれの実施上の工夫を加えてゆくことで、授業の理解度・満足度をさらに向上できると考える。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析：課題の形式としては、Cerezo を利用したチェックリスト形式テストが最も多く、レポート、記述式テストがそれに次いだ。

分析結果を踏まえた改善方策：課題の形式についても、評価はおおむね良好であった。授業ツールと同様に、科目の特性に合わせた課題形式の選定、実施上の工夫改善の積み重ねが重要であるといえる。

◇ 「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：Cerezo を活用したオンデマンド型の授業したことにより、講義内容を繰り返し復習できる点が評価されたという意見がある一方、「フィードバックやサポート」の評価が低かったという意見もあり、遠隔授業の長短が浮き彫りにされた。

分析結果を踏まえた改善方策：

遠隔授業には通常の対面授業と比べて長所短所の両面があり、それを踏まえた授業実施方法の工夫が必要である。教材の重要ポイントの明示、学修内容の復習も含めた解説など、遠隔授業の実施方法の改良を加えてゆく。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇ 「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：全体的には高評価であったが、授業科目や質問項目により評価結果のばらつきが見られた。また遠隔授業の影響と思われるが、アンケート回答率が低かった科目がいくつか見られた。

分析結果を踏まえた改善方策：評価結果の低かった授業科目や質問項目で個別に対応を進める。遠隔授業の実施方法については、他大学や他学部、他学科の実施例を参考としつつ改善を加えてゆく。

◇ 「学生の自己点検」について

点検結果の分析：概ね良好な評価であったが、学修成果、関連学習の面で改善の余地ありとした科目があった。遠隔授業の受講の難しさが影響したとする報告も見られた。

分析結果を踏まえた改善方策：授業内容の理解をいっそう促すため、グループ学習によるアクティブ・ラーニングの導入、参考情報の提供、自宅課題の工夫による関連学習の促進などを進める。

【7】 教員へのフィードバックについて

前期、後期とも、学科全教員分の授業評価アンケート結果を、メール添付にて全教員に配信した。

【8】 学生へのフィードバックについて

前期、後期とも授業評価アンケート期間が遠隔授業実施期間と重なったため、ほぼ全教員が、Cerezo (コースニュース) を用いてフィードバックを行った。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 遠隔授業では授業の動画配信だけでなく、小テストや PDF 資料などを組み合わせた複合的なコンテンツ提供により、理解の促進を図る。
- (2) 新型コロナウィルス対策としての遠隔授業であったが、授業としてむしろ良い結果を生んだ。今後も継続して実施していきたい。
- (3) 自宅などでの関連学習を進めるためには、1回あたりの学習時間を多くとる課題を与えるための工夫が必要である。
- (4) 講義に演習を交えることで、かえって学習を難しくさせる場合がある。Cerozo を通じて参考情報を提供するなどで解決を図ってゆく。

【10】 総 括

定員未充足状態の続く本学科にとって、授業の質向上は、学科の魅力を高め学生募集を改善するための重要な事項である。今後も授業評価アンケート結果を活用し、学科内での議論を交えつつ、カリキュラムや授業内容の改善を図ってゆく。

以上

⑪ 生命工学部生物工学科

令和 3 年 3 月 8 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

生命工学部生物工学科

学科長 岩本 博行

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、生物工学科では前期 12 科目、後期 11 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

- ・授業ツールとしては、教科書、PDF ファイル、授業ノートのワードファイル、講義動画、Zoom など多様な授業ツールが使われていた。
- ・遠隔授業で評価された点は、自分のペースで何度も見直して復習できることで、これは対面授業でも

活かせると考えられる。わかりやすかったようだ。

- ・資料だけの場合、重要な箇所はポイントが分かり難いという指摘があり、もう少し解説を付けてほしいとの事であった。部分的に音声の説明も欲しかったという声もあった。
- ・遠隔の場合、授業内容に雑学や脱線などの周辺知識が不足するという声があった。
- ・遠隔授業は質問等がしにくいとの学生の意見もある一方、スレッドを立てても誰も何も書き込まないので、「はたして質問する気があるのか?」という教員の声もあった。
- ・対面授業と異なり、遠隔授業では数多くの質問が寄せられたとの声も。
- ・遠隔授業の初期には質問が多かったが、遠隔授業が進むにつれて学生がサイレントになっていく傾向が強かった。
- ・資料にぎっしりと文字が詰め込まれすぎて読みにくいという声があった。スマホで受講している学生に顕著である。
- ・なるべく双方向でやりたいが、Zoom 等は制限があり難しかった。今ではだいぶ回線も改善されていると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

- ・授業で使用する講義資料は、できるだけセレッソや YouTube に上げるようにしている。
- ・音声が悪い、声が聞き取りにくい、という意見が出た。これはパソコンに附属のマイクの性能が低かつたためで、お店にマイクを買いに行ったがどこも売り切れていて入手できなかった。現在は入手しているので改善されたはず、とのこと。
- ・読み上げ機能を使われていた先生もいた。
- ・Zoom 等の配信授業を行っても、学生はカメラをオフにしているので学生の様子が見えず、理解度が把握できないとのこと。授業中に時々質問しているが、なしのつぶて。
- ・どの授業も同じ様な形式なので、もっとバリエーションが欲しいとの声も。これに関しては、遠隔授業に習熟するにつれて使える技術も増えるので、多様性が増す方向に向かうと思われる。
- ・学生が見やすい遠隔授業資料の作成に努めている。
- ・できるだけ授業内容の関連知識や社会とのつながりを授業に盛り込んだ。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析：

- ・レポート提出、記述式テスト、チェックリスト形式の小テスト（セレッソの「小テスト」利用）がほとんどであった。
- ・レポートや課題を提出してもそれがあっているのか間違っているのかわからないという声であった。

分析結果を踏まえた改善方策：

- ・課題の評価をできるだけ早く知りたいとの声。これは以下のフィードバックに関連する。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

- ・フィードバックはセレソや次の授業の最初にまとめてやったりしている例が多い。
- ・教員は多くの授業を抱え、初めての遠隔授業で教材を作るだけで精一杯で、学生の声に対して迅速にフィードバックするのは困難であった。特に個人個人にフィードバックするのは負担が大きすぎる。

分析結果を踏まえた改善方策：

- ・学生からは、課題やレポートを出したときに、それに対するフィードバックが非常に遅いかまたは全くないので、レポートや課題の内容が適切かどうかわからない、知りたい。
- ・それを解消するために、自動採点式のテストを作つて、提出時にすぐ正誤がわかるようにしたものも有つた。
- ・一方、課題等はそういった正解のあるものばかりではないので、できるだけ早く読んで個人にフィードバックするよう努めているとのこと。
- ・一方、そうしてフィードバックしても、そのフィードバックに対して何ら反応のない学生がほとんどなので、フィードバックするモティベーションが上がらないとの声も。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

- ・全般的に、学生からの評価は高かった。
- ・これまで厳選したビデオ教材を対面授業で行ってきたが、遠隔でそれが不可能になった。
- ・対面・遠隔が切り替わったりして、シラバス通りに授業が進まなかつた。
- ・学生の理解度が把握できないので、課題や練習問題、小テストを増やしたが、それが全授業で重なり学生に過大な課題を背負わせた面もある（レポートが終わらないきりがない）。
- ・通常授業に関する授業評価アンケートはすでにマンネリ化している。

分析結果を踏まえた改善方策：

- ・対面授業であっても、以前は利用していなかったセレッソの「小テスト」などを利用して授業理解度の把握に努めた。
- ・遠隔授業で「声が小さい」という「声が大きかった」のでマイクのボリュームを上げた。

- ・どう考えても真面目に受講する気がない学生が散見されるので、そういう学生には個別にコミュニケーションを図った。
- ・学生によって学力が理解度の違い大きいので、難易度の設定に苦労した。
- ・遠隔授業では、早口にならないよう、モゴモゴ喋らないよう留意した。
- ・初年次教育に特に重点を置いた授業を行った。
- ・対面授業に関してはこれまでの授業評価アンケートで改善方策が出尽くしている。

◇ 「学生の自己点検」について

点検結果の分析 :

- ・例年どおり、学生の関連学習、集中力、質問への積極性、意欲の高まりなどの数値がおしなべて低い。
- ・例年同様、積極的に質問をしない学生が多かった。これは対面よりも遠隔で顕著だった。
- ・学生によると、対面より遠隔のほうが格段に質問や意見を述べるのが難しいとの声があった。これは意外であった。

分析結果を踏まえた改善方策 :

- ・学生の授業に対する興味を高めるため、身近な話題や現代社会が抱える問題（SDGs や ESG など）との関係性を授業内容に加えるよう工夫した。
- ・学生の集中力・意欲の高まりを目指して、最新の面白い研究などを紹介した。
- ・3年生向けの授業では、これから始まる就職活動に利用できるネタをできるだけ授業内容に盛り込んだ。
- ・小テストや小課題の提出が悪い学生ほど学修意欲や学修成果が低い傾向にあるので、こまめに提出するよう指導した。
- ・提出されたレポートや課題に個別に、全員コメントを書いた。
- ・授業内容と地元広島県との繋がり・関連性を授業で強調した。
- ・学生から、課題に追われ余裕がないとの声が多かったので、宿題をあまり課さずに授業時間内に終わるものとした。また課題内容の解説を授業時間後にセレッソで流した。

【7】 教員へのフィードバックについて

- ・学科教員へは、本報告書を開示することによってフィードバックを行った。

【8】 学生へのフィードバックについて

- ・学生へは、各教員がセレッソを使ってフィードバックを行う。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

（1）遠隔授業大きなポイントの一つに、課題やレポートを出した後の教員からのフィードバックが挙げられる。提出物が正しいのか誤っているのか、十分な内容かそうでないのかがすぐにわからない。教員からのフィードバックは概ね遅いか、フィードバック自体がないことも少なくない。そこで、セレソの自動採点機能を使ってチェック形式の小テストを行い、提出時にすぐ回答がわかるようにしているなどの試みがあった。レポート等に関してはなるべく早くフィードバックするよう努められているが、個人個人にフィードバックするには時間がかかり、労力もかかる。

（2）学生によりネット環境に差があり、遠隔授業の受講が困難な学生も散見された。自宅に光やWi-Fi回線がない、あっても不調である、アパートの光回線が遅すぎて使い物にならない、通信量を節約するためコンビニやファストフード店に行かなければならないなど。これらについては（レベルによるが）大学のキャンパス内でゼルコバを利用してもらうなどを提案した（空き教室などを利用）。

（3）今年は初年次生で、特に語学の授業で遠隔授業に馴染めず、単位を取得できなかった学生が目立った。遠隔授業で当たられるのが恐怖で、授業に参加しなかった等。学生によって遠隔授業の感じ方に差が大きいので、自学科生が受講する専門科目では個別対応ができるが、一般教育科目は個別対応が難しい。

（4）どの授業にも共通するが、スレッドがほぼ使われていないようだ。受講生全員に向けて質問などを発信するのは、どの学生にも忌避されている。質問などは1対1で対応しているが、手間がかかる。

（5）遠隔で使用する教材・資料については、スマホで見ている学生とPCで見ている学生では受講環境が大きく異なるので、PC向けに作成した資料はスマホでは非常に見づらい。これに関しては地道にBYODを進め、殆どの学生が大画面で受講できるよう環境整備を進めるよう努力する。

【10】 総 括

以上、本年度はこれまで前例のない遠隔での授業を始めた年になり、多くの問題点、課題もあったが授業や学生とのコミュニケーションのツールやスタイルで革新があった年である。アフターコロナのニューノーマル時代は、衛生意識同様教育環境も以前と同等には戻らないと考えられるので、いろいろな技術を利用した多様な授業・教育が進むだろう。

以上

⑫ 生命工学部生命栄養科学科

令和 3 年 3 月 15 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

生命工学部生命栄養科学科

学科長 石井 香代子

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、生命栄養科学科では前期 11 科目、後期 10 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：概ね 4.0 以上の点数であったが、3.92～4.71 と科目間（教員間）に開きがあった。学年別で見ると、1 年生科目の基礎科目が低い傾向であった。2 年生科目は平均してこの質問に対しては評価が良く、提示した授業ツールにも対応できているように見受けられた。3 年生の回答率が 20% 程度で意見がくみ取れていない可能性が考えられる。4 年生科目は全教員で分担する科目で、各教員の学習資

料の違いも考えられた(テキストは学生へ配付済)。

分析結果を踏まえた改善方策：各教員の授業ツールの開示を行い(教員間で確認は可能)、良い部分は教員間で情報共有して、授業に生かせるようにする。テキストの進行と学生の学修状況をモニターする必要がある(小テストなどで確認)。

◇「課題の形式」について

点検結果の分析：課題形式については、1年生で評価が低い傾向であった。基礎科目である為、理解が進むような課題が出ていない可能性が考えられる。2年生は概ね評価は良かった。3年生は科目にバラツキがあった(2.67～4.60)。4年生は初めての遠隔授業での卒業演習(国試対策)のため課題形式については、学修体制と教員の課題内容にやや問題が残った感がある。教員間で課題を統一していなかった。学部4.43、全学4.39と比して4.12と低値であった。

分析結果を踏まえた改善方策：1年生への自宅での学修体制の確認と、丁寧な働きかけ及び科目の理解度を確認できる課題が必要である。4年生科目は特殊かもしれないが、学修したことの確認が出来るもの、セレッソで何度も資料を確認出来るなど、復習した部分に沿った課題が提示できるようにする。課題の分量や質なども検討する必要があると考えられた。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：フィードバックができている科目とできていない科目に分かれた。学科平均で3.63で学部、全学と比べても低くなかった。特に4年生科目の卒業演習(国試対策)では2.89と低値で、各教員の学生へのフィードバックが出来ていない可能性がある。1年生対象の2科目が学生へのフィードバックも低い傾向(3.27, 3.31)であった。

分析結果を踏まえた改善方策：特に1年生は不明な点などを質問することに不慣れで、遠隔授業での学習の困難さが推察され、教員からの働きかけを他の学年よりも注意して行う(確認回数を増やす)必要がある。また、4年生では質問がある事を想定して、1年生と同様に確認回数を増やすなどの設定を行う。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：質問1～7の平均では、生命工学部4.57に比して4.55、全学4.49より少し評価が良かった。授業への評価はまずまず良かったのではないかと推察する。授業時間については4.73と高得点であり、適正な時間で授業できていたと考える。また、教員の話し方も学部、全学より評価が良かった。学生の授業満足度も4.33で良好と考えた。

分析結果を踏まえた改善方策：教員間で少し評価が分かれる部分もあったが、総じて評価は良かったと考えられ、現状の授業体制を継続していくことが大切である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：質問8～14の平均は、3.77であった。これは学部・全学よりも低く学生の学修意欲や学修の成果等全ての項目で低値となっている。出席状況は4.66と高値であったが、集中力がやや低く、意欲の高まりも低くなっていた。さらに関連学習時間が非常に少なく、事前学習や宿題など設定する必要を感じる。授業の準備を余りせず、復習もしないので授業内容の定着も不良であると推察される。学修の成果では、1年生よりも2年生科目で低値となっていた。2年生では専門科目も多くなり、十分な理解が追い付いていないかもしれない。1年生は比較的意欲を持って授業に臨めているようである。

分析結果を踏まえた改善方策：学修の成果は、科目間(3.77～4.35)にも違いがあり、満遍なく理解して欲しいが、学年進行により2年次後期は特に専門科目とそれに関連する課題なども多く出されるのでそれも影響しているかもしれない。十分な学修時間を取りるように指導する、講義時間内での確認作業など工夫する等が要るのではないかと考える。

【7】教員へのフィードバックについて

各教員には担当科目の点数等をお知らせし、確認と学生からの授業評価への対応を検討して自己評価をしていただいた。

【8】学生へのフィードバックについて

学生へは、セレッソ及び授業中にて、各授業担当教員より授業評価の結果を伝えた。

【9】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 講義内容に直結した管理栄養士の過去問4問からなる練習問題をプリントで配付し、解説するという時間を設けており、引き続き継続する。
- (2) 各科目の知識を関連付ける「横糸」を紡がせることが重要と考えている。
- (3) 提出課題にはこまめにフィードバックを行い、学習の成果を実感してもらう。
- (4) 80分間ではなかなか質問が難しいので、セレッソなど活用して意見の抽出をする。
- (5) ステップごとに確認テストを行う。

(6) 「衛生行政」への関心を引き出せるように、実際の事例を取り込んだ授業を展開する。

【10】 総 括

前期は初めての遠隔授業の実施で、教員も学生も慣れない部分を大いに感じた。学修状況の把握の困難さ、課題提出に至るまでの学修の積み上げに苦慮した感がある。これは学生も大変であったと推察する。特に課題の提示では、評価が低い傾向でその分量や質は検討すべきで、教員間での統一した課題提示を目指さなければならない。様々な発信方法で、飽きさせない授業が最終的に学修の成果に結びつくのではないかと考える。

後期はほぼ対面授業を行う事が出来たが、学修の成果は低い傾向であった。学修時間も取られておらず、自己学習ができていない現状が想像できた。遠隔での情報発信も取り入れて学修時間の確保、モチベーションの維持・向上に努め、管理栄養士国試レベルの基礎知識の定着を低学年より行う必要性をさらに強く理解した。

以上

⑬ 生命工学部海洋生物科学科

令和 3 年 3 月 16 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

生命工学部海洋生物科学科

学科長 三輪 泰彦

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、海洋生物科学科では前期 14 科目、後期 13 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：セレッソ等で配布した PDF、Powerpoint スライド（音声なし）は 9 科目、YouTube 等を用いた講義動画や Powerpoint スライド（音声付き）動画は 1 科目、両方のツールを組み合わせた科目が 3 科目であった。これらの科目の授業ツールの適切さを問う【質問 2】の平均点は 4.44 であり、今年度の学部平均点（4.44）と同じで、全学平均点（4.36）より 0.08 ポイント高かった。この結果から概ね、

本学科の授業ツールは適切であったと判断している。「授業ツールで学修成果を得る上で良かった点」を問う【質問3】では以下の回答があった。PDF、Powerpointスライド（音声なし）およびYouTube等を用いた講義動画やPowerpointスライド（音声付き）動画のいずれにおいても資料や動画を見返したり、聞き直したりして何度も復習し、理解を深めることができた。一方で、資料配布した授業よりもYouTube等を用いた講義動画やPowerpointスライド（音声付き）動画による授業の方がわかりやすいと感じた学生も多かった。

分析結果を踏まえた改善方策：

フリーコメントではPDF、Powerpointスライド（音声なし）の授業では「音声による動画やPowerpointスライドを使用した授業ツールを取り入れてほしい」と改善を求める声があったことから音声によるPowerpointスライドを使用した授業ツールによる講義の割合を増やしていく必要がある。また、遠隔授業で用いたツールで「授業内容がわかりやすかった」という点を踏まえて今後、対面授業が実施される際にPDF、Powerpointスライド（音声なし）およびYouTube等を用いた講義動画やPowerpointスライド（音声付き）動画を適切に導入して学修成果を得る努力を行っていきたい。

◇「課題の形式」について

点検結果の分析：

小テストと記述式テストおよびレポートの併用は11科目で、記述式テストとレポートのみが3科目であった。「これらの科目の課題の形式の適切さ」を問う【質問6】の平均点は4.44で今年度の学部平均点（4.43）とほぼ同じで、全学平均点（4.39）より0.05ポイント高かった。フリーコメントでは以下の内容の回答があった。課題を行うことで授業内容を復習することができた。成績が表示される課題は自分の理解度や学力を知ることができる。記述式テストでは「自分で考えて文章にまとめる力がついた」や「自分で考える力が向上した」。

分析結果を踏まえた改善方策：

課題の形式にこだわらず、「自分で調べて考える」課題は授業内容の理解を深めることができることから今後、導入していきたい。課題の中に公務員試験や資格試験の過去問題などを組み込むことで、専門の内容をしっかりと理解させるとともに将来の進路につながることが期待できる。ごく一部の教員が課題の中に予習問題と復習問題を導入していたことから、学科全体でもこのような課題形式で取り組むことによって予習、復習、関連学習の学習時間の確保に良い効果がもたらされると考える。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：遠隔授業において「教員から学生へのフィードバックやサポートについて」問う【質

問10】の平均点は3.98で今年度の学部平均点(3.99)とほぼ同じで、全学平均点(3.91)より0.07ポイント高かった。学科教員の学生へのフィードバックやサポートについては概ね、「十分にあった」、「まああった」という学生が大半を占めていた。

分析結果を踏まえた改善方策：学生数が多いため課題の採点にかなりの時間を費やしたため、また多くの科目の遠隔授業の準備のためにフィードバックが追いつかなかった科目がみられた。次年度は今年度よりは時間に余裕ができるのでしっかりとフィードバックやサポートができるように改善していきたい。また教員からのフィードバックについては時間の許す限り、適時にフィードバックを行う必要がある。さらに今後は授業の内容だけでなく、学び方、資格、進路なども含めて、学生が質問しやすい環境づくりに努めて学生へのフィードバックやサポート体制を充実させていきたい。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：教員の授業技術に関する7項目の学科平均点は、後期科目では4.58であり昨年度の4.49を0.09ポイント上回ったとともに今年度の学部平均点(4.57)とほぼ同じで、全学平均点(4.49)より0.09ポイント高かった。これらの項目については標準値(3.5)を上回っており、本学科教員の授業技術に概ね問題ないと判断している。講義の満足度を問う質問7の平均点は、後期科目では4.44と昨年度の4.33から0.11ポイントと大きく上昇し、今年度の全学平均点(4.29)を0.15ポイント上回った。昨年度と比べて後期の講義の満足度が顕著に上昇したことから後新任教員ならびに学科教員の授業改善の努力が反映された結果と捉えている。

分析結果を踏まえた改善方策：学科全体として教員全員が対面授業ではなく、セレッソ等で配布したPDF、Powerpointスライド（音声なし）、YouTube等を用いた講義動画、Zoomなどのツールを使用して授業が行われた結果、後期の「講義の満足度」ならびに「7項目の学科平均値」が顕著に全学と学部の平均点をそれぞれ上回った。これらの結果から今後、学科教員は概ね授業の内容や方法について対面授業に今年度の遠隔授業で得られたCerezo活用法を適切かつ積極的に導入することによって授業の満足度の改善につながると考えている。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：自己点検に関する7項目の学科平均値は、後期科目では3.96であり、昨年度の3.69を0.27ポイントと大きく上回った。また、この値は全学平均点(3.89)並びに学部平均点(3.87)よりも高く、標準値(3.5)より高かった。学生の自己点検に関する項目についても、昨年度と比べて後期の値が高くなつたことから学科教員の授業改善の努力が反映された結果と捉えている。

分析結果を踏ました改善方策： 今年度は教員全員が遠隔授業によってレポート作成や小テストを課したことから「関連学習」の項目で昨年度に比べて値が高くなる傾向が見られた。また、【質問 13】意欲の高まりと【質問 14】学修の成果においては、理解する上で難易度が高い科目や化学系の科目の値が生物系の他の科目に比べて値が低くなる傾向が見られた。これは入試様式の違いによる学生の基礎学力の差が考えられるが、学生の学修意欲（モチベーション）の低下も原因としてあげられる。各教員が授業の内容や方法について改善策として「PDF、Powerpoint スライド、YouTube 等を用いた講義動画などの授業ツール」や「自分で調べて考える課題テストおよび予習・復習の課題テスト」を適切に取り入れながら学生の指導を行っていくことが必要である。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果については、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それぞれの科目について授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100% であった。

【8】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは Cerezo を利用して当該授業科目担当教員が行い、その詳細は提出された報告書に記載されている。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 予習を指示したことから、質問への積極性が見られたので今後も予習を指示し、質問に対して迅速に答えるようにしたい。
- (2) 学科の特質上、生き物を扱う場面が多いので、生き物の代謝や生理学につながる内容を特にピックアップして授業を作っていくたい。
- (3) ほとんどの学生は、勉強は教えてもらうものという意識でいるので自分で調べ、考えることができるような授業にするため、自分で調べたり考えたりする課題を課していく必要がある。
- (4) Cerezo によるアンケートやレポート機能を利用して、単に知識を問うだけでなく、自分で参考書などを調べて考えて答えるような課題を積極的に出したい。
- (5) 授業内容からさらに興味を持ち発展的な学習に結びつけるために、問題提起や研究例の紹介、文献資料や Web サイトの紹介等を盛り込んでいきたい。
- (6) 授業時間中に学生の意見を聞いてみたり、授業時間後に学生との交流時間を設けたりするなど、双

方向の対話を意識した授業を計画する。

(7) 遠隔授業の利点を生かして、対面授業と Cerezo による資料配信を上手に組み合わせることで、学生の関連学修時間の向上に努めたい。

(8) 今後対面授業に戻った際にも、授業終了後に今年度作成したテキストを Cerezo にアップするなど、両者の良さを組み合わせた授業を実施していく。

(9) 学生の興味を喚起できそうな海洋生物についての関連するエピソードを交えつつ講義を進めるよう工夫していく。

【10】 総 括

本学科の授業に関するアンケート結果においては昨年度、今年度と継続して改善がみられているが、今後も各授業の方法・内容に一層の工夫を加えていく努力を継続したい。

以上

⑯ 薬学部薬学科

令和 3 年 3 月 17 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

薬学部薬学科

学科長 町支 臣成

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、薬学科では前期 34 科目、後期 38 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

【質問 1】授業ツールは、①セレッソ等で配布された電子ファイル、②紙媒体の本や資料等、③YouTube 等を用いた講義動画、④Zoom 等による双方向性会議システムを用いた講義、⑤その他（記入）の順であった。授業ツールの適切性については、全体平均 4.36 に対して、薬学部は 4.29 と若干低かった。

分析結果を踏まえた改善方策：

授業担当教員に対して、学生からのアンケート結果やコメント等を踏まえて教員個々で授業改善に努めるように促していく予定である。

◇「課題の形式」について

点検結果の分析：

【質問 5】課題の形式は、①チェックリスト形式テスト、②レポート、③記述式テスト、④プレゼンテーション資料の提出、⑤その他（記入）の順であった。課題の形式の適切さについては、全体平均 4.39 に対して、薬学部は 4.35 と若干低かった。

分析結果を踏まえた改善方策：

授業担当教員に対して、学生からのアンケート結果やコメント等を踏まえて教員個々で授業改善に努めるように促していく予定である。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

【質問 10】は、全体平均 3.91 に対して、薬学部は 3.77 と若干低い状況であった。

分析結果を踏まえた改善方策：

授業担当教員に対して、学生からのアンケート結果やコメント等を踏まえて教員個々で授業改善に努めるように促していく予定である。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

後期授業評価では全学平均を 5 項目が上回っていた（授業準備：全学 4.59、薬学 4.62、話し方：全学 4.40、薬学 4.42、計画性：全学 4.62、薬学 4.72、授業時間：全学 4.60、薬学 4.63、質問への誠意：全学 4.49、薬学 4.54）。講義の工夫（全学 4.45、薬学 4.43）と授業への満足度（全学 4.29、薬学 4.28）の 2 項目については、全体平均を若干下回っていたが全体的にはすべてが 4 点以上のため問題ないと考える。これらの情報を教員にフィードバックし、さらなる授業改善を促していく予定である。

分析結果を踏まえた改善方策：

全体的にはすべてが 4 点以上のため問題ないと考えるが、今年度はコロナ禍ということもあり試行錯誤しながらのオンライン授業等であったためか、授業の満足度が全体平均よりわずかに低かった。次年度も、同形態の授業であれば、学生からのアンケート結果やコメント等を踏まえて教員個々で授業改善に

努めるように促していく予定である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

前期授業評価では、「【質問 9】この科目の遠隔授業について、あなたの学修への取り組みの度合いを自己評価してください。」学は、全学平均(4.17)に対し、薬学部は 4.21 であった。

後期授業評価では全学平均を上回る項目は 5 項目であった（関連学習：全学 2.42、薬学 2.75、集中力：全学 4.23、薬学 4.41、出席状況：全学 456、薬学 4.82、知識の深まり：全学 4.24、薬学 4.27、質問への積極性：全学 3.58、薬学 3.19、意欲の高まり：全学 4.05、薬学 4.09、学修の成果：全学 4.14、薬学 4.13）。後期は「質問への積極性」が低い傾向であった。

分析結果を踏まえた改善方策：

「質問への積極性」は、学生に対してオフィースアワーの周知徹底を図るなどすることで改善していく。 「学修の成果」は、「知識の深まり」「質問への積極性」「意欲の高まり」などをより一層高めることができるような授業をしていくべき改善するものと考えられる。よって、授業担当教員に対して、学生からのアンケート結果やコメント等を踏まえて教員個々で授業改善に努めるように促していく予定である。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対してフィードバックしている。対象科目担当教員には、それとともに授業アンケートの実施報告書の提出を求めた。

【8】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは、講義最終回、定期試験実施時、セレッソのいづれかにおいて実施した。 詳細は各教員が提出した報告書に記載している。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

特にありません。

【10】 総 括

薬学部では「質問への積極性」が低い傾向にあるものの、その他の項目は概ね全学平均よりも高い傾向に

あった。これは学生に対してオフィースアワーの周知徹底を図るなどすることで質問への積極性を高め学習の成果をさらに伸ばす努力を続ける必要がある。

以上

⑯ 大学教育センター

令和 3 年 3 月 25 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

大学教育センター

センター長 大塚 豊

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本センターの授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～7 月 8 日（水）

後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、大学教育センターでは、本学に勤務する大学教育センター関係の教員（非常勤講師を含む）が担当した全ての科目のうち、前期、後期とも各人 1 科目について、本学の学修支援システムであるセレッソを使って調査を行った。ちなみに、大学教育センター関係の調査実施授業科目に対する学生からの回答率は、前期の遠隔授業に関するアンケート 67.1%（昨年度前期は 70.5%）、後期 58.0%（昨年度後期は 55.0%）であり、全学の当該の数値である前期 58.0%、後期 52.1% より、それぞれ 9.1、5.9 ポイント高かった。しかし、大学教育センター関係の回答率は昨年度と同様に、前期より後期が下回った。後期にはアンケート実施期間中に年末年始の休みが入り、学生への周知が行き届かないという問題点があることが原因の一端と思われる。また、かつて紙媒体で 1 科目に限定してアンケートを実施していた時期に比べて、全体的に回答率が下がっているが、これは致し方ないとも言える。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。調査結果は情報管理者 2 名によって集計された。集計後、各回答に係数を乗じ全回答数で除することで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育開発部門から、大学教育センター長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

大学教育センター関係の授業を受講した 2,856 人のうちアンケートの回答した 1,916 人によれば、授業中に採用されたツールとして、最も多かったのは音声を伴わない「セレッソ等で配布された電子ファイル（Word 文書、PDF、PowerPoint スライド）」であり、全体の 43% であった。これに次いで「紙媒体の本や資料等（教科書、指定図書等）」と音声を伴った「YouTube 等を用いた講義動画（教員の講義を撮影した動画や PowerPoint 等によるスライド動画など）」がともに 24% であった。「Zoom 等による双方向性会議システムを用いた講義」は 5% に留まった。これらのツールの使用に関して、特定ツールに対する個別の感想ではなく全体としてではあるが、回答者全体の 57% が「適切である」と回答した。「ほぼ適切である」と回答した 28% を加えると、全体の 85% が適切であったと捉えている。

学生から寄せられた 1,000 件前後のコメントには、通常の対面授業にも通じることであるが、「説明が分かり易い」といったものの他に、「聞き逃したところを戻って理解できるまで聞ける」「何度も見返しができる」といった学生のペースや時間の都合に合わせた学習が可能になることを述べたコメントが目立った。とくにオンデマンド方式の遠隔授業の場合と考えられるし、双方向性会議システムを用いた講義も授業内容を保存しておいた場合の利用法であろうが、まさに遠隔授業のメリットそのものを示していると言える。

分析結果を踏まえた改善方策：

同時双方向型の遠隔授業は 5% と少数であった。一時に多数のアクセスが容量的に難しいという制約はあるものの、当該科目の特徴に合わせて、同時双方向型の授業がより適切な場合には、実施を積極的に支援して行きたい。また、来年度以降、利用時間制限が加わる Zoom の利用制約を取り除くために有償版の導入を図るとともに、本学の教職員・学生が無償で利用できる Office365 に含まれる Teams 活用の可能性を探ることが考えられる。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析：

大学教育センター関係で受講した科目の遠隔授業で出題された課題の形式に関しては、

「セレッソの小テスト等、複数の選択肢から回答を選んでチェックする形式のテスト」が全体の 39%と最も多かった。これに次いで「レポート」29%、「記述式テスト」23%となっており、PowerPoint スライド等、プレゼンテーション用資料の提出を含む「プレゼンテーション」が求められたケースは 1%に留まった。採用されたこれらの課題の形式に関して、特定ツールに対する個別の感想ではなく全体的な感想ではあるが、回答者全体の 63%が「適切である」と回答した。「ほぼ適切である」と回答した 25%を加えると、全体の 88%が適切であったと捉えている。

分析結果を踏まえた改善方策：

回答結果から見ると大学教育センター関係の教員が遠隔授業の際の課題出題の方式はおおむね妥当であり、大きく改めなければならない点はないと言える。しかし、授業の内容にもよるが、学生によるプレゼンテーションが求められることはごく限られていたことを踏まえ、アクティブラーニングの観点からは、この方式がより多く採り入れることについて検討されても良いように思われる。

◇「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

大学教育センター関係で受講した科目の遠隔授業で担当教員からのフィードバックやサポートがどの程度行われたかに関して、特定ツールに対する個別の感想ではなく全体としてではあるが、「十分にあつた」と回答したのは全体の 41%であり、「まあまああつた」と回答した 30%を加えると、71%が教員から相当のフィードバックやサポートがあったと感じている。一方、3.3%が「あまりなかつた」、2.9%が「まったくなかつた」と回答している。

分析結果を踏まえた改善方策：

遠隔授業の成否は、とくにオンデマンド方式の授業の場合、学生が授業内容に対して持った疑問や意見に対して、対面授業や同時双方向型の遠隔授業では即時に可能な教員からの回答や解説が適切に行われるかどうかにかかっているように思われる。この点から言えば、フィードバックやサポートがないことは受講生に不満やストレスを与える大きな原因の一つになると考えられる。今後、非常勤講師も含めて授業担当者に対して小まめで適切なフィードバックやサポートが行われるように求めて行きたい。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

アンケート調査の設問項目は、前期・後期ともに教員の授業の進め方への評価に関する 7 項目、学生自身の学修点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。なお、授業の計画

性を見る質問3では「シラバスを読んでいない」、学生からの質問に対する誠意ある態度を見る質問6では「質問したことがない」という選択肢をそれぞれ設けて6つの選択肢としている。これら2つの設問については「シラバスを読んでいない」、「質問したことがない」という2選択肢には係数を付与せず、教員の授業そのものの質をより正確に評価しうるように配慮がなされた。

点検結果の分析：

教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。大学教育センター関係教員のこれら7項目の後期の平均は4.46（昨年度の同期は4.56）であった。昨年度も同じ7項目の設問であり、両者を比較すると、今年度は平均値が0.1ポイント下がった。ちなみに、今年度後期の全学の平均値を見ると、前期4.49であり、大学教育センター関係教員は全学平均よりわずか0.03ポイントながら下回った。項目別では、総合的満足度を問う設問7の数値が4.26（昨年度は4.34）であり、わずか0.08ポイントながら低下という結果になった。項目別に見て、わずかに0.01ポイントながら全学平均より高いのは「質問への誠意」の4.50である。今年度後期は遠隔授業が多く、授業準備や実施のための設備などの条件の点で、専任教員に比べて非常勤講師にはより大きな負担を与えることになったことは否めない。非常勤講師に頼ることの多い全学共通教育を担当する大学教育センターの場合、こうしたハンディを負っている。しかしながら、そのような状況の中でも、学生からの質問に誠意を持って答えるという点で、大学教育センターの常勤ならび非常勤教員は総じて真摯に授業に取り組んできたとも考えられる。また、大学教育センターが主として担当する全学共通教育関係の科目には、体育、芸術分野の科目に代表されるように、実技系の科目が少なくない。コロナ禍のために、一時的に授業実施が不可能になり、大学内外のウイルス感染状況を見ながら、授業実施時期の調整を余儀なくされた剣道、陶芸などの科目もあり、ダンスや音楽のように担当教員の最大限の工夫により途切れることなく授業が実施された科目もあった。こうした困難にもかかわらず、実技系の科目に対する評点はおむね例年と変わらぬ水準を維持できた。担当教員の多大な工夫や尽力によるところが大きい。

◇分析結果を踏まえた改善方策：授業技術と講義内容に関する各項目（項目1～6）の平均得点は4.49ポイントであり、とくに計画性4.56、授業時間4.57、質問への誠意4.50と、4.5を超えており、一方、話し方は4.36であり、講義の工夫は4.42に留まった。昨年度後期の講義の工夫に関する評点は4.52であったから、0.1ポイントながら低下した。学生が自らの上達や学修の成果をすぐに体感しやすい語学や実技系の分野において、個人差はあるものの概ね高い評価を受けている。逆に、いわゆる座学の教養教育科目に属する諸科目では、評価はいくぶん低く留まる傾向が見られたのは例年どおりである。大学における教養教育の意義に対する学生の認識も関係していると考えられ、学科のオリエンテーションや教養ゼミなどの機会を捉えて、大学における教養教育の意義や位置づけについて、学生に周知することが望まれる。また、上述したとおり、他項目に比べて「質問への誠意」についての評価が相対的に低かった事実、

ならびにコロナ禍の下、遠隔授業が果たす役割が引き続き暫くは大きいと予想されることに鑑み、学生の理解度や質問に対して、普段以上にきめの細かい配慮を行うことが必要であろう。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：アンケート後半の7項目の全学の平均値である3.89に対して、大学教育センター関係の授業は3.88（昨年度は3.77）と昨年度より0.1ポイント上昇したものの、全学平均より0.01ポイントとごくわずかながら低かった。個別の項目について見ると、【質問12】の「質問への積極性：授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？」への回答が全学の3.58に対して大学教育センターは3.79と高い。【質問8】の1回の授業あたりの予習・復習に費やした平均時間は、全学の2.42に対して2.29と低い。但し、昨年度のこの項目に対する大学教育センター関係の評点は1.97であったから、遠隔授業が多かった中で学生が授業時間外の学習に費やす時間は否応なく増加したと言える。【質問14】の「学修の成果：この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください」への回答は、全学平均とまったく同じ4.14であった。毎年のことながら、これらの「学生の自己点検」に関する項目群に対する回答の解釈は容易ではない。学生の基礎学力や学修への姿勢が一定レベル以上（中位から上位）であれば、数値の信頼性は高いかもしれない。一方、下位レベルの学生が母集団に含まれ、知識、意欲・関心・態度の点でばらつきがあれば、少し分かっても「すごく学修した」となるケースも起るし、既存の知識レベルが高ければ、「知識や技能は深まっていない」といった回答になる傾向も推測しうる。教材の選択についても、易しくすれば、学修成果の評価が高くなることもあるし、逆に難易度を上げると、評価が低くなることも起こりうる。アンケート調査の結果分析に際して、予習・復習時間の長短、出席情況の善し悪しにより学生をグループ分けし、その「知識の深まり」「質問への積極性」「意欲の高まり」「学修の成果」との相関を見てみる必要がある。

◇分析結果を踏まえた改善方策：比較的少人数で、学生がもともと希望して入学した専門学部・学科が提供し、担当教員との親密度も高い状況下で履修する専門関連の諸教育科目に比べて、担当教員と受講生の関係が当該科目の授業時のみにほぼ限られ、一般的には希薄な共通教育科目担当者はハンディを負っているとも言える。しかしながら、既に述べたように、語学系科目や実技系科目を中心に評点のきわめて高い個別の教員や科目もある。学生が積極的に授業に取り組むように指導することは如何なる授業でも容易ではないが、学生が単に授業時間に教室で受け身的に授業を聴くのではないように指導する必要があることは言うまでもない。この点で、コロナ禍の下で否応なく採用を余儀なくされた遠隔授業の方式は、大学教育の景色を一変させたと言っても過言ではない。今年度初步的に蓄積した経験を教員間で共有し敷衍して、さらなる授業改善に役立てる必要があろう。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、非常勤講師を含む大学教育センター関係教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックした。非常勤講師の場合、大学のメールシステムへのアクセスが常勤者のように容易ではないことや、そもそもインターネットを使用しない非常勤講師も含まれることから、集計結果を適時、適切に各人の手許に届けること自体に大変な労力を要する。しかし、最終的には全ての教員に各自の授業評価の結果を知らせ、全員からフィードバック報告書が提出された。

【8】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回までに、あるいは定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行うこととした。これについても非常勤講師に関しては連絡などに手間取ることもあり、所定の期間内に学生へのフィードバックが困難なケースも生じ、フィードバックができなかつたと報告書に記載した非常勤講師も含まれた。また、そもそもすべての授業を遠隔で実施した科目もあり、この場合も含めて、多くの科目担当者がセレッソ上に掲載することで学生へのフィードバックを行った。このフィードバック結果に基づき、対象科目担当教員には授業アンケート実施報告書の提出を求めた。最終的に全ての大学教育センター関係の共通教育担当教員からフィードバック報告書が提出された。

【9】 大学教育センター関係教員からの意見・提案

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

（1）学修への動機づけ、意欲・関心の喚起について

- 毎回振り返りのアンケートを実施し、質問があれば回答していたが、機会を増やすだけでは十分でない可能性があると認識した。
- オンライン授業では、質問しやすいのか、対面よりも多くの質問があった。一方、学習に積極性をあまり感じられない学生や、前期のオンライン授業評価アンケートを踏まえて教員側からの積極的なコメント発信を行ったが、発信したコメントに反応が乏しい学生からは質問を受けることが多くはなかった。オンライン授業では、対面授業以上に、学生の学習態度や意欲が授業理解に影響を与える印象である。
- 成長実感を定期的に感じられるようなワークを取り入れたり、ICTをより積極的に取り入れることで、紙媒体では難しい効率的かつ効果的な学習手法を導入する。可能であれば、本項目で高い評価を得ている先生方の取り組みについて共有頂き、学ぶ機会を頂きたい。
- オンデマンド型授業のコンテンツを多年度にわたり対応できるよう、汎用性のある内容にしていきたい。また、学習成果物のeポートフォリオ化を進め、振り返りに活用できるような内容に改善し

ていきたい。

- 遠隔授業では各教員から出される課題が多くなる傾向が否めず、学生にとっては負担が増したことを考えられる。しかし、本来的に、授業に参加するには授業時間外の自学自習が不可欠であり、それが確実に行われるようになるには、やはり学生にとって興味・関心のある教材内容をもっと準備する以外にないと思われる。
- 履修者毎に利用できるネットワーク環境には大きな差異があり、Cerezo 上から送れる教材のファイルサイズにも制限があることから、教材を文書ファイルの形で提供することにしたが、ものたりない、わかりづらいと感じた人もいたのではないかと思われる。教材内容の見直し・更なる改善、音声や動画を活用した教材の作成にも取り組んでいきたい。
- 授業の教材説明において、受講生の理解度をもっと細かくチェックして、説明の中身、レヴェルを調整していくことが求められる。マスクを使う場合、教室の状況など、物理環境も加味して、学生と対話的に授業を展開していきたい。
- 講義の前半は教室で規定の時間で実施することができた。しかし、講義の後半は各回、学生の課題発表とした。発表方法は、教室での発表、またはオンラインによる動画提出の二者択一とした。大半の受講生は教室での発表を選択したため、接触時間を若干、短くした。次回からは今回のこと考慮し授業改善に努める。
- 学生に外国語の勉強の楽しさと達成感を感じさせ、それに学生の就職の際に役に立つ HSK 資格の受験をさらに勧めることを工夫していきたいと考えている。
- 現下の状況の中で、授業を運営しコースの目標を達成するには、学生がコースニュースやテスト・宿題についての知らせに気づくようにするなど、学修支援システム LMS に習熟し、効果的に使いこなせるように支援することが重要である。
- 英語は本来コミュニケーションのツールであるから、学生にグループワークを行わせることが大切である。
- 今回一度だけでしたが、受講生のレポートに添削して戻しました。その結果だと思いますが、多くの受講生が前より明らかに良いレポートを書いていました。添削作業は、決して容易な作業ではありませんが、はっきりと良い結果が出ているので、今後は論文・レポートの書き方を教授しつつ、レポートへの添削を積極的に行うつもりでいます。
- この科目が自分にとってどのような意味を持つのかを学生がつかみ切れていないことに理由があると思われる。
- 次回は資格取得により積極的に取り組むよう促すと共に今回の合格実績を伝えたいと思います。
- 個々の学生への対応に努めることが向上につながると考える。
- 課題制作だけでなく、作家の作品紹介なども含めた授業を行うことで、多様な美術表現に触れ、美術の分野に対する視野を広げる。近隣の美術館やギャラリーで開催される美術に関する展覧会を紹

介するなどして、日頃から関連学習に取り組むことを促す。

- 講義の内容を減らしても、授業をゆっくりと進めていくことを心がけたい。
- 教養としての日本史で得た知識を、社会を見つめる目やこれからの大学生活においてどのような学習に取り組むかの指針とできるように、つねにアンテナを張ることができるよう、身近な問題に積極的に取り組む機会を作ることができればと思います。
- 歴史を暗記科目と思っている学生がほとんどなので、その転換のために最近の研究成果を入れながら「歴史イメージはこう変わっている」と示しつつ、要点は絞って構成してきた。知的好奇心をかき立てるためにはそれがいいと思ってきたが、そもそも基礎的な説明から学生には難しいと思われているのかもしれない。要点をもっと絞ってできる限りシンプルな内容に整理して、学生が理解しやすいようにしていくことが肝要と思われる。まだ修行半ばである。
- しばらくは新型コロナウィルス感染拡大防止策によって従来のような歌唱を主とした授業は難しいと思われる所以、防止策に対応しつつも満足を得られる内容を常に模索していきたい。
- 自主的な学習を学生に意識づけるために、フランス語検定試験の就職での有効性、オリンピックではフランス語が公的に用いられる言語であることを学生により強く意識してもらえる講義内容にすることで、彼らの学習意欲をさらに向上させることができると考えます。フランス語と英語の比較を分かりやすく講義に取り入れることで、学生の語学への理解度を高め、質問への積極性を取り戻すと共に、関連学習（英語やヨーロッパの言語、西欧文化や文学、歴史、経済）に対する取り組みにもつながるよう、講義をより良いものにしていきたいと思います。
- やむを得ない状況下での遠隔授業であったが、遠隔授業実施下では学習への取り組みが二極化することが多く報告されている。全体を目標達成に至らせるにはやはり十分な準備のもとに対面授業実施が望ましいと考える。
- 途中からオンライン授業へ変更になったこともあり、授業計画を変更することがあったため、初めからある程度の授業の方向性を示しながら、学生の要望や反応に応じて変更する部分を前もって決めながら柔軟に授業を進めていきたいと計画している。
- 今年度はコロナ禍で、従来通りに進められない部分が多々あった。感染状況などを踏まえ、年明けには課題の提出と授業への参加を双方で参加を出席と認めるルールとしたところ、対面での授業参加者は受講者の2割程度であった。多くの学生が感染に対して警戒していることを考えると、状況によっては、対面と課題提出を組み合わせるなどの工夫が、引き続き必要だと思われる。

（2）きめ細かな丁寧な指導について

- 質問を出しやすくするため、学習進捗を確かめる質問を考え、また教員からのフィードバックの機会を増やすことを考える。
- 前期の授業アンケート等を踏まえて、オンライン授業の取り組み方へのより詳しい説明、課題の提

出期限や方法及び成績評価方法などについて改善を行ったが、授業前のオンライン授業の取り組み方の説明やノート提出方法等についての新たな改善点の発見があった。他教員との情報交換やセレッソ操作の学習を行って、来年度の授業改善に生かしたい。

- アンケートを行ったクラスはそれほど受講者が多くないが、他のクラスを含めると受講者が多く、受講者が多いと対面以上に目が届きにくいが、できるだけ多くの学生と双方向の授業を行って、学生の自己学習時間確保に努めたい。
- (遠隔授業の準備では) 録音する際に、受講生に聞き取りやすい、より明瞭な発音を心がけること。
- Cerezo 上から授業時に教材等を開示するのに際して、開示時間の設定ミスに気付かず、小テストや質問用スレッドの公開が授業開始時間より數十分程度遅れてしまったことが一・二回あった。このことが、「授業時間」の評価にも反映されているものと考える。以降は、授業開始時間直前にコースニュース、教材、小テスト等のネット公開時間を再チェックするようにしている。
- 福山大学の学生に対して、1) 英語学力そのものの向上（私の場合特に読解力）、2) こつこつやつていけば必ずや学修効果があるのだという学修態度の向上、3) 授業に出席・参加するという忍耐力の向上、を念頭に授業を行ってきた。私の場合 Intermediate のクラスを担当し、1) を 7 割、2) 2 割、3) を 1 割の感じで行ってきた。勿論 1) では、英語という言葉を一つ増やせば、思考が一つ広がるのだということを大事に指導してきた。英語を通して、会話力のみならず、考える力を広げていく、というヴィジョンを持って英語を教えることがグローバル化した社会の中でますます重要になると考えられる。
- 授業での学びや達成感を感じられるような、授業展開を行うように取り組んでいく。
- 今回、まったく出会ったことがない教員と学生とが、最初から最後まで出会いがなくお互いの人柄などを知ることがなく、また未知のシステムを用いて実施したことで、学生さんに「質問したいが、できない」などの、多くのためらいなどがあったと推測される。講義のなかで、オフサイト・オンラインサイトを問わず、リアルタイムでやり取りするなどがあるとよいかと考えている。
- 対面では質問に来にくい学生も、セレッソ上では気軽に質問できる面もあるように見える。来年度もセレッソを活用し、対面・遠隔それぞれの長所を活かした授業にして行きたい。
- 関連学習の時間を十分に確保することが必要である。現在でも、授業前の予習用として学習ハンドアウトを提供しているが、これを課題として予め提出させるなどして、関連学習がなされているかどうかを可視化するなどが、方法として考えられる。
- 質問をする学生は特定化していくため、（それは対面授業でも同じことだが）もう少し学生にとって質問をしやすい環境の模索を考慮したい。

(3) 施設・設備や教授陣について

- 以前、体育施設や道具が十分な状況をお伝えしたところ、改善を図って頂き、環境がよりよくなつ

てきている。

(4) アンケートの内容・方法について

- 学生がアンケートの締切期日や大学で決めたガイドラインを尊重する気持ちを持つようになるとが大切である。

【10】 総 括

全学共通教育を担当する大学教育センターは、専任教員の他に多数の非常勤講師による授業を提供しており、授業評価アンケートの実施では、とくに後者との連絡調整、フィードバック報告書の回収など手間暇のかかる課題が少なくない。にもかかわらず、今回のアンケート調査では、前期の遠隔授業アンケート、後期の授業評価アンケートのいずれも、非常勤を含む対象となった全教員について、滞りなく実施することができ、授業の実態把握と学生の学修状況に関して一定の貴重な情報が得られた。結果として、各教員はそれぞれ担当科目の授業に真摯に取り組んでおり、例年どおり良好なレベルが保持されていることが分かった。全体として、大学教育センター関係者のアンケートへの回答率は前期の遠隔授業アンケートは 67.1%（昨年度前期に実施の授業評価アンケートは 70.5%）、後期の授業評価アンケート 58.0%（昨年度は 55.0%）と、全学の回答率である前記 58.0%、後期 52.1%に比べて、いずれも高い数値であった。冒頭にも述べたとおり、後期の回答率が今年度も昨年度同様に低かった。全体として、学生の間にアンケート疲れの傾向があるのではと懸念される。また、スマホからのアクセスによる回答で紙媒体に比べて容易になったことが、却ってアンケートに取り組む真剣さを欠き、形式的な授業評価になっていないか気になるところである。今年度はとくにコロナ禍の中ですべて遠隔で行われた授業も少なくなかつたが、授業時間中にアンケートを実施し、教員が学生に対して回答を促すなどの方法が採られることが望ましいと思われる。

以上

⑯ 共同利用センター

令和 3 年 3 月 2 日

大学教育センター

大塚 豊 センター長 殿

共同利用センター

センター長 鶴崎 健一

令和 2 年度「遠隔授業アンケート（前期）」「学生による授業評価アンケート（後期）」の集計結果を踏まえ、本センターの授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：令和 2 年 6 月 24 日（木）～令和 2 年 7 月 8 日（水）
後期：令和 2 年 12 月 14 日（月）～令和 3 年 1 月 16 日（土）

【2】 対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、共同利用センターでは前期 2 科目（8 時間分）、後期 2 科目（2 時間分）について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

前期のアンケート調査は遠隔授業に特化した内容とした。授業ツール、課題の形式、教員からのフィードバックについて学生の意見を調査した。後期のアンケート調査は従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

アンケート調査および集計は学修支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】 調査結果に対する点検（前期「遠隔授業アンケート」）

◇ 「授業ツール」について

点検結果の分析：

共同利用センター教員は、「紙媒体の本や資料等（教科書、指定図書等）」および「セレッソ等で配布された電子ファイル（Word 文書、PDF、PowerPoint スライド（音声なし）等）」を利用して遠隔授業を行った。共同利用センター教員の「授業ツール」に対する学生からの評価は 4.46 ポイントで比較的

高い値であった。自由記述を見ると、良い点として、「繰り返し資料を確認できる」、「資料が分かりやすく工夫されている」などが挙げられていた。一方、改善点として、「文字や資料が多すぎる場合がある」、「要点が分かり難い時がある」、「動画を使って欲しい部分があった」といった意見があった。

分析結果を踏まえた改善方策：

全体的に満足度が高いので、大きな改善の必要はないと思うが、受講生によっては内容を消化しきれないようなので、より簡潔で分かりやすい資料の作成を心がける。また、内容によっては動画を利用する考えたい。

◇ 「課題の形式」について

点検結果の分析：

共同利用センター教員は、「チェックリスト形式テスト」、「記述式テスト」および「レポート課題」を利用した。共同利用センター教員の「課題の形式」に対する学生からの評価は 4.39 ポイントで全学平均と同じであった。低い評価となったのは情報処理科目であるが、この科目は実際に PC を操作しながら行なうことが望まれる科目であるため、受講生が必ずしも PC を持っていない状況での実施となつたことで、対応が難しかったと思われる。一方で、「自分で理解度を図ることができ良かった」との感想も多くあり、課題内容としては適切であったと考えられる。他の科目においても、「課題に回答することで重要な点を確認することができる」といったメリットを挙げた受講生が多かった。

分析結果を踏まえた改善方策：

情報処理科目については、PC の準備がほぼ揃う状況にあるので、アンケート結果からも基本的に変更する必要はないと思われる。全般的にも大きな改善を要する項目はないと考えられるが、次年度に向け分かりにくい問題がないかなど再確認をしたい。

◇ 「教員からのフィードバック」について

点検結果の分析：

共同利用センター教員は、「チェックリスト形式テスト」、「記述式テスト」および「レポート課題」を利用した。共同利用センター教員の「教員からのフィードバック」に対する学生からの評価は 3.87 ポイントで全学平均よりやや低い値であった。自由記述に「質問しやすいしくみ」、「課題など全体で間違いの多かった所を解説して欲しい」という回答があった一方、「十分なサポートがあった。」、「資料の最後などにちょっとしたコメントなどがあったので、頑張ろうという気になってやれた。」といった回答もあった。

分析結果を踏まえた改善方策：

大きな改善が必要と思われる記述などはなかったので、現状を維持しながら、質問しやすくなるような工夫や丁寧に質問へ回答することを心がけたい。

【6】 調査結果に対する点検（後期「授業評価アンケート」）

◇「授業評価アンケート」について

点検結果の分析：

今回のアンケートでは、共同利用センターにおいては対象教員が2名であり、1名の科目は対象者6名のうち3名の回答となったので、もう1名の科目（対象者190名、回答者124名）の評価が強く影響することになった。その結果、「授業の計画性」、「授業時間」が全学平均よりも下回る評価であった。

「授業の計画性」においては、シラバス通りの内容で実施したのだが、数名が非常に低い評価をしていた。「授業時間」については、PDFファイルを配布するオンデマンド形式の遠隔授業のため受講生によってその資料を消化する時間が異なったことが影響していると思われる。それ以外の項目については、全学平均よりも高い結果となった。

分析結果を踏まえた改善方策：

特に大きな改善の必要はないと思うが、「授業時間」に関しては、今回の授業形式においては受講生によってかなりの長短の差があると思われる所以、次年度も遠隔授業での実施であれば動画や音声を利用するなど時間をある程度把握できる工夫を行いたい。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

「関連学習」が全学平均よりも若干下回ったが、それ以外の項目においては全学平均を上回る結果であった。遠隔授業ではあったが、学生の意欲を削ぐことがない資料を提供することができた結果と思われる。

分析結果を踏まえた改善方策：

「関連学習」については昨年度に比べると増加しているのだが、対象科目が共通基礎科目と教養科目であり、専門科目と比較すると受講生にとっての優先順位が高くなっていることが学修時間の短さに影響していると思われる所以、今まで以上に課題の提示内容について工夫を行いたい。

【7】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果を各教員個別にフィードバックした。

【8】 学生へのフィードバックについて

Cerezo のグラフデータを利用して、各教員が Cerezo を利用してフィードバックした。

【9】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 今回のアンケート結果にはないが、授業での感想に動画や音声で説明を聞きたいとの要望があつた。来年度の授業もオンラインで実施しなければならないような状況であれば、今回の授業資料に音声を付加するなどの工夫を考えたい。
- (2) 関連学習の時間が昨年までよりも多くなったとはいえ、全学平均よりは少ない。授業の性質上、生活に密着した内容をもっと取り入れることと、荷重負担にならない範囲で、課題などの工夫を考えたい。

【10】 総 括

共同利用センターは、センター独自の授業科目を開講しておらず共通教育科目や学科の専門科目の一部を担当している。また、授業内容が教員間で大きく異なるため、本センター全体としての評価は難しい。特に今年度においては、遠隔授業を中心として行うことになり、授業の質を保つことに腐心しながら手探りの状態で授業を実施したためより評価が難しい。しかしながら、多くの項目で全学平均を上回る評価を学生から得ることができた。この結果に慢心することなく、今後も、FDなどを通じて教員としての資質を高める努力を続けたい。

以上

2-7. 令和2年度（後期）授業評価アンケート実施科目一覧

	学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
1	経済学部	経済学科	石丸 敬二		プログラミング応用	E06CMS2200	木	3時限	12
2	経済学部	経済学科	北浦 孝		保健体育科教育法IV	QC7TTC3780	月	2時限	8
3	経済学部	経済学科	高羅 ひとみ		財政学	EE6GME2201	水	2時限	74
4	経済学部	経済学科	櫻木 規美子		スポーツ統計学	EE6SPM3151	水	1時限	79
5	経済学部	経済学科	佐藤 彰三		地方財政論	EE6GME2700	木	1時限	148
6	経済学部	経済学科	田中 征史		マクロ経済政策	EE6GME3321	水	2時限	195
7	経済学部	経済学科	中村 和裕		生涯スポーツ論	EE6SPM2250	火	1時限	55
8	経済学部	経済学科	野田 光太郎		スポーツマーケティング論	EE6SPM3201	水	1時限	26
9	経済学部	経済学科	早川 達二		日本経済論（平成期）	EE6GME3251	木	4時限	209
10	経済学部	経済学科	平田 宏二		現代社会と経済	G03SSL1300	木	3時限	241
11	経済学部	経済学科	藤本 倫史		スポーツ経済学II	EE6SPM2151	火	3時限	83
12	経済学部	経済学科	三川 敦		経済数学	E05MBS1454	月	2時限	44
13	経済学部	経済学科	吉田 卓史		スポーツ理論II	EE6SPM1250	金	4時限	72
14	経済学部	経済学科	李 森		労働経済論II	EE6GME2600	月	4時限	187
15	経済学部	経済学科	王 佳子		民法II	E06CMS2300	水	4時限	48
16	経済学部	経済学科	岡本 隼輔		環境経済学	EE6GME3361	水	4時限	129
17	経済学部	経済学科	岡本 昌規		体育実技V（球技）	EE6SPM2620	水	4時限	25
18	経済学部	経済学科	高阪 勇毅		金融論	EE6GME2401	水	2時限	235
19	経済学部	経済学科	野村證券		資本市場論	EE6GME2451	水	2時限	249
20	経済学部	経済学科	蓮尾 陽平		社会・公民科教育法	QC7TTC3420	木	1時限	14
21	経済学部	経済学科	畠本 佳恵		情報処理技法	E05MBS1304	火	3時限	52
22	経済学部	国際経済学科	足立 浩一		マーケティング論II	EA6ABA2251	水	2時限	82
23	経済学部	国際経済学科	尾田 温俊		EU経済論II	E16IEC3402	火	2時限	23
24	経済学部	国際経済学科	佐野 穂先		国際貿易論	E16IEC3251	木	2時限	36
25	経済学部	国際経済学科	鍋島 正次郎		中南米経済論	E16IEC3551	木	3時限	11
26	経済学部	国際経済学科	春名 章二		産業組織論	EE6GME3641	水	5時限	139
27	経済学部	国際経済学科	Bisset Ian James		英語で学ぶ国際貿易	E16IEC2800	火	4時限	38
28	経済学部	国際経済学科	富士 彰夫		アメリカ経済論II	E16IEC2211	月	3時限	111
29	経済学部	国際経済学科	藤本 浩由		マクロ経済学	E05MBS1154	火	2時限	88
30	経済学部	国際経済学科	劉 曜麗		中国経済論II	EE6IEC2351	木	4時限	26
31	経済学部	国際経済学科	平山 亮		アジア直接投資論II	E16IEC3651	月	3時限	19
32	経済学部	国際経済学科	向井 洋		金融から見える世界II	EE6IEC2451	金	5時限	81
33	経済学部	税務会計学科	大城 朝子		経営学II	EE6ACM2151	金	2時限	248
34	経済学部	税務会計学科	許 霽		基礎簿記II	E05MBS1253	水	1時限	123
35	経済学部	税務会計学科	小林 正和		販売管理論II	EA6ABA2550	火	3時限	123
36	経済学部	税務会計学科	白木 康晴		税法概論II	EA6ABA2791	木	3時限	51
37	経済学部	税務会計学科	閔下 弘樹		原価計算論II	EA6ABA2731	水	3時限	91
38	経済学部	税務会計学科	張 楓		備後経済論I	EA6ABA2881	火	4時限	59
39	経済学部	税務会計学科	長濱 照美		基礎簿記II	E05MBS1256	火	4時限	100
40	経済学部	税務会計学科	堀田 彩		経営入門	EE5MBS1150	木	3時限	80
41	経済学部	税務会計学科	池下 泰宏		税務会計II	EA6ABA3751	水	2時限	31
42	経済学部	税務会計学科	津守 貴之		ロジスティックス	EA6ABA3100	金	4時限	6
43	人間文化学部	人間文化学科	青木 美保		日本近現代文学研究2	HA6LIT2190	木	5時限	21
44	人間文化学部	人間文化学科	小原 友行		自然地理探求	HA5BDS1700	金	4時限	39
45	人間文化学部	人間文化学科	重迫 隆司		日英比較文化2	HA6ETH2430	水	1時限	40
46	人間文化学部	人間文化学科	清水 洋子		中国語（II）	G02CHI1151	水	1時限	41
47	人間文化学部	人間文化学科	原 千史		ドイツ語（II）	G02GER1153	月	2時限	47
48	人間文化学部	人間文化学科	村上 亮		ヨーロッパの歴史と文化2	HA6HIC2250	木	1時限	42
49	人間文化学部	人間文化学科	柳川 真由美		日本近世の政治と文化2	HA6HIC3250	金	4時限	29
50	人間文化学部	人間文化学科	脇 忠幸		日本語学概論2	HA6ETH2130	金	3時限	42
51	人間文化学部	人間文化学科	新本 万里子		日本民俗論	G03HIC1700	水	5時限	65
52	人間文化学部	人間文化学科	市瀬 信子		中国近世文化研究2	HA6LIT3280	木	3時限/4時限	15
53	人間文化学部	人間文化学科	佐藤 昭嗣		日本古代の社会と文化1	HA6HIC3160	火	3時限	22
54	人間文化学部	人間文化学科	佐藤 和博		文化企画実習II	HA6RPE2100	月	2時限	60
55	人間文化学部	人間文化学科	竹村 信治		日本の中世文学2	HA6LIT3440	金	2時限	30

56	人間文化学部	人間文化学科	田野 慎二		日本王朝文学研究 2	HA6LIT2130	金	1時限	17
57	人間文化学部	人間文化学科	三井 麻央		ヨーロッパ美術史 2	HA6HIC2310	金	5時限	27
58	人間文化学部	人間文化学科	山崎 桂子		日本文化入門	HA5BDS1200	水	2時限	43
59	人間文化学部	心理学科	赤澤 淳子		発達心理学専門ゼミ	HP6MAS4500	月	3時限	7
60	人間文化学部	心理学科	赤澤 淳子		発達心理学課題実習	HP6SNS3340	金	4時限	6
61	人間文化学部	心理学科	枝廣 和憲		教育・学校心理学	HP6ADS2100	水	4時限	143
62	人間文化学部	心理学科	金平 希		地域とボランティア	H05BFS1301	水	1時限	71
63	人間文化学部	心理学科	日下部 典子		心理学の支援法	HP6CRS2400	金	1時限	77
64	人間文化学部	心理学科	武田 知也		学習・言語心理学	HP6CRS2450	木	2時限	70
65	人間文化学部	心理学科	中野 美奈		心理演習	HP6PRS3250	水	4時限	12
66	人間文化学部	心理学科	平 伸二		司法・犯罪心理学	HP6ADS2150	金	2時限	66
67	人間文化学部	心理学科	福留 広大		社会・集団・家族心理学	HP6CRS2300	月	1時限	71
68	人間文化学部	心理学科	宮崎 由樹		産業・組織心理学	HP6CRS3400	火	3時限	59
69	人間文化学部	心理学科	山崎 理央		感情・人格心理学	HP6CRS2500	木	3時限	70
70	人間文化学部	メディア・映像学科	内垣戸 貴之		e ラーニング論	HM6FSU2300	月	3時限	26
71	人間文化学部	メディア・映像学科	田中 始男		基礎演習	HM6IPS1100	水	3時限	39
72	人間文化学部	メディア・映像学科	筒本 和広		情報処理応用	H05BFS1353	木	4時限	41
73	人間文化学部	メディア・映像学科	中嶋 健明		映画論	HM6FSU2200	金	3時限	47
74	人間文化学部	メディア・映像学科	丸山 友美		映像文化入門	HM5BDS1250	水	2時限	55
75	人間文化学部	メディア・映像学科	安田 晓		アニメ論	HM6EPS2250	木	2時限	43
76	人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 浩司		情報ネットワーク	TI6NET1100	木	3時限	107
77	人間文化学部	メディア・映像学科	村上 博郁		地域メディア論	HM6RAS3250	金	1時限	10
78	人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 敏恵		アナウンス	HM6EPS1100	金	2時限	35
79	工学部	スマートシステム学科	沖 俊任		メカトロニクス	TA6CSE3250	月	1時限	9
80	工学部	スマートシステム学科	香川 直己		回路理論 I	TA6COM1160	火	1時限	32
81	工学部	スマートシステム学科	伍賀 正典		プログラミング基礎	TA6COM1250	金	2時限	28
82	工学部	スマートシステム学科	菅原 聰		電気磁気学 I	TA6COM1150	月	2時限	36
83	工学部	スマートシステム学科	関田 隆一		リスクコミュニケーション	T06SSE3350	金	1時限	52
84	工学部	スマートシステム学科	田中 聰		電気通信事業法・電波法	TA6EEC3400	水	2時限	12
85	工学部	スマートシステム学科	仲嶋 一		半導体工学	TA6EEC2400	火	3時限	12
86	工学部	スマートシステム学科	三谷 康夫		電子制御 I	TA6CSE2200	火	2時限	18
87	工学部	スマートシステム学科	宮内 克之		地域防災応用	G03RST1300	月	2時限	173
88	工学部	建築学科	伊澤 康一		建築環境工学 II	TK6COM2700	金	2時限	93
89	工学部	建築学科	梅國 章		建築構造 I	TK6FUA2550	水	2時限	88
90	工学部	建築学科	大島 秀明		建築計画 II	TK6COM2300	水	2時限	82
91	工学部	建築学科	酒井 要		建築デジタルデザイン I	TK5FUS1210	火	1時限	76
92	工学部	建築学科	佐々木 伸子		建築仕上げ材料	TK6FUA2650	月	1時限	90
93	工学部	建築学科	佐藤 圭一		西洋・近代建築史	TK6COM2650	水	2時限	75
94	工学部	建築学科	田辺 和康		環境工学	T06SSE2250	水	1時限	51
95	工学部	建築学科	都祭 弘幸		不静定力学	TK6COM2750	水	1時限	69
96	工学部	建築学科	藤原 美樹		福祉住環境	TK6QEC1101	火	1時限	82
97	工学部	建築学科	宮地 功		建築デザイン論	TK6ARC3450	木	2時限	69
98	工学部	建築学科	山田 明		静定力学 I	TK6FUA1350	月	2時限	121
99	工学部	建築学科	秋岡 昌彦		造形基礎	TK5FUS1310	火	1時限	76
100	工学部	建築学科	岡本 康生		建築設計演習 IV	TK6ARC3410	水	2時限	49
101	工学部	建築学科	後藤 亜貴		生活デザイン演習 IV	TK6LED3150	木	2時限	8
102	工学部	建築学科	武村 秀志		建築施工	TK6COM3660	水	2時限	80
103	工学部	情報工学科	池岡 宏		プログラミング入門	TI6SOF1100	木	3時限	60
104	工学部	情報工学科	尾関 孝史		オペレーティングシステム	TI6SOF2200	木	3時限	58
105	工学部	情報工学科	金子 邦彦		データベースシステム	TI6SOF2250	木	3時限	57
106	工学部	情報工学科	新谷 敏朗		情報化社会と職業	TI6COM3150	金	2時限	61
107	工学部	情報工学科	中道 上		ソフトウェア工学	TI6SOF2300	他	その他	58
108	工学部	情報工学科	宮崎 光二		実用ネットワーク管理	TI6NET3150	金	1時限	45
109	工学部	情報工学科	森田 翔太		情報処理技術 I	TI6COM2100	水	1時限	73
110	工学部	情報工学科	山之上 卓		暗号とセキュリティ	TI6NET3200	火	1時限	45

111	工学部	機械システム工学科	内田 博志		カーエレクトロニクス	TG6AME3300	月	3時限	13
112	工学部	機械システム工学科	加藤 昌彦		強度設計学	TG6MSA2600	木	2時限	27
113	工学部	機械システム工学科	木村 純壯		工業数学Ⅰ	TG5FUS1550	他	その他	36
114	工学部	機械システム工学科	小林 正明		交通マネジメント	TG6SSE2350	火	1時限	87
115	工学部	機械システム工学科	坂口 勝次		CAD/CAMシステム	TG6MSB2150	火	2時限	21
116	工学部	機械システム工学科	閔根 康史		物理学Ⅱ	TG5FUS1251	他	その他	59
117	工学部	機械システム工学科	中東 潤		機械材料学	TG6MSA1250	火	1時限	43
118	工学部	機械システム工学科	真鍋 圭司		材料力学Ⅱ	TG6MSA2350	木	2時限	23
119	工学部	機械システム工学科	山田 宏		バイオデザイン	TG6MSB3250	金	2時限	20
120	工学部	機械システム工学科	土井 康明		流体機械システム	TG6MSA2700	木	2時限	21
121	生命工学部	生物工学科	岩本 博行		食品の消費と流通	LM6MFS3251	他	その他	47
122	生命工学部	生物工学科	太田 雅也		生物有機化学	LB5BCH1700	月	1時限	42
123	生命工学部	生物工学科	佐藤 淳		保全生物学	LB6BII2850	木	4時限	32
124	生命工学部	生物工学科	秦野 琢之		バイオ英語Ⅰ	LB5ELS3950	月	2時限	45
125	生命工学部	生物工学科	原口 博行		植物機能利用学	LB6ABI3500	月	2時限	40
126	生命工学部	生物工学科	久富 泰資		基礎微生物学	LB6BII1200	火	2時限	41
127	生命工学部	生物工学科	広岡 和丈		環境微生物学	LB6ABI2200	月	1時限	34
128	生命工学部	生物工学科	松崎 浩明		遺伝子工学	LB6BII2150	他	その他	31
129	生命工学部	生物工学科	山口 泰典		発生生物学	LB6BII2440	木	2時限	32
130	生命工学部	生物工学科	山本 覚		酵素利用工学	LB6ABI3700	月	5時限	40
131	生命工学部	生物工学科	吉崎 隆之		醸酵生産・醸造学	LB6ABI2300	木	5時限	39
132	生命工学部	生物工学科	磯崎 哲夫		理科教育法	QC7TTC3810	水	2時限	12
133	生命工学部	生命栄養科学科	石井 香代子		調理学	LN5FOH1200	金	4時限	32
134	生命工学部	生命栄養科学科	井ノ内 直良		食品材料学	LN5FOH1150	水	3時限	36
135	生命工学部	生命栄養科学科	菊田 安至		公衆衛生学	LN5LIS2300	金	3時限	45
136	生命工学部	生命栄養科学科	久保田 みどり		栄養カウンセリング論	LN6NUE3150	木	3時限	23
137	生命工学部	生命栄養科学科	田中 信一郎		解剖生理学Ⅰ	LN5BMD1250	火	4時限	33
138	生命工学部	生命栄養科学科	中崎 千尋		公衆栄養学	LN6PHN2100	火	5時限	42
139	生命工学部	生命栄養科学科	西 彰子		栄養教育論Ⅰ	LN6NUE2300	木	2時限	42
140	生命工学部	生命栄養科学科	村上 泰子		臨床栄養学Ⅰ	LN6CLN2400	火	3時限	44
141	生命工学部	生命栄養科学科	山本 英二		食品の調製と評価	LN5FOH2100	月	3時限	43
142	生命工学部	生命栄養科学科	吉田 純子		環境・スポーツ栄養学	LN6APN2200	木	2時限	43
143	生命工学部	海洋生物科学科	有瀧 真人		魚類の飼料と栄養	LM6RUD3201	水	4時限	87
144	生命工学部	海洋生物科学科	伊丹 利明		魚病学概論	LM6MCS2550	月	3時限	111
145	生命工学部	海洋生物科学科	金子 健司		魚類の行動と生理	LM6MCS2500	火	4時限	113
146	生命工学部	海洋生物科学科	我如古 莉月		化学Ⅱ	LM5CHE1152	火	2時限	62
147	生命工学部	海洋生物科学科	北口 博隆		海洋環境科学	LM6MCS2600	火	4時限	112
148	生命工学部	海洋生物科学科	倉掛 昌裕		食品の安全管理	LM6MFS3301	火	2時限	127
149	生命工学部	海洋生物科学科	阪本 慶司		遺伝学	LM6MCS2100	木	4時限	111
150	生命工学部	海洋生物科学科	真田 誠至		水族館論	LM6AQS3251	火	3時限	46
151	生命工学部	海洋生物科学科	高村 克美		海洋動物分類学	LM6MCS1200	金	3時限	127
152	生命工学部	海洋生物科学科	水上 雅晴		生理学	LM5BIO1200	金	2時限	125
153	生命工学部	海洋生物科学科	満谷 淳		海洋生態学	LM6MCS1150	火	4時限	136
154	生命工学部	海洋生物科学科	三輪 泰彦		水産食品の科学	LM6MCS2650	火	2時限	132
155	生命工学部	海洋生物科学科	山岸 幸正		生物多様性とその保全	LM6FIE3301	金	2時限	102
156	薬学部	薬学科	赤崎 健司		生活環境と健康	PP6HLS2100	月	4時限	106
157	薬学部	薬学科	石津 隆		有機化学Ⅱ	PP6CHE2200	木	2時限	107
158	薬学部	薬学科	井上 敦子		血液・造血器系疾患の薬・病態・治療	PP6CLP2260	月	4時限	113
159	薬学部	薬学科	井上 裕文		応用分析科学	PP6PHY3200	金	3時限	120
160	薬学部	薬学科	大西 正俊		血液・造血器系疾患の薬・病態・治療	PP6CLP2260	金	3時限	113
161	薬学部	薬学科	岡村 信幸		漢方薬物治療	PP6CLP1140	火	4時限	107
162	薬学部	薬学科	小川 祥二郎		分析技術の臨床応用	PP6PHY2300	金	2時限	108
163	薬学部	薬学科	片山 博和		製剤とD S	PP6CLP3420	水	2時限	122
164	薬学部	薬学科	小嶋 英二朗		臨床検査	PP6CLP2300	木	3時限	107
165	薬学部	薬学科	五郎丸 剛		事前学習	PP6PET4251	木	2時限	132

166	薬学部	薬学科	今 重之		免疫と疾患	PP6BIO3250	火	2時限	119
167	薬学部	薬学科	坂根 洋		生命体の基本単位としての細胞	PP6BIO1200	水	4時限	110
168	薬学部	薬学科	佐藤 英治		調剤	PP6CLP3340	金	1時限	122
169	薬学部	薬学科	佐藤 雄己		製剤の性質	PP6CLP3380	木	2時限	122
170	薬学部	薬学科	猿橋 裕子		薬剤師を取り巻く法規	PP6LAS3100	火	2時限	121
171	薬学部	薬学科	猿橋 裕子		地域薬局	PP6CLP4380	火	4時限	130
172	薬学部	薬学科	重永 章		生体分子の構造と化学的性質	PP6CHE3200	木	2時限	124
173	薬学部	薬学科	柴田 紗知		免疫と疾患	PP6BIO3250	火	4時限	119
174	薬学部	薬学科	杉原 成美		食品衛生	PP6HLS3151	火	4時限	124
175	薬学部	薬学科	高山 健人		病原体としての微生物	PP6BIO1250	木	2時限	105
176	薬学部	薬学科	竹田 修三		食品衛生	PP6HLS3151	金	4時限	124
177	薬学部	薬学科	田中 哲郎		薬物動態解析	PP6CLP3300	火	3時限	120
178	薬学部	薬学科	田村 豊		末梢神経系に作用する薬	PP6CLP2180	火	3時限	116
179	薬学部	薬学科	町支 臣成		基礎有機化学 II	PP6CHE1150	木	1時限	109
180	薬学部	薬学科	中村 徹也		薬学の基礎としての数学 B	PP5MBS1220	月	2時限	16
181	薬学部	薬学科	長崎 信浩		調剤	PP6CLP3340	木	5時限	122
182	薬学部	薬学科	西山 卓志		化学の基礎	G03NAS1700	木	2時限	14
183	薬学部	薬学科	秦 季之		物質のエネルギー	PP6PHY1100	金	2時限	104
184	薬学部	薬学科	稗田 雄三		化学の基礎	G03NAS1700	木	2時限	14
185	薬学部	薬学科	広瀬 雅一		地域薬局	PP6CLP4380	他	その他	130
186	薬学部	薬学科	藤岡 晴人		基礎有機化学 II	PP6CHE1150	月	1時限	109
187	薬学部	薬学科	前原 昭次		天然物化学	PP6CHE2250	木	4時限	107
188	薬学部	薬学科	松岡 浩史		生命情報を担う遺伝子	PP6BIO1300	月	2時限	108
189	薬学部	薬学科	道原 明宏		生命情報を担う遺伝子	PP6BIO1300	月	2時限	108
190	薬学部	薬学科	本屋敷 敏雄		物質の構造と放射線	PP6PHY2250	火	2時限	106
191	薬学部	薬学科	森田 哲生		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系	PP6BIO2200	月	1時限	114
192	薬学部	薬学科	山下 純		患者の視点に立った行動	PP6CLP4420	他	その他	131
193	薬学部	薬学科	渡邊 正知		人体の成り立ちと機能 II	PP6BIO1100	木	2時限	111
194	大学教育センター	大学教育センター	上西 幸治		TOEIC II	G02ENG1500	月	5時限	63
195	大学教育センター	大学教育センター	大塚 豊		教育制度論	QC7TTC1150	木	5時限	88
196	大学教育センター	大学教育センター	小野 太幹		基礎数学	G03NAS1153	水	2時限	40
197	大学教育センター	大学教育センター	記谷 康之		Web デザイン入門	G03NAS1901	金	4時限	138
198	大学教育センター	大学教育センター	地主 弘幸		物理現象の基礎	G03NAS1300	水	3時限	93
199	大学教育センター	大学教育センター	Tang Warren		英語 IV	G02ENG215u	金	3時限	30
200	大学教育センター	大学教育センター	津田 将行		キャリアデザイン II	G04CAE2103	木	3時限	54
201	大学教育センター	大学教育センター	中尾 佳行		英語 II	G02ENG115b	火	4時限	42
202	大学教育センター	大学教育センター	前田 吉広		キャリアデザイン I	G04CAE1106	月	3時限	198
203	大学教育センター	大学教育センター	劉 国彬		中国語 (II)	G02CHI115e	木	2時限	41
204	大学教育センター	大学教育センター	Lowes Jason		英語 IV	G02ENG2152	水	4時限	31
205	大学教育センター	大学教育センター	若松 正晃		英語 IV	G02ENG215d	月	3時限	36
206	大学教育センター	大学教育センター	赤松 頌也		フランス語 (II)	G02FRE1152	火	4時限	49
207	大学教育センター	大学教育センター	宇野 昌樹		エスニシティ論	G03HIC1600	火	2時限	116
208	大学教育センター	大学教育センター	梅木 璃子		英語 IV	G02ENG215b	火	4時限	47
209	大学教育センター	大学教育センター	上村 崇		倫理学 (2)	G03THC1300	木	4時限	69
210	大学教育センター	大学教育センター	遠藤 耕二		哲学 (2)	G03THC1150	火	4時限	78
211	大学教育センター	大学教育センター	大牛 英則		英語 II	G02ENG115c	水	3時限	43
212	大学教育センター	大学教育センター	岡田 秀一		ドローンで撮る地域の魅力	G03RST1400	火	2時限	40
213	大学教育センター	大学教育センター	崔 真英		韓国語 (II)	G02KOR1152	木	4時限	53
214	大学教育センター	大学教育センター	勝部 真人		日本史 (2)	G03HIC1152	火	3時限	81
215	大学教育センター	大学教育センター	神野 靖子		音楽	G03AHS1242	金	3時限	16
216	大学教育センター	大学教育センター	木村 真弓		ダンス	G03AHS1680	金	2時限	15
217	大学教育センター	大学教育センター	齋藤 一彦		体育 (2)	G03AHS1482	火	4時限	39
218	大学教育センター	大学教育センター	柴原 直樹		日本史 (2)	G03HIC1153	金	4時限	104
219	大学教育センター	大学教育センター	菅波 真吾		剣道 (2)	G03AHS1401	木	2時限	10
220	大学教育センター	大学教育センター	末霞 敏久		中国語 (II)	G02CHI115d	火	3時限	45

221	大学教育センター	大学教育センター	鈴木 ヘザー		英語 II	G02ENG115s	火	2時限	42
222	大学教育センター	大学教育センター	操 智		中国語 (II)	G02CHI115j	金	2時限	34
223	大学教育センター	大学教育センター	外林 省二		書道	G03AHS1123	月	4時限	29
224	大学教育センター	大学教育センター	高垣 裕子		英語IV	G02ENG215g	木	2時限	30
225	大学教育センター	大学教育センター	田中 宏和		憲法	G03SSL1154	月	4時限	91
226	大学教育センター	大学教育センター	谷川 充美		日本語表現法	G02JNE110s	金	3時限	30
227	大学教育センター	大学教育センター	張 治清		中国語 (II)	G02CHI115g	金	3時限	37
228	大学教育センター	大学教育センター	帖佐 幸樹		日本語表現法	G02JNE110t	火	4時限	25
229	大学教育センター	大学教育センター	鳥谷部 茂		市民生活と法	G03SSL1102	金	2時限	106
230	大学教育センター	大学教育センター	中越 信和		暮らしどバイオ	G03NAS1354	水	2時限	109
231	大学教育センター	大学教育センター	西村 正登		教育方法論	QC7TTC2150	木	3時限	31
232	大学教育センター	大学教育センター	橋野 仁史		絵画	G03AHS1161	木	2時限	23
233	大学教育センター	大学教育センター	藤井 昌子		日本語表現法 2	H05BDS1300	火	2時限	47
234	大学教育センター	大学教育センター	藤本 明成		陶芸	G03AHS1207	水	4時限	24
235	大学教育センター	大学教育センター	前村 晃子		ドイツ語 (II)	G02GER1151	金	1時限	53
236	大学教育センター	大学教育センター	前山 総一郎		社会学	G03SSL1350	木	2時限	125
237	大学教育センター	大学教育センター	牧 貴愛		教職概論	QC7TTC1200	火	2時限	77
238	大学教育センター	大学教育センター	溝淵 裕		憲法	G03SSL1153	火	4時限	48
239	大学教育センター	大学教育センター	森岡 悅子		英語 II	G02ENG115k	木	2時限	41
240	大学教育センター	大学教育センター	山岡 啓子		英語IV	G02ENG215i	火	4時限	32
241	大学教育センター	大学教育センター	山本 賢太郎		囲碁から学ぶ人間学 (2)	G03AHS1840	火	4時限	10
242	大学教育センター	大学教育センター	李 政樹		韓国語 (II)	G02KOR1153	木	2時限	42
243	大学教育センター	大学教育センター	Henriquez Millon Adriana Maria		英語 II	G02ENG115a	金	4時限	44
244	大学教育センター	大学教育センター	Leriget de la Plante		英語 II	G02ENG115d	火	3時限	42
245	大学教育センター	大学教育センター	Krysztof Medrzycki		英語 II	G02ENG115j	火	3時限	40
246	大学教育センター	大学教育センター	Willems Grant		英語 II	G02ENG115v	木	1時限	36
247	国際センター	国際センター	趙 建紅		日本語 (4) (留学生用科目)	G02JN11250	月	2時限	25
248	共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫		情報処理応用	G02INL1151	木	5時限	6
249	共同利用センター	共同利用センター	鶴崎 健一		暮らしどバイオ	G03NAS1353	木	1時限	190
250	IR室	IR室	片桐 重和		実用情報処理演習	TI6EXE1150	月	2時限	54
251	社会連携センター	社会連携センター	中村 雅樹		暮らしど物つくり	G03NAS1200	木	5時限	264
									17423